

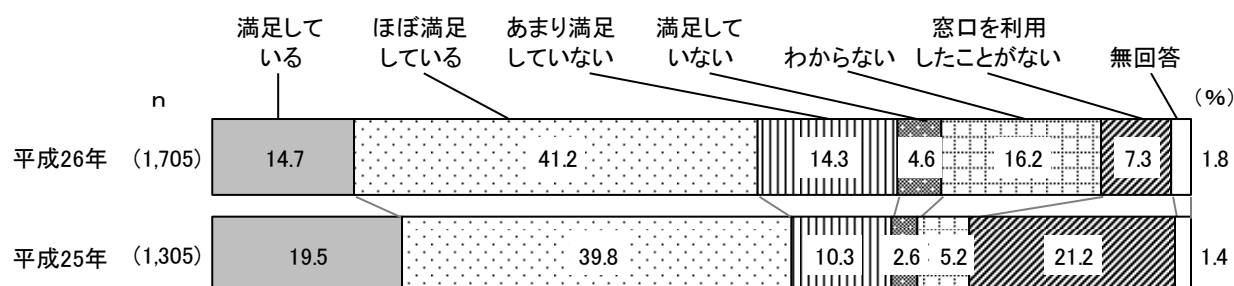
4. 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度

(1) 窓口サービスの満足度

◇《満足》が5割台半ば

問23 あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（○は1つだけ）

図4-1-1 窓口サービスの満足度－全体、経年比較

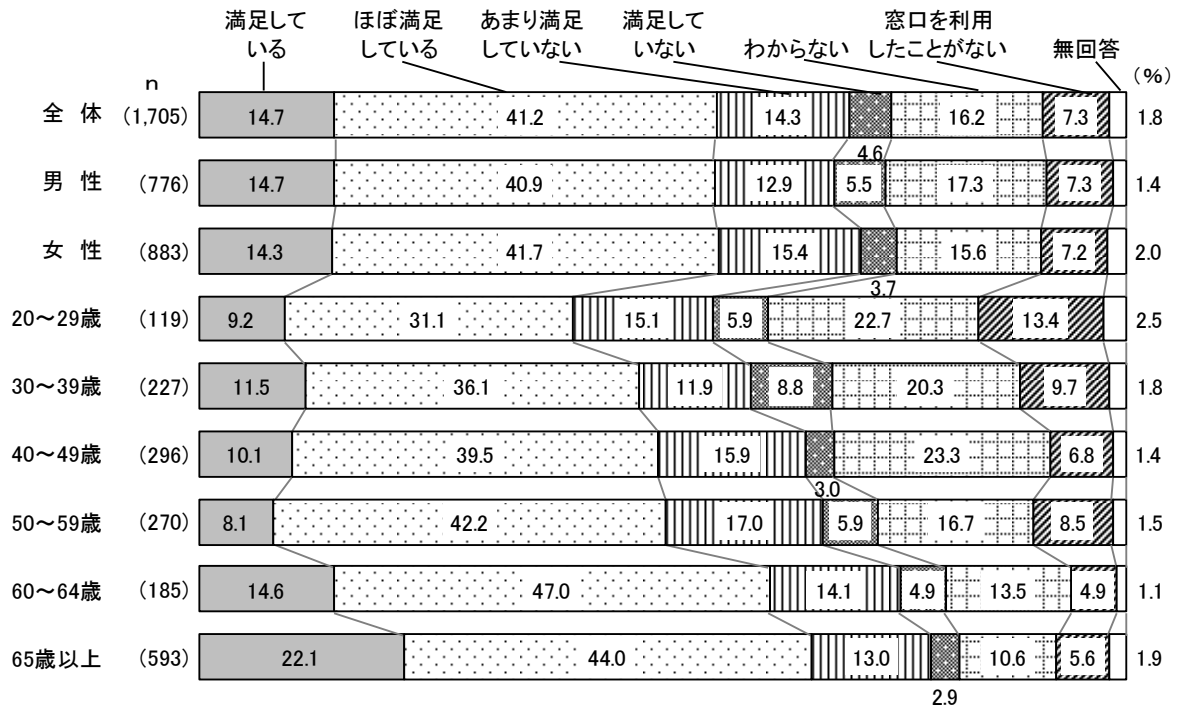


※平成25年の設問では、【あなたは、この1年間に市の窓口を利用したことはありますか】と「ある」と回答した人に対する【あなたは、市の窓口サービスに満足していますか】との二段階設問であったが、今回の調査と比較できるよう1つにまとめている。

市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）の満足度を聞いたところ、「ほぼ満足している」（41.2%）が最も多く4割強を占めている。次いで「満足している」（14.7%）、「あまり満足していない」（14.3%）、「満足していない」（4.6%）の順となっている。「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた《満足》（55.9%）は5割台半ばとなっている。また、「わからない」（16.2%）は2割近くとなっている。

前回調査と比較すると、《満足》は3.3ポイント減少している。また、「窓口を利用したことがない」は13.9ポイント減少している。（図4-1-1）

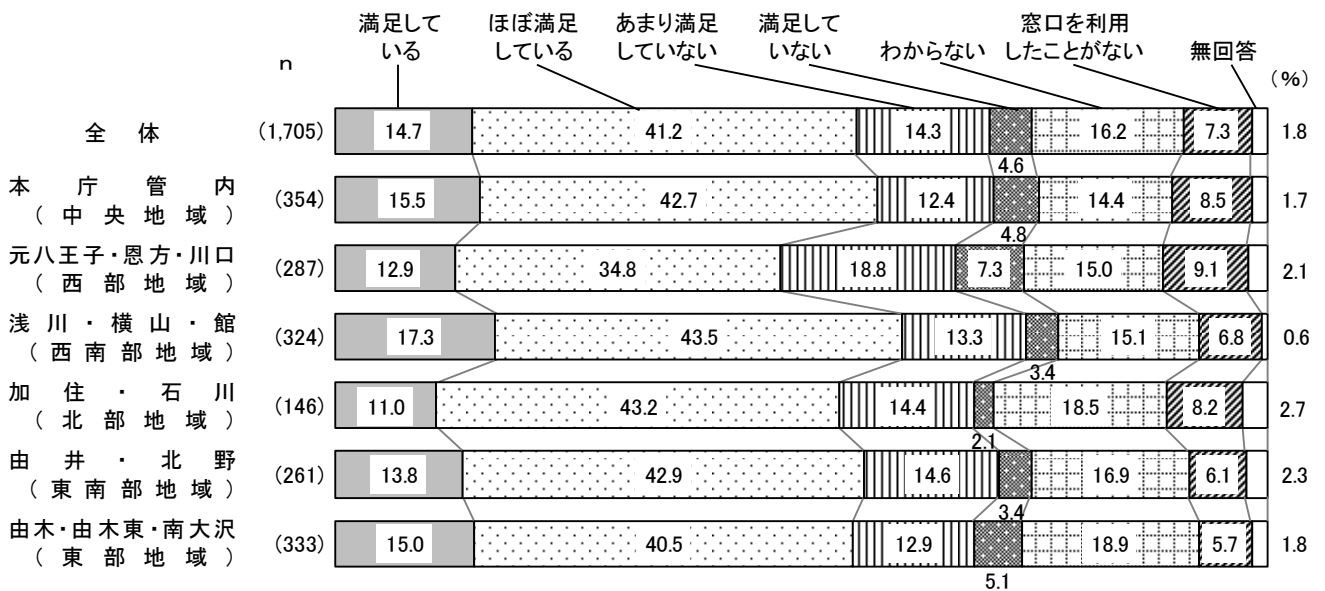
図 4-1-2 窓口サービスの満足度—性別・年齢別



性別にみると、男性と女性であまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、《満足》は年代が上がるにつれて割合が多くなり、65歳以上（66.1%）では7割近くとなっている。（図4-1-2）

図 4-1-3 窓口サービスの満足度—居住地域別



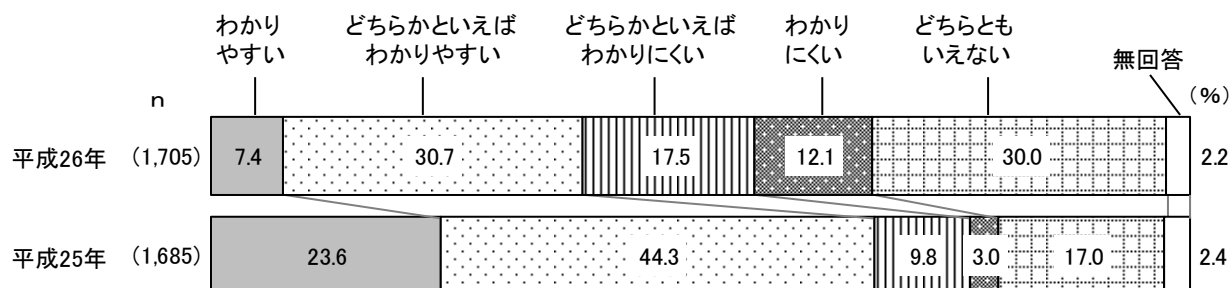
居住地域別にみると、《満足》は浅川・横山・館（西南部地域）（60.8%）で約6割と多くなっている。（図4-1-3）

(2) 市政情報のわかりやすさ

◇《わかりやすい》が4割近く

問24 市政情報が適切にわかりやすく提供されていると思いますか。(○は1つだけ)

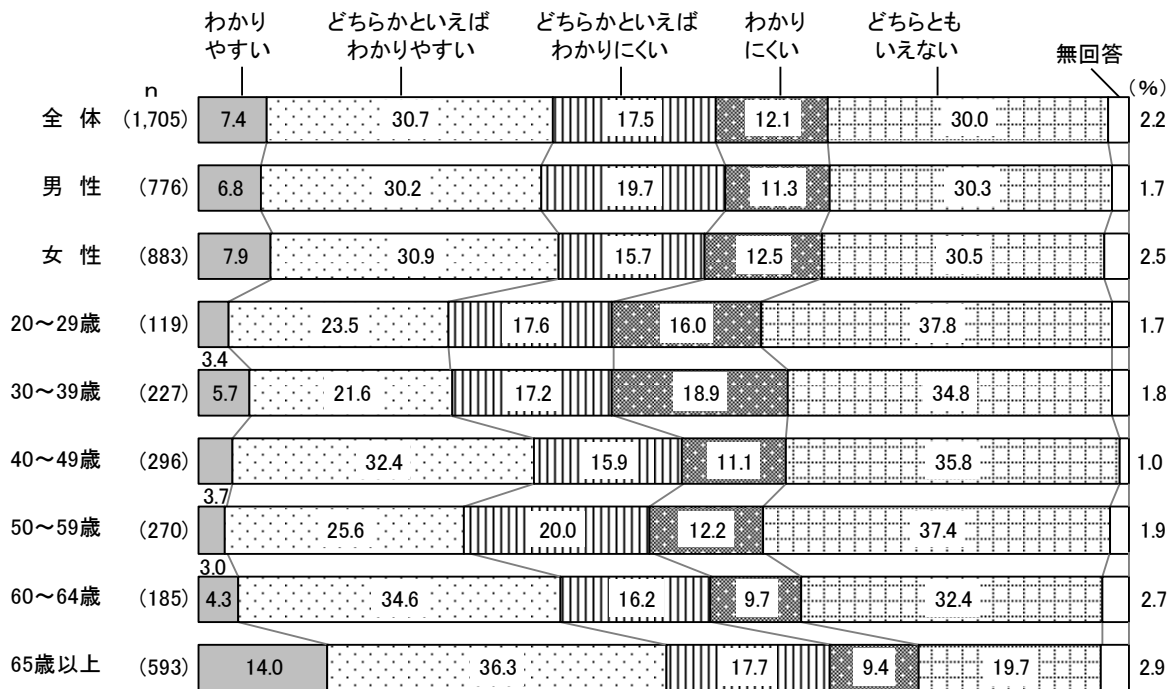
図4-2-1 市政情報のわかりやすさー全体、経年比較



市政情報が適切にわかりやすく提供されていると思うか聞いたところ、「どちらかといえばわかりやすい」(30.7%)が最も多く約3割を占めている。次いで「どちらかといえばわかりにくい」(17.5%)、「わかりにくい」(12.1%)、「わかりやすい」(7.4%)の順となっている。「わかりやすい」と「どちらかといえばわかりやすい」を合わせた《わかりやすい》(38.1%)は4割近く、「どちらかといえばわかりにくい」と「わかりにくい」を合わせた《わかりにくい》(29.6%)は3割弱となっている。「どちらともいえない」(30.0%)は3割を占めている。

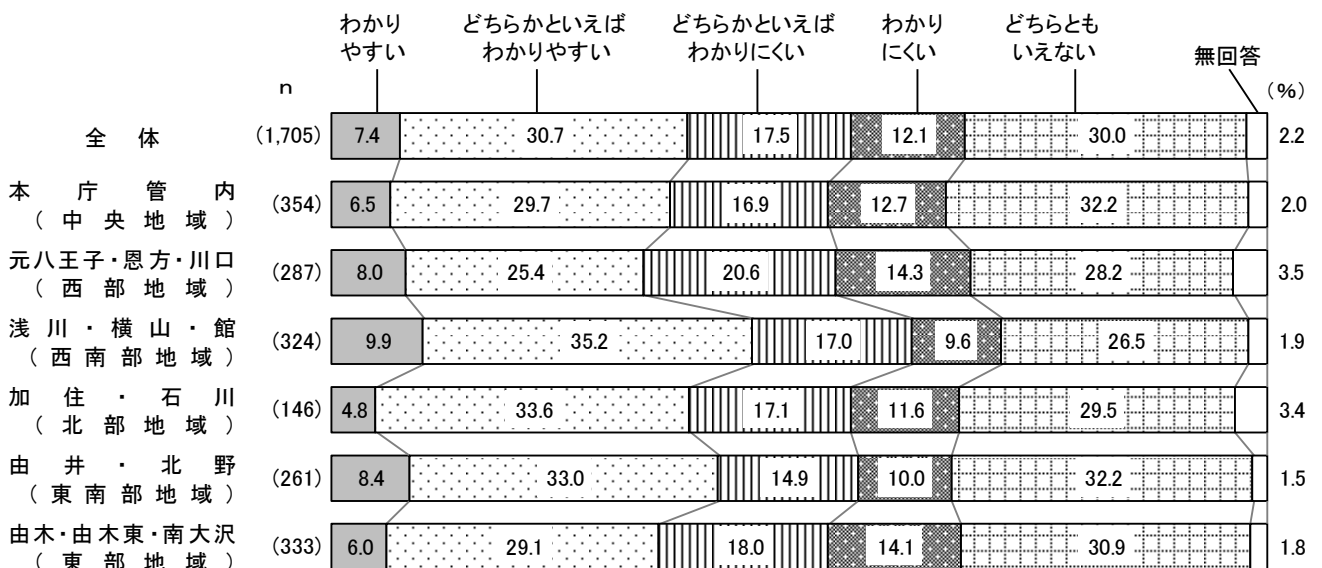
前回調査と比較すると、《わかりやすい》は29.8ポイント減少している。一方、《わかりにくい》は16.8ポイント増加している。(図4-2-1)

図 4-2-2 市政情報のわかりやすさ－性別・年齢別



性別にみると、「わかりやすい」は女性の方が男性よりも多くなっている。
 年齢別にみると、「わかりやすい」は65歳以上（50.3%）で約5割と多くなっている。
 (図 4-2-2)

図 4-2-3 市政情報のわかりやすさ－居住地域別



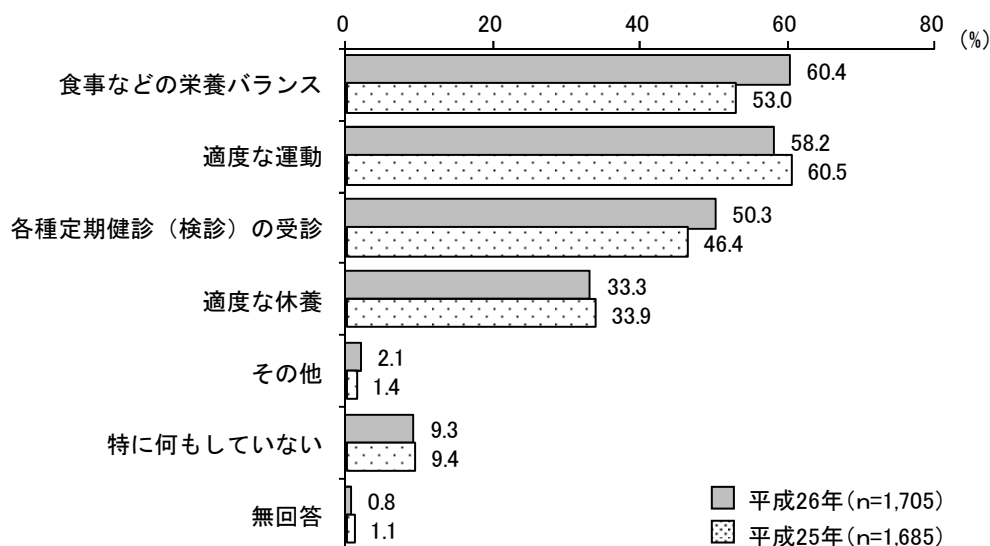
居住地域別にみると、「わかりやすい」は浅川・横山・館（西南部地域）（45.1%）で4割台半ばと多くなっている。(図 4-2-3)

(3) 健康のために心がけていること

◇「食事などの栄養バランス」が約6割

問25 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。
(○はいくつでも)

図4-3-1 健康のために心がけていることー全体、経年比較

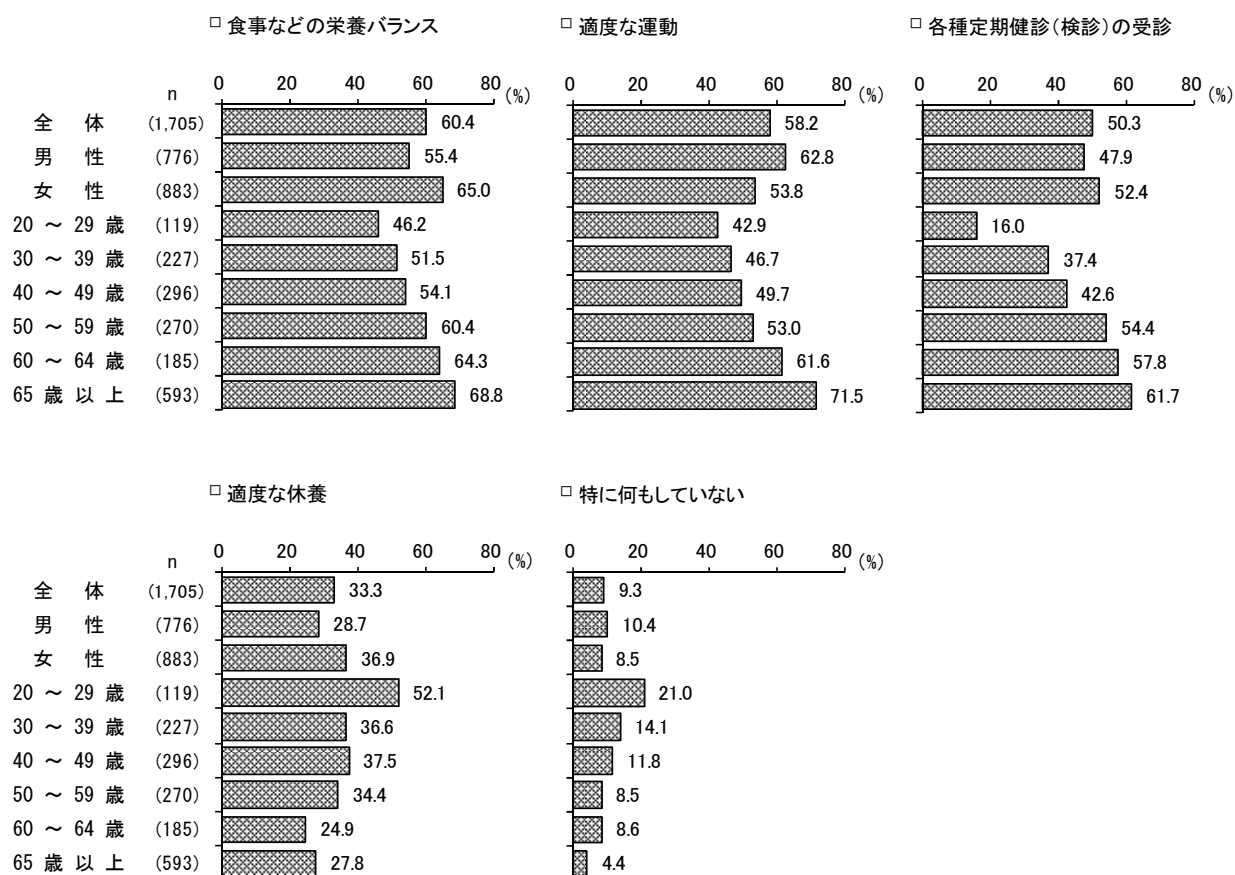


健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「食事などの栄養バランス」(60.4%)が最も多く約6割となっている。次いで「適度な運動」(58.2%)、「各種定期健診(検診)の受診」(50.3%)、「適度な休養」(33.3%)の順となっている。「特に何もしていない」(9.3%)は1割弱となっている。

前回調査と比較すると、「食事などの栄養バランス」は7.4ポイント増加している。

(図4-3-1)

図 4-3-2 健康のために心がけていることー性別・年齢別

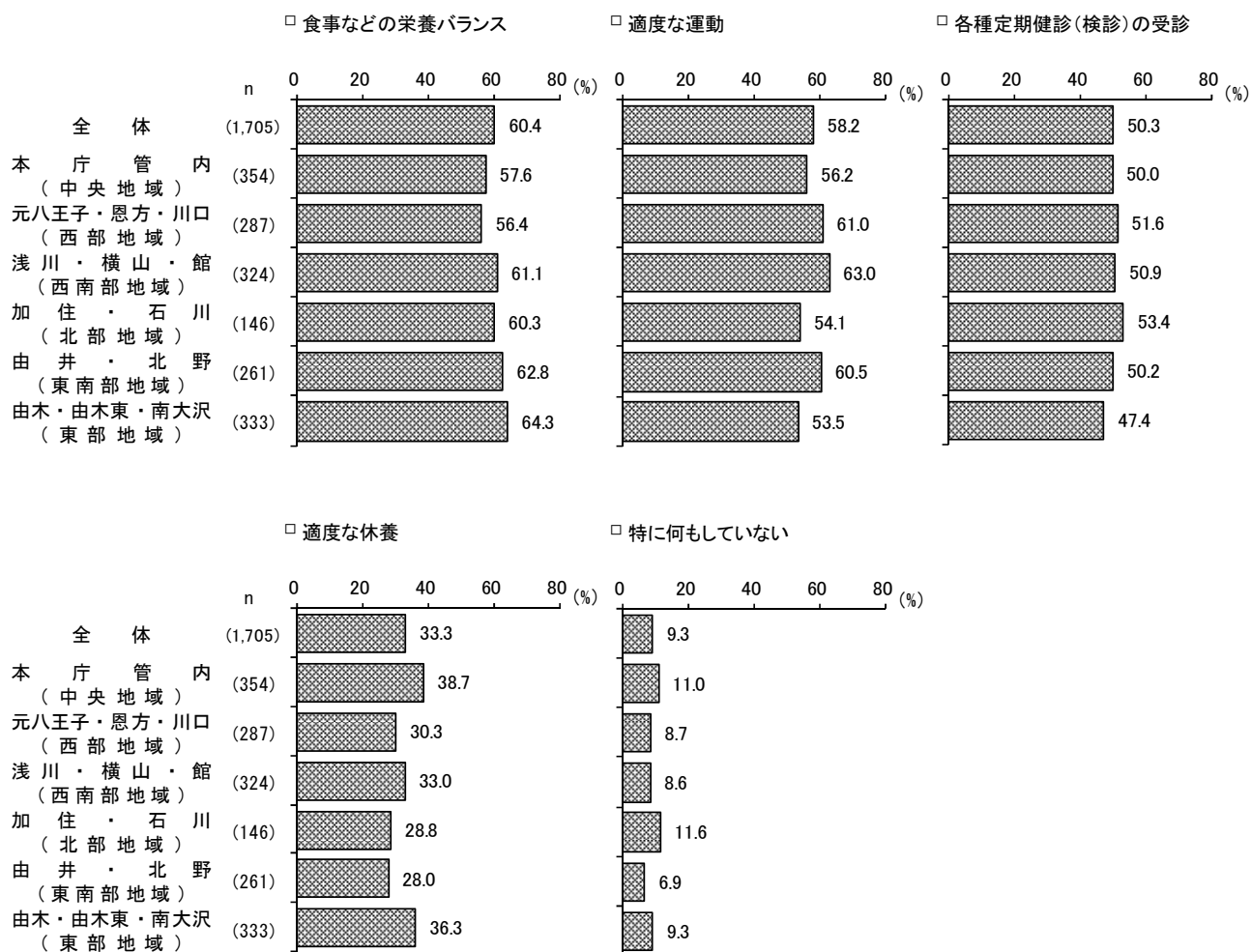


性別にみると、「適度な運動」は男性の方が女性よりも9.0ポイント高く、「食事などの栄養バランス」は女性の方が男性よりも9.6ポイント、「適度な休養」は8.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「食事などの栄養バランス」、「適度な運動」及び「各種定期健診（検診）の受診」は年代が上がるにつれて割合が多くなり、「適度な運動」は65歳以上（71.5%）で7割強となっている。一方、「適度な休養」は20~29歳（52.1%）で5割強と多くなっている。

(図 4-3-2)

図4-3-3 健康のために心がけていること—居住地地域別



居住地地域別にみると、「食事などの栄養バランス」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.3%）で6割台半ばと多くなっている。「適度な運動」は浅川・横山・館（西南部地域）（63.0%）で6割強と多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は由木・由木東・南大沢（東部地域）を除くすべての地域において5割以上と多くなっている。（図4-3-3）

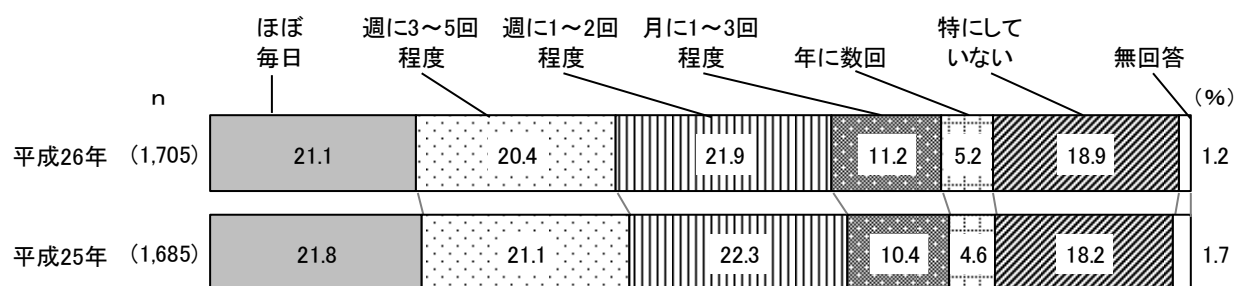
(4) 1年間の運動頻度

◇《週1回以上》が6割強

問26 あなたは、この1年間にどれくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計数をお答えください。(○は1つだけ)

※運動には、野外活動（登山やハイキングなど）や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩（散策、ペットの散歩を含む）などで1日合計30分以上行うものも含まれます。

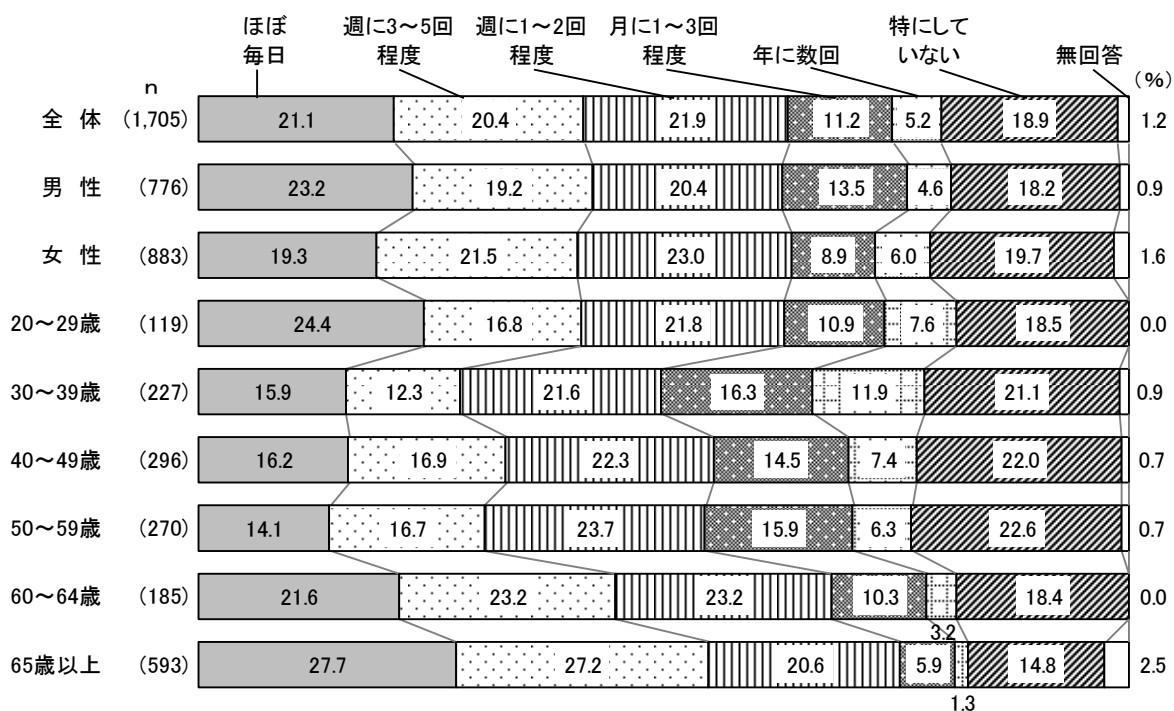
図4-4-1 1年間の運動頻度－全体、経年比較



1年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「週に1~2回程度」(21.9%)、「ほぼ毎日」(21.1%)、「週に3~5回程度」(20.4%)の割合に大きな差はなく、これらを合わせた《週1回以上》(63.4%)が6割強となっている。次いで「月に1~3回程度」(11.2%)「年に数回」(5.2%)の順となっている。「特にしていない」(18.9%)は2割近くとなっている。

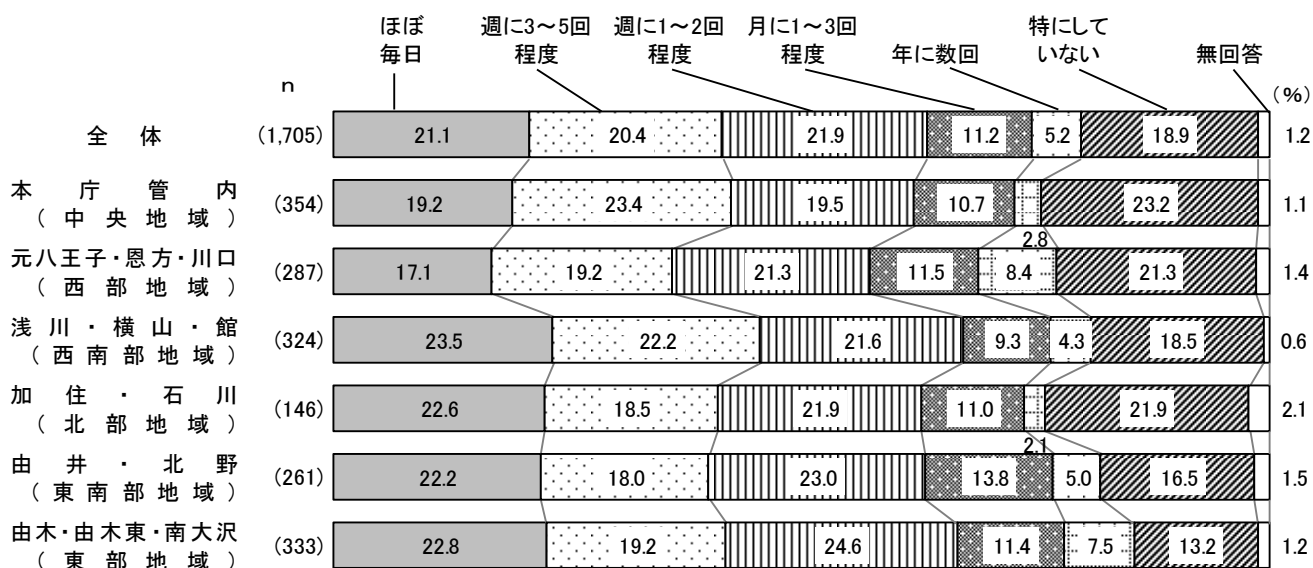
前回調査と比較すると、《週1回以上》は割合が少なくなっているが、全体的に大きな変化はみられない。(図4-4-1)

図 4-4-2 1年間の運動頻度—性別・年齢別



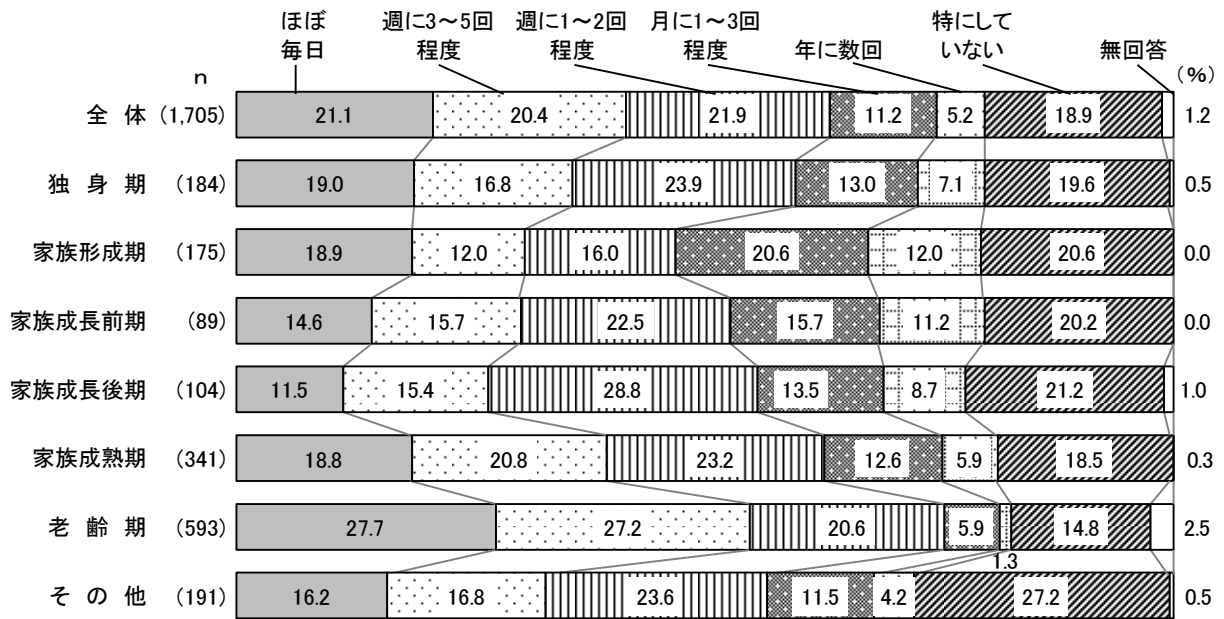
性別にみると、「月に1～3回程度」は男性の方が女性よりも4.6ポイント高くなっている。年齢別にみると、《週1回以上》は65歳以上（75.5%）で7割台半ばと多くなっている。（図4-4-2）

図 4-4-3 1年間の運動頻度—居住地域別



居住地域別にみると、《週1回以上》は浅川・横山・館（西南部地域）（67.3%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（66.6%）で7割近くと多くなっている。（図4-4-3）

図 4-4-4 1年間の運動頻度—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《週1回以上》は家族形成期から老齡期にかけて割合が多くなり、老齡期（75.5%）では7割台半ばを占めている。（図4-4-4）

(5) かかりつけの医療機関の有無

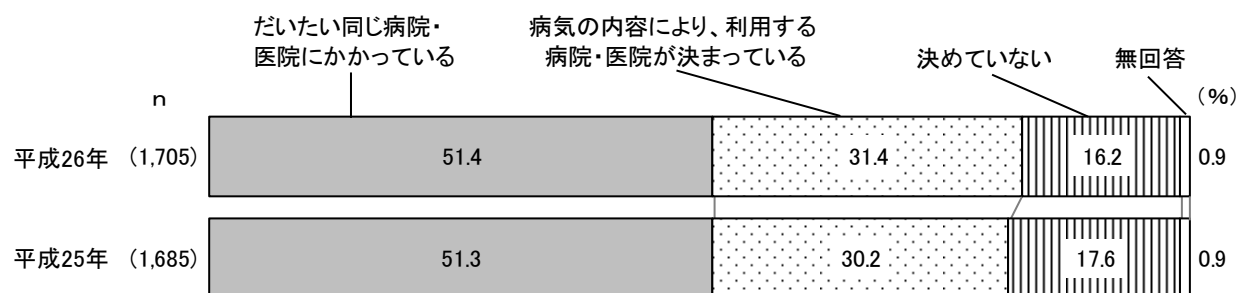
◇「だいたい同じ病院・医院にかかっている」が5割強

問27 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

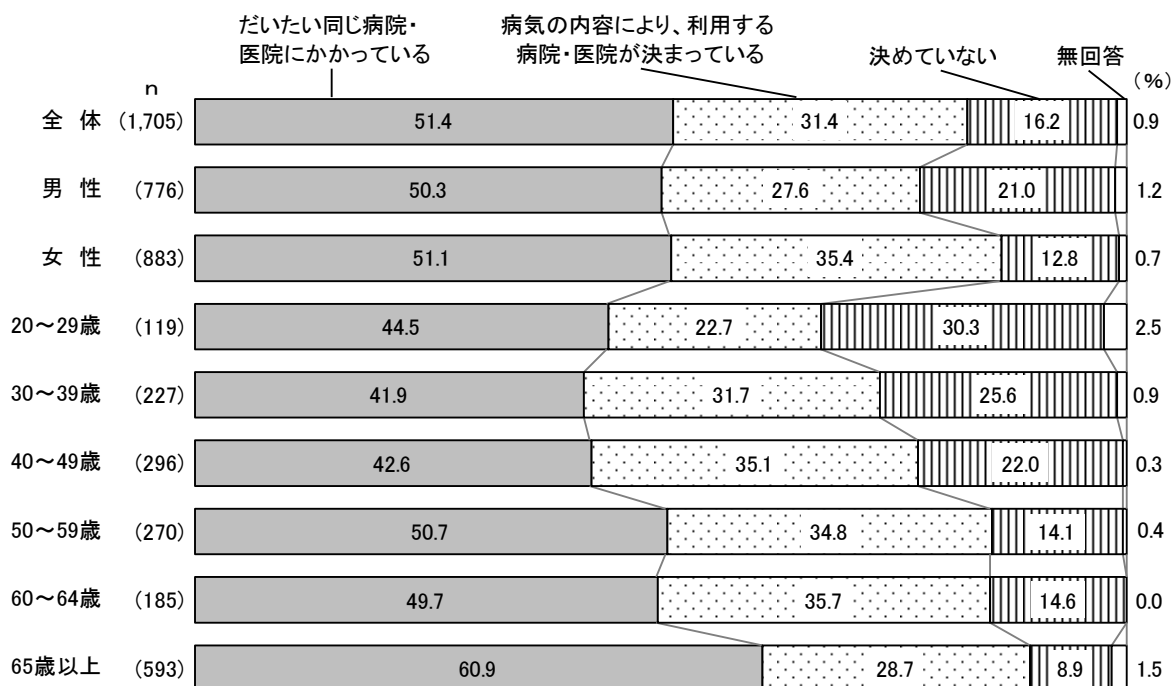
図4-5-1 かかりつけの医療機関の有無－全体、経年比較



かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(51.4%)が最も多く5割強を占めている。「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(31.4%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》(82.8%)は8割強となっている。一方、「決めていない」(16.2%)は2割近くとなっている。

前回調査と比較すると、《かかりつけの医療機関を決めている》は割合が多くなっているが、全体的に大きな変化はみられない。(図4-5-1)

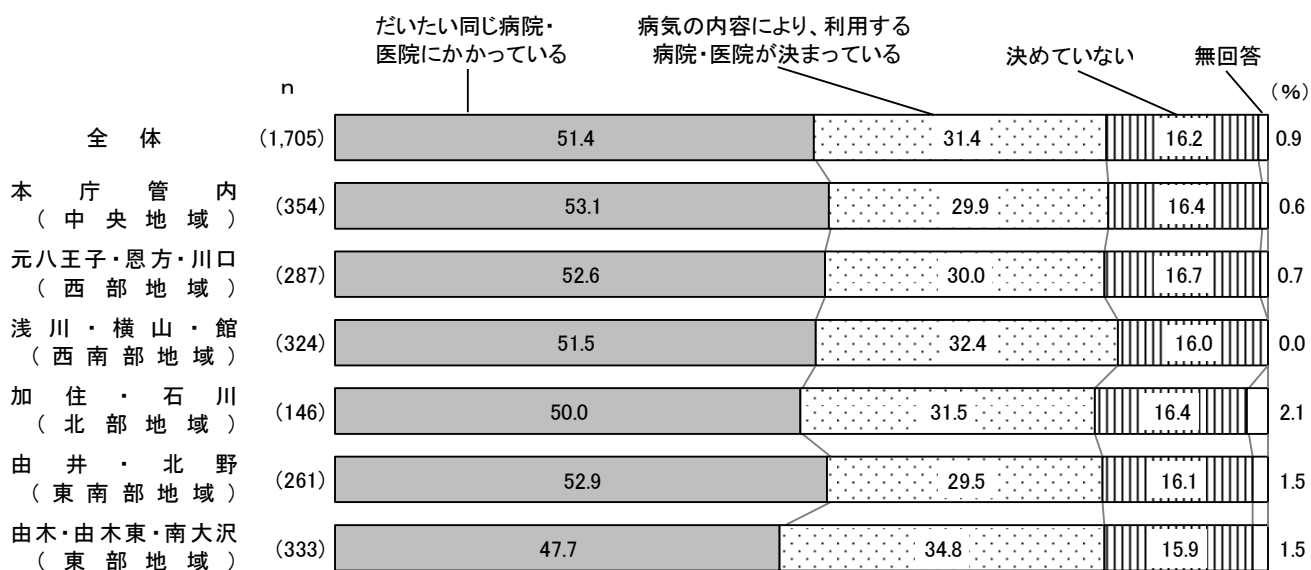
図 4-5-2 かかりつけの医療機関の有無－性別・年齢別



性別にみると、「かかりつけの医療機関を決めている」は女性の方が男性よりも8.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「かかりつけの医療機関を決めている」は年代が上がるにつれておおむね割合が多くなり、65歳以上（89.6%）では9割弱を占めている。（図 4-5-2）

図 4-5-3 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



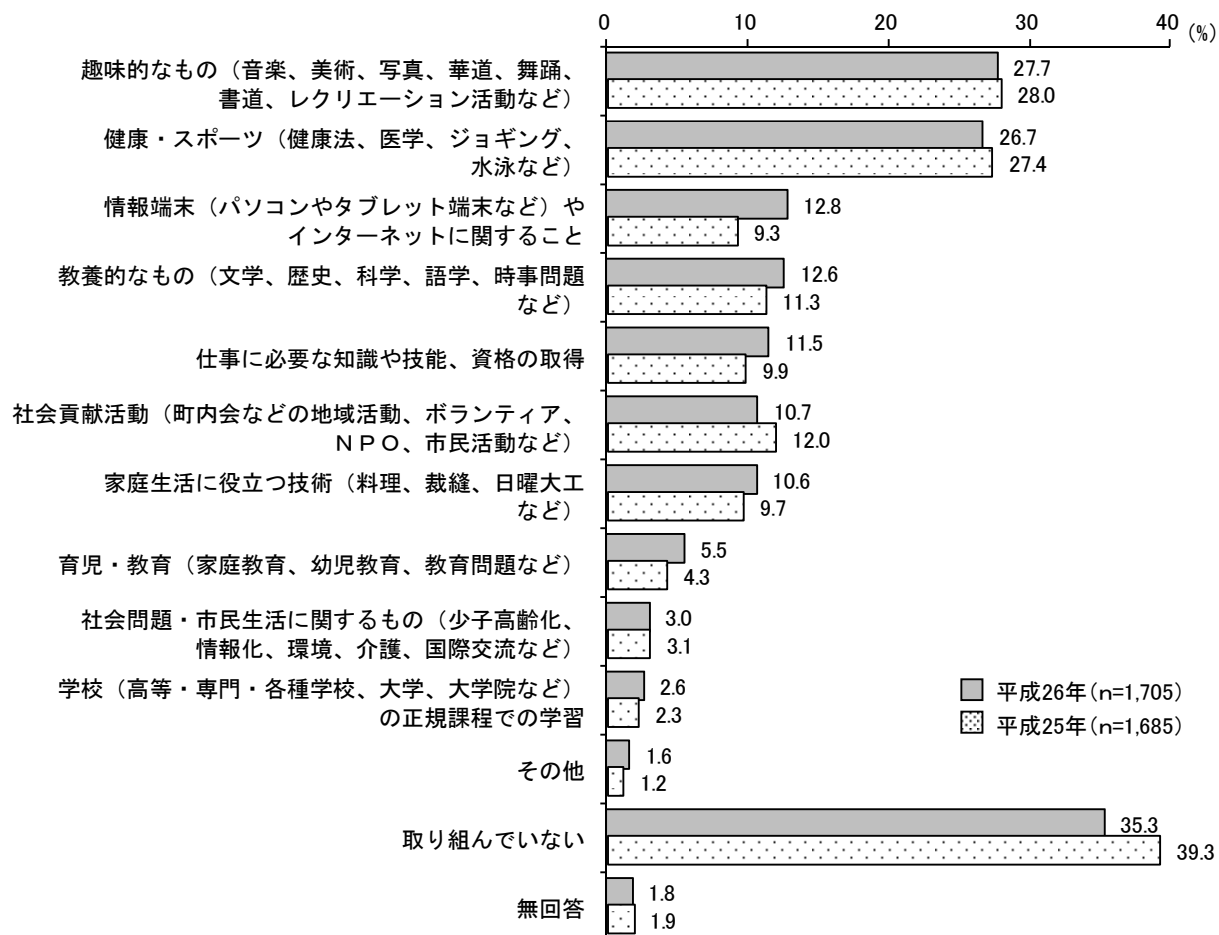
居住地域別にみると、すべての地域において「かかりつけの医療機関を決めている」が8割強を占めている。（図 4-5-3）

(6) 1年間に取り組んだ生涯学習活動

◇「趣味的なもの」「健康・スポーツ」が3割近く

問28 あなたはこの1年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。
(○はいくつでも)

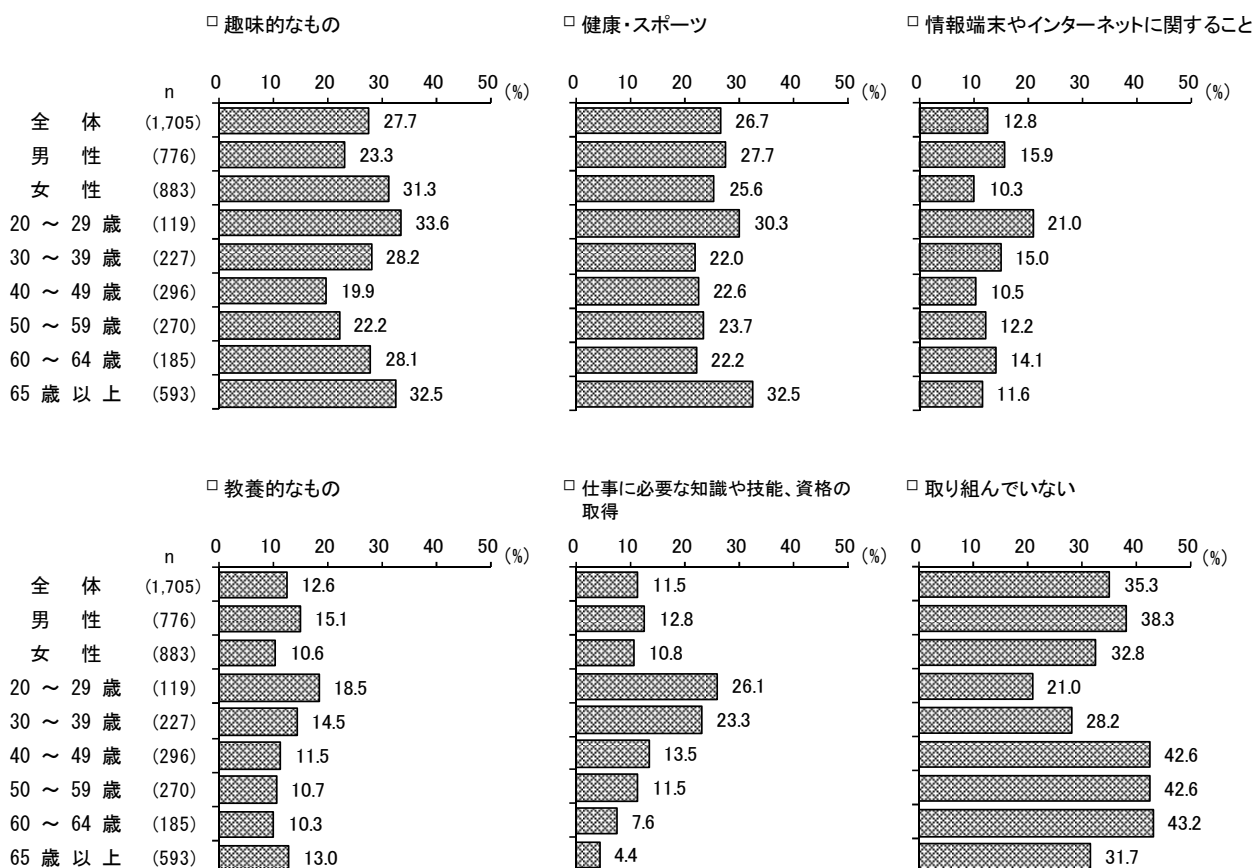
図4-6-1 1年間に取り組んだ生涯学習活動—全体、経年比較



1年間に、どのような生涯学習活動に取り組んだか聞いたところ、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」(27.7%)と「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」(26.7%)が3割近くと多くなっている。次いで「情報端末(パソコンやタブレット端末など)やインターネットに関すること」(12.8%)、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学、時事問題など)」(12.6%)、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」(11.5%)などの順となっている。

前回調査と比較すると「情報端末(パソコンやタブレット端末など)やインターネットに関すること」は3.5ポイント増加している。(図4-6-1)

図 4-6-2 1年間に取り組んだ生涯学習活動—性別・年齢別（上位5位+「取り組んでいない」）

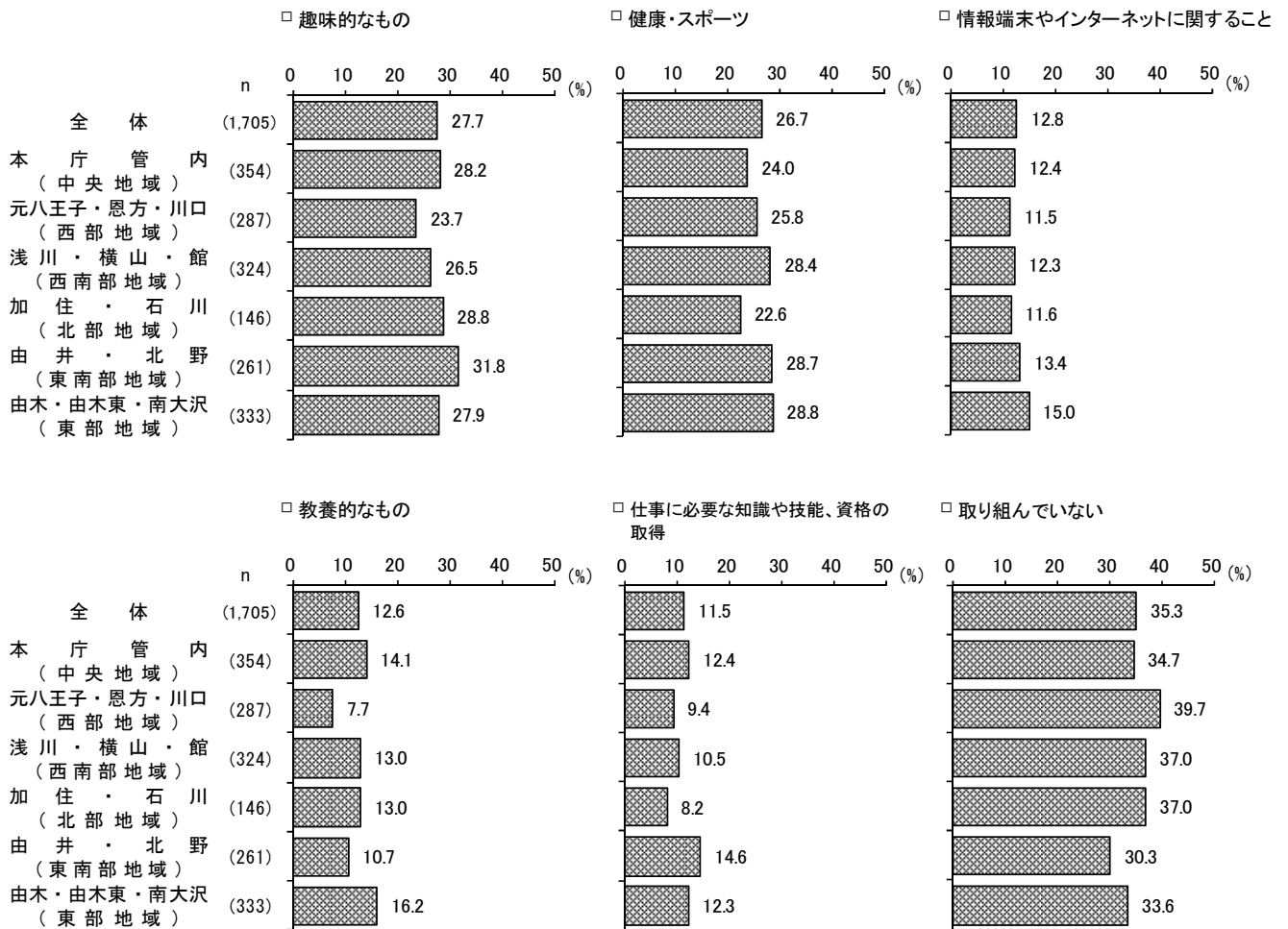


性別にみると、「情報端末（パソコンやタブレット端末など）やインターネットに関すること」は男性の方が女性よりも5.6ポイント高く、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は女性の方が男性よりも8.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」は20～29歳（30.3%）と65歳以上（32.5%）で3割以上と、他の年代と比較して多くなっている。「情報端末（パソコンやタブレット端末など）やインターネットに関すること」は20～29歳（21.0%）で2割強と多くなっている。また、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は年代が若くなるほど割合が多くなり、20～29歳（26.1%）では3割近くとなっている。一方、「取り組んでいない」は40～49歳（42.6%）、50～59歳（42.6%）及び60～64歳（43.2%）で4割強となっている。

（図 4-6-2）

図4-6-3 1年間に取り組んだ生涯学習活動—居住地域別（上位5位+「取り組んでいない」）



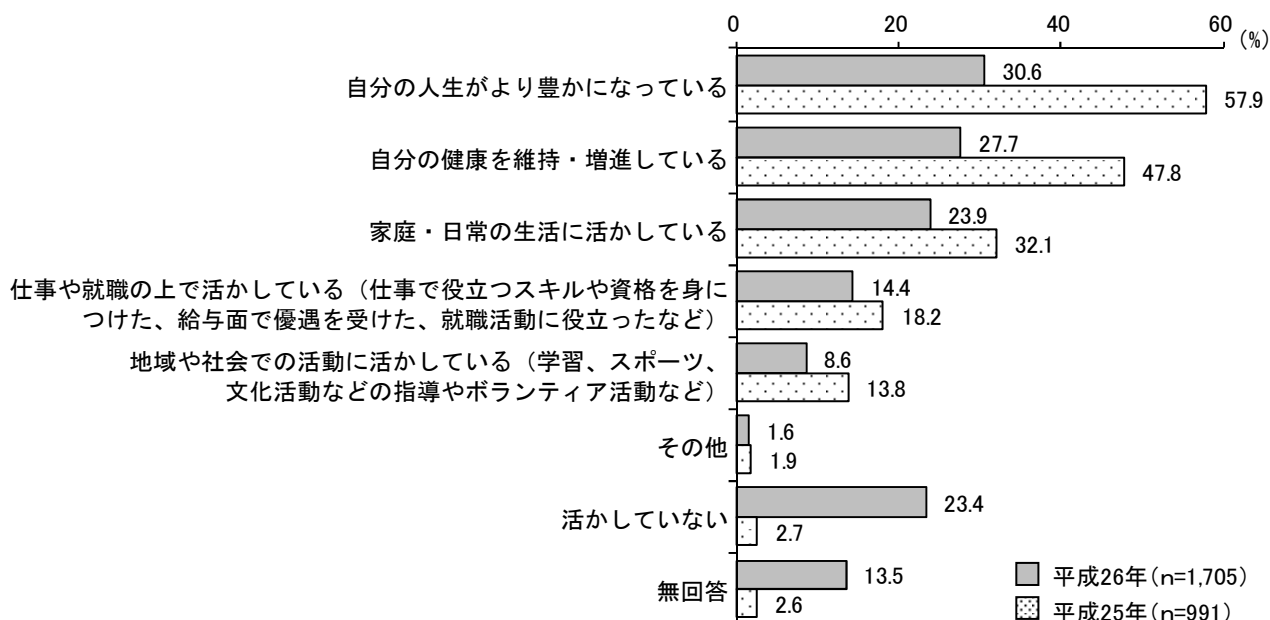
居住地域別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は由井・北野（東南部地域）（31.8%）で3割強と多くなっている。また、「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」は浅川・横山・館（西南部地域）（28.4%）、由井・北野（東南部地域）（28.7%）及び由木・由木東・南大沢（東部地域）（28.8%）で3割近くと多くなっている。一方、「取り組んでいない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（39.7%）で4割弱と多くなっている。（図4-6-3）

(7) 知識や技能、経験の活かし方

◇「自分の人生がより豊かになっている」が約3割

問29 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。(〇はいくつでも)

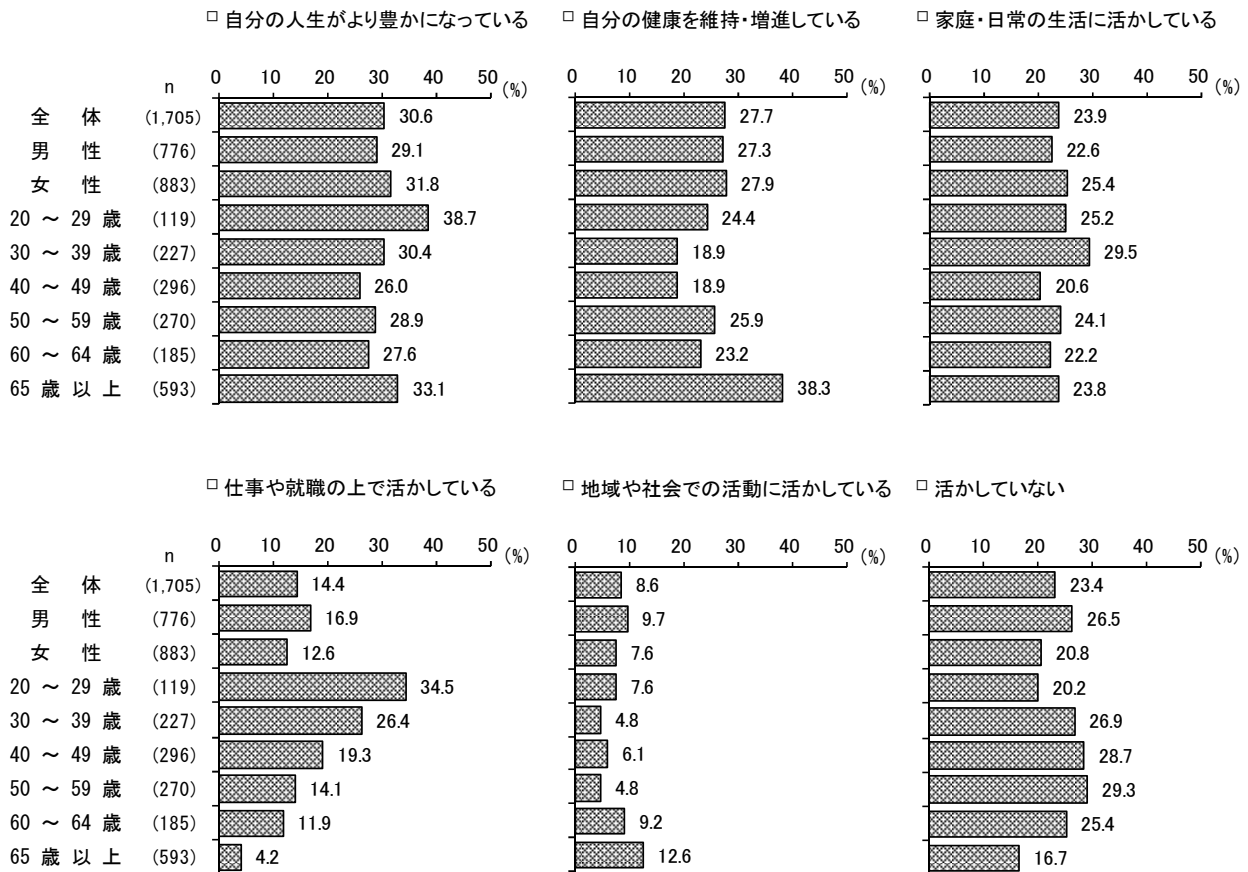
図4-7-1 知識や技能・経験の活かし方—全体、経年比較



生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」(30.6%)が最も多く約3割となっている。次いで「自分の健康を維持・増進している」(27.7%)、「家庭・日常生活に活かしている」(23.9%)、「仕事や就職の上で活かしている」(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)(14.4%)、「地域や社会での活動に活かしている」(学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など)(8.6%)の順となっている。一方、「活かしていない」(23.4%)は2割強となっている。

前回調査と比較すると、すべての項目について減少しており、特に差が大きい項目は、「自分の人生がより豊かになっている」は27.3ポイント、「自分の健康を維持・増進している」は20.1ポイントと減少している。(図4-7-1)

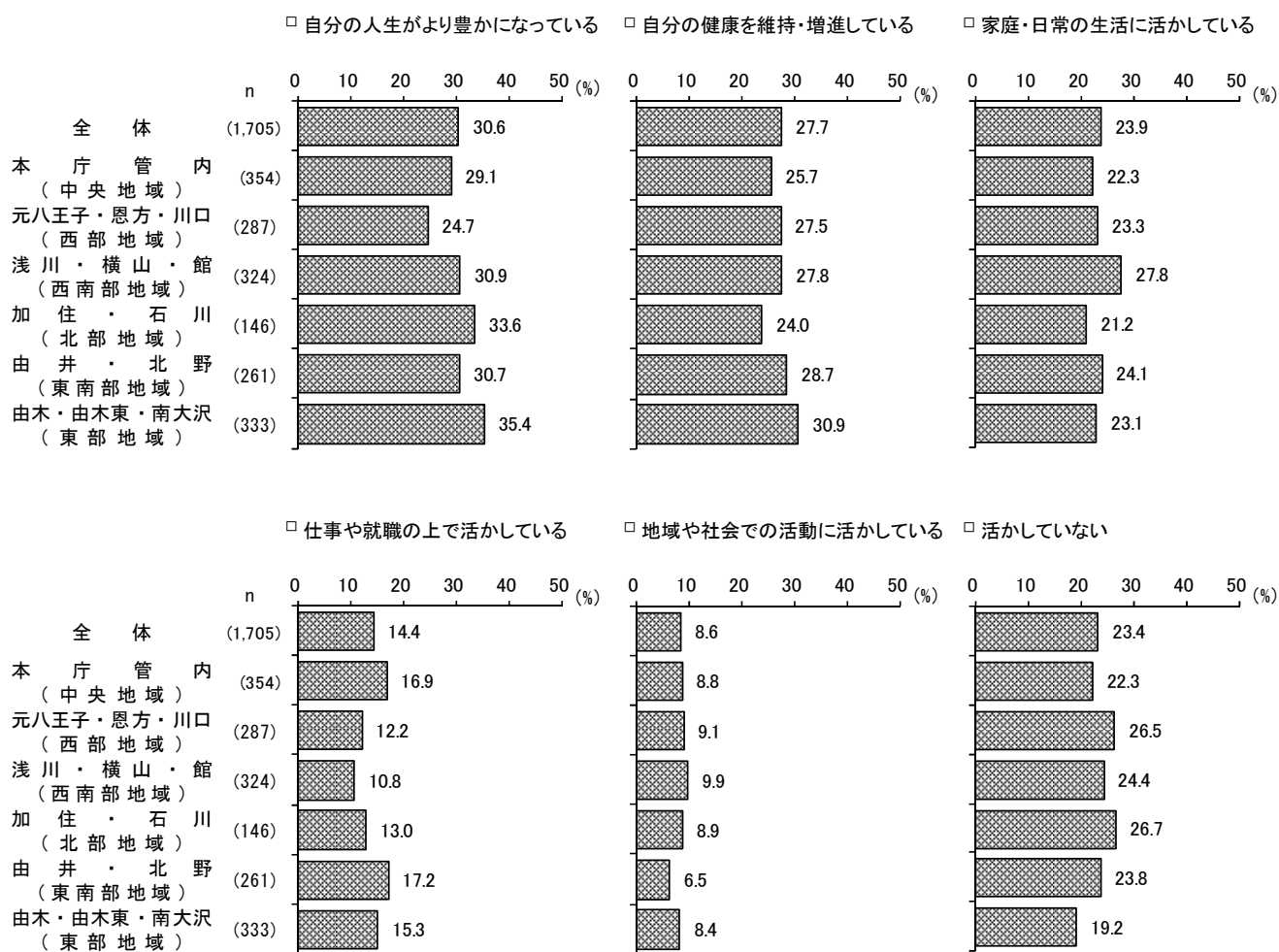
図 4-7-2 知識や技能・経験の活かし方—性別・年齢別



性別にみると、「仕事や就職の上で活かしている」は男性の方が女性よりも4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は20～29歳（38.7%）で、「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上（38.3%）で、4割近くと多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は30～39歳（29.5%）で3割弱と多くなっている。また、「仕事や就職の上で活かしている」は年齢が若いほど割合が多くなり、20～29歳（34.5%）では3割台半ばとなっている。（図 4-7-2）

図4-7-3 知識や技能・経験の活かし方—居住地域別



居住地域別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（35.4%）で3割台半ば、「自分の健康を維持・増進している」も由木・由木東・南大沢（東部地域）（30.9%）で約3割と、他の地域と比較して多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は浅川・横山・館（西南部地域）（27.8%）で3割近くと多くなっている。

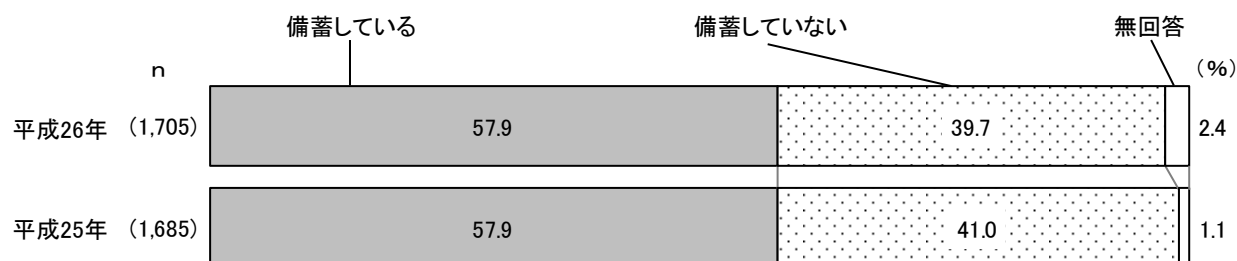
(図4-7-3)

(8) 食料の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割近く

問30 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄していますか。(○は1つだけ)

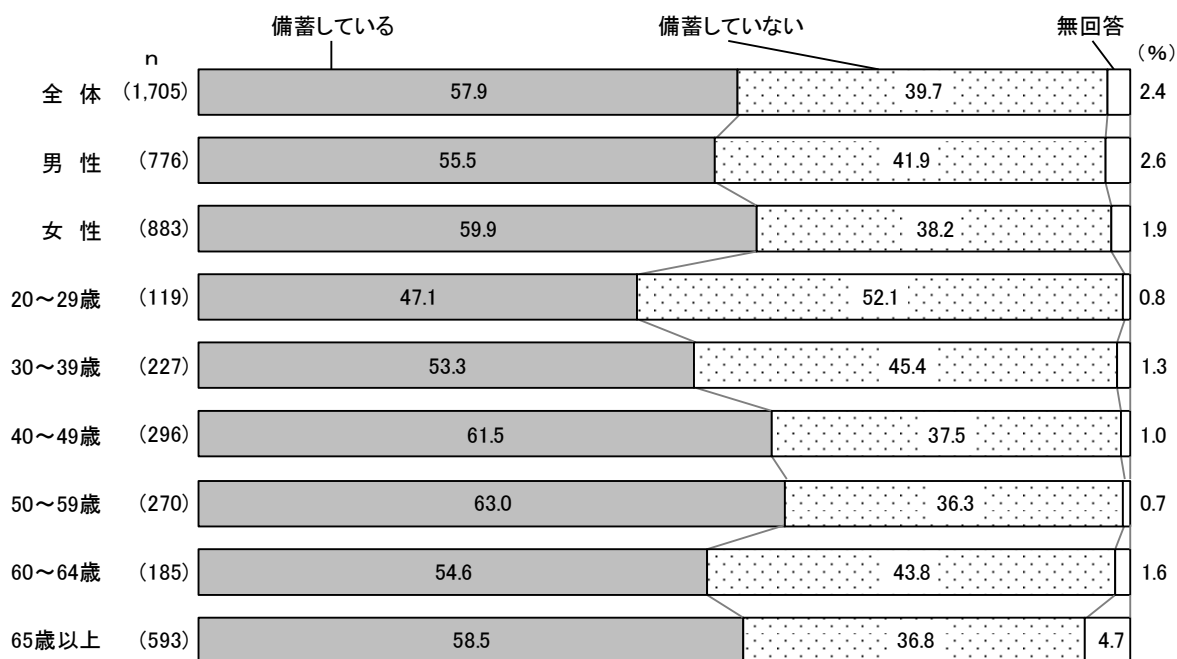
図4-8-1 食料の備蓄の有無－全体、経年比較



家庭で食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(57.9%)が6割近く、「備蓄していない」(39.7%)が4割弱となっている。

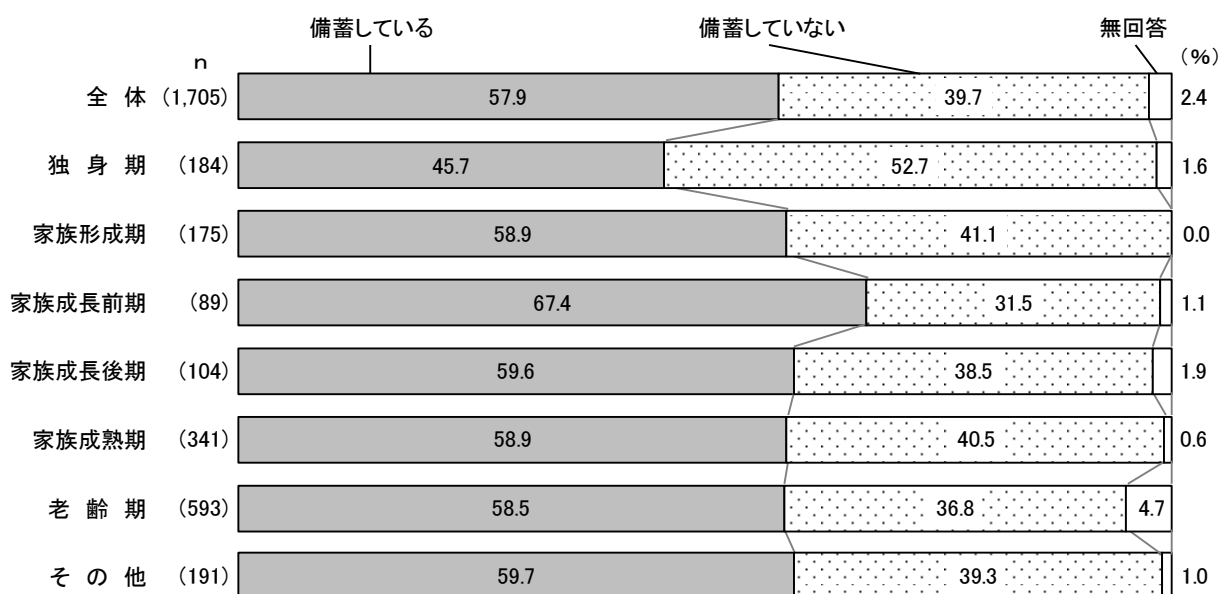
前回調査と比較すると、変化はみられない。(図4-8-1)

図 4-8-2 食料の備蓄の有無－性別・年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性の方が男性よりも4.4ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「備蓄している」は40～49歳（61.5%）と50～59歳（63.0%）で6割強と多くなっている。（図4-8-2）

図 4-8-3 食料の備蓄の有無－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長前期（67.4%）で7割近くを占めている。（図4-8-3）

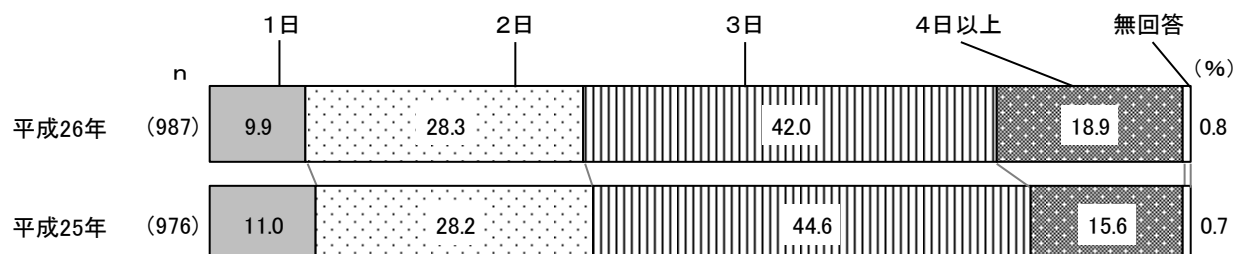
(9) 食料の備蓄量

◇「3日」が4割強

(食料を「1 備蓄している」とお答えの方に)

問30-1-1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

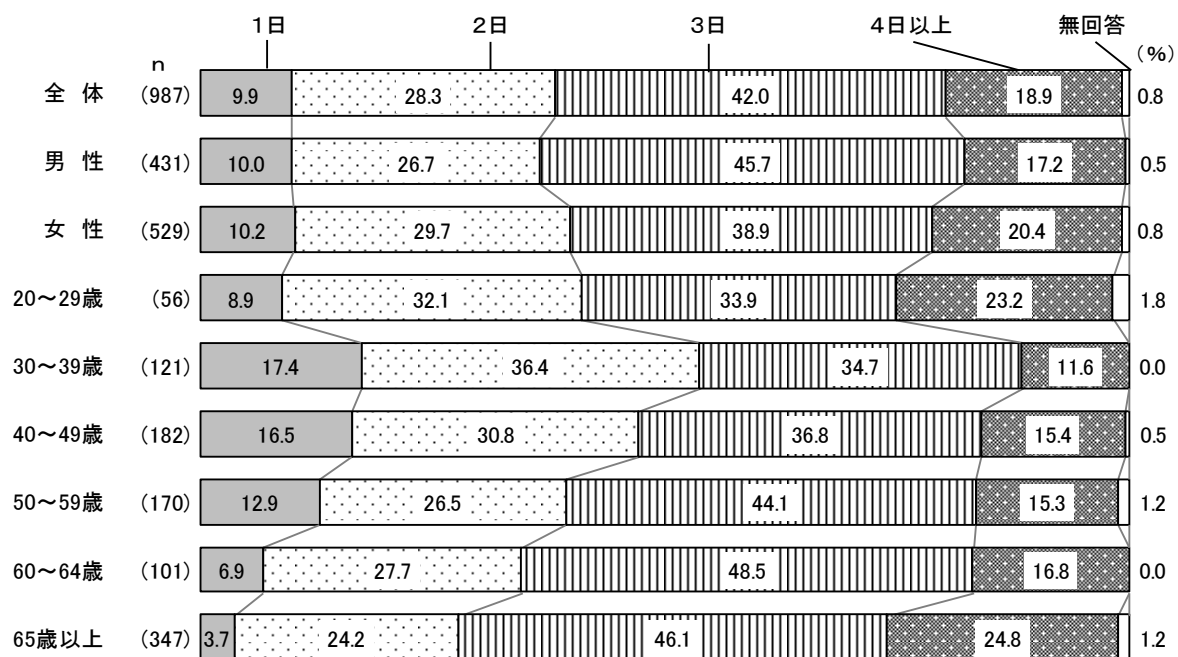
図4-9-1 食料の備蓄量－全体、経年比較



食料を「備蓄している」と回答した987人に、家族が何日間過ごせる分の食糧を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(42.0%)が最も多く4割強となっている。次いで「2日」(28.3%)、「4日以上」(18.9%)、「1日」(9.9%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「4日以上」は3.3ポイント高くなっている。(図4-9-1)

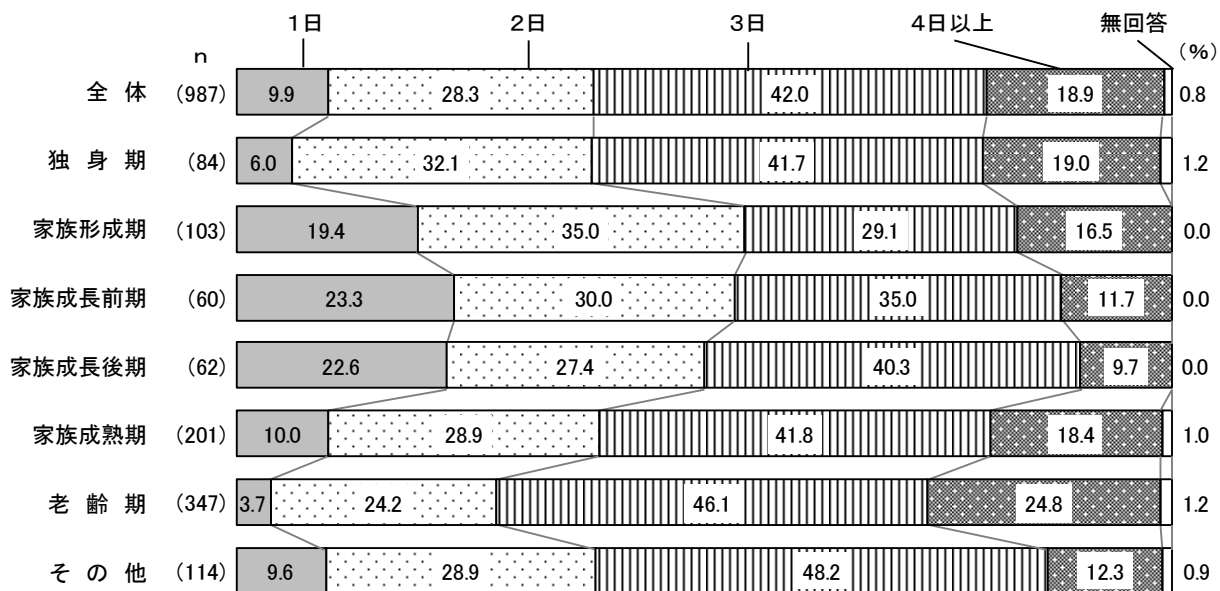
図 4-9-2 食料の備蓄量－性別・年齢別



性別にみると、「3日」は男性の方が女性よりも6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「4日以上」は20～29歳（23.2%）と65歳以上（24.8%）で2割以上と多くなっている。（図4-9-2）

図 4-9-3 食料の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「3日」は老齡期（46.1%）で5割近くと多くなっている。

（図4-9-3）

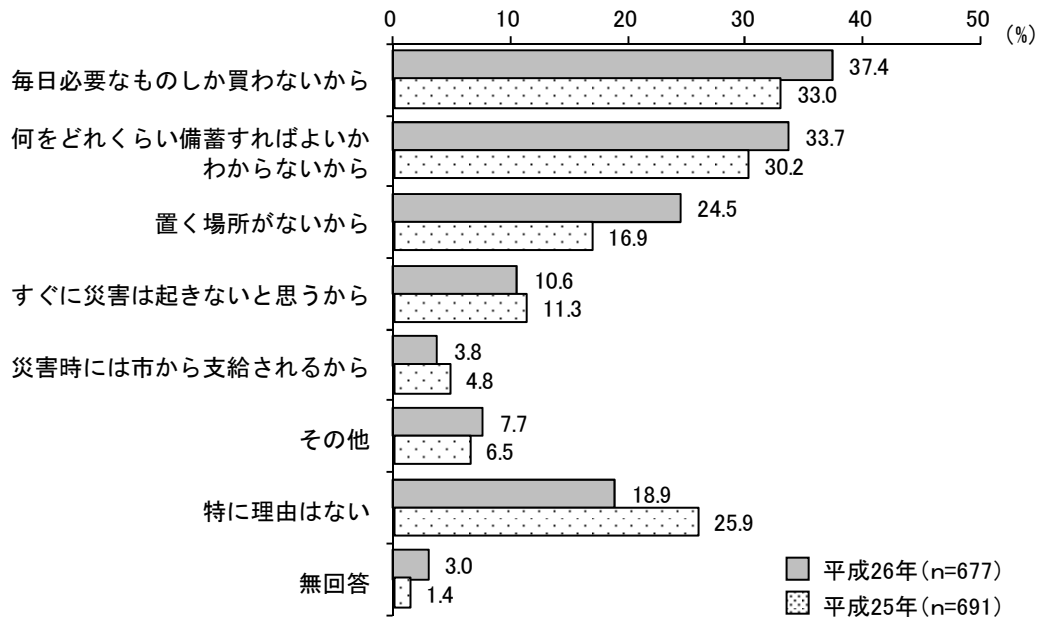
(10) 食料を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が4割近く

(食料を「2 備蓄していない」とお答えの方に)

問30-1-2 備蓄していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

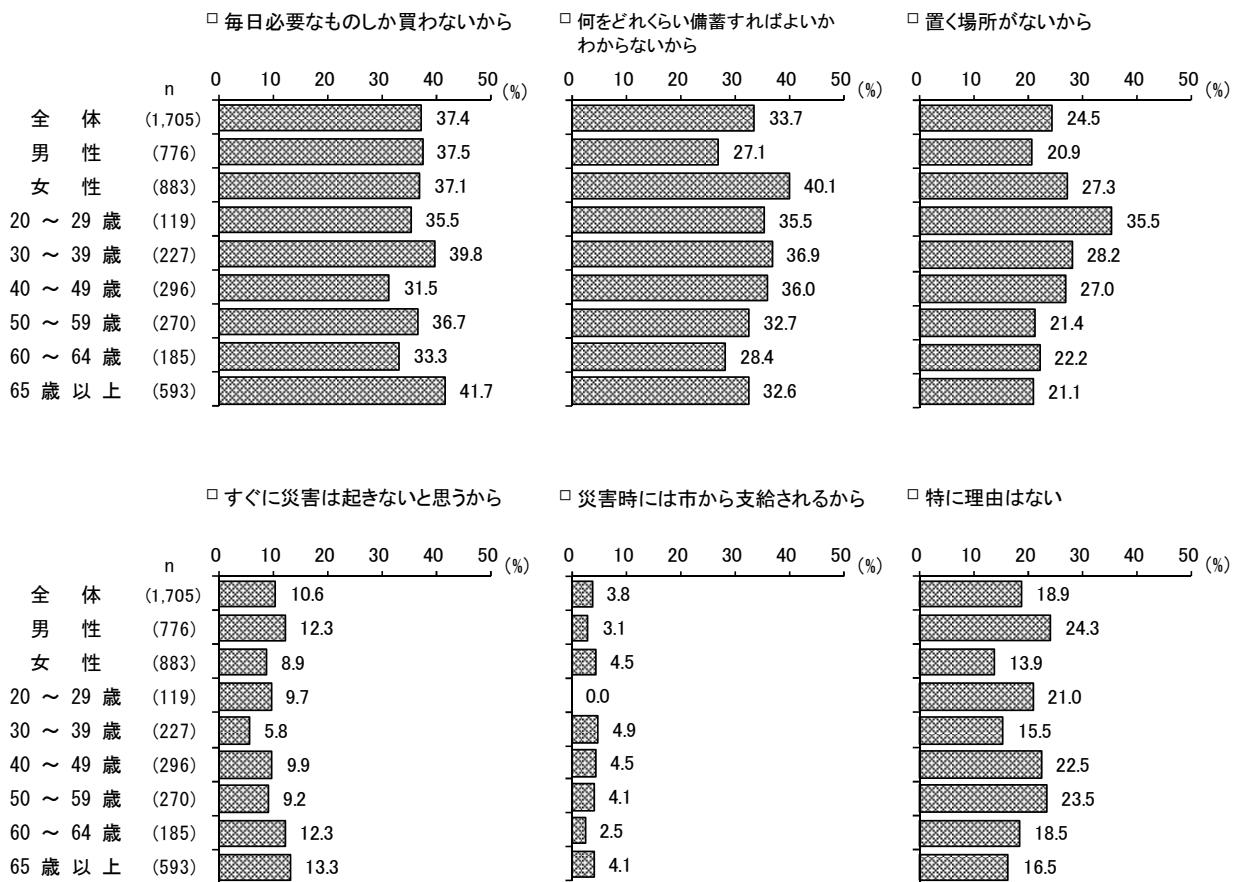
図4-10-1 食料を備蓄していない理由－全体、経年比較



食料を「備蓄していない」と回答した677人に、食糧を備蓄していない理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(37.4%)が最も多く4割近くとなっている。次いで「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(33.7%)、「置く場所がないから」(24.5%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(10.6%)、「災害時には市から支給されるから」(3.8%)の順となっている。「特に理由はない」(18.9%)は2割近くとなっている。

前回調査と比較すると、「置く場所がないから」は7.6ポイント増加している。(図4-10-1)

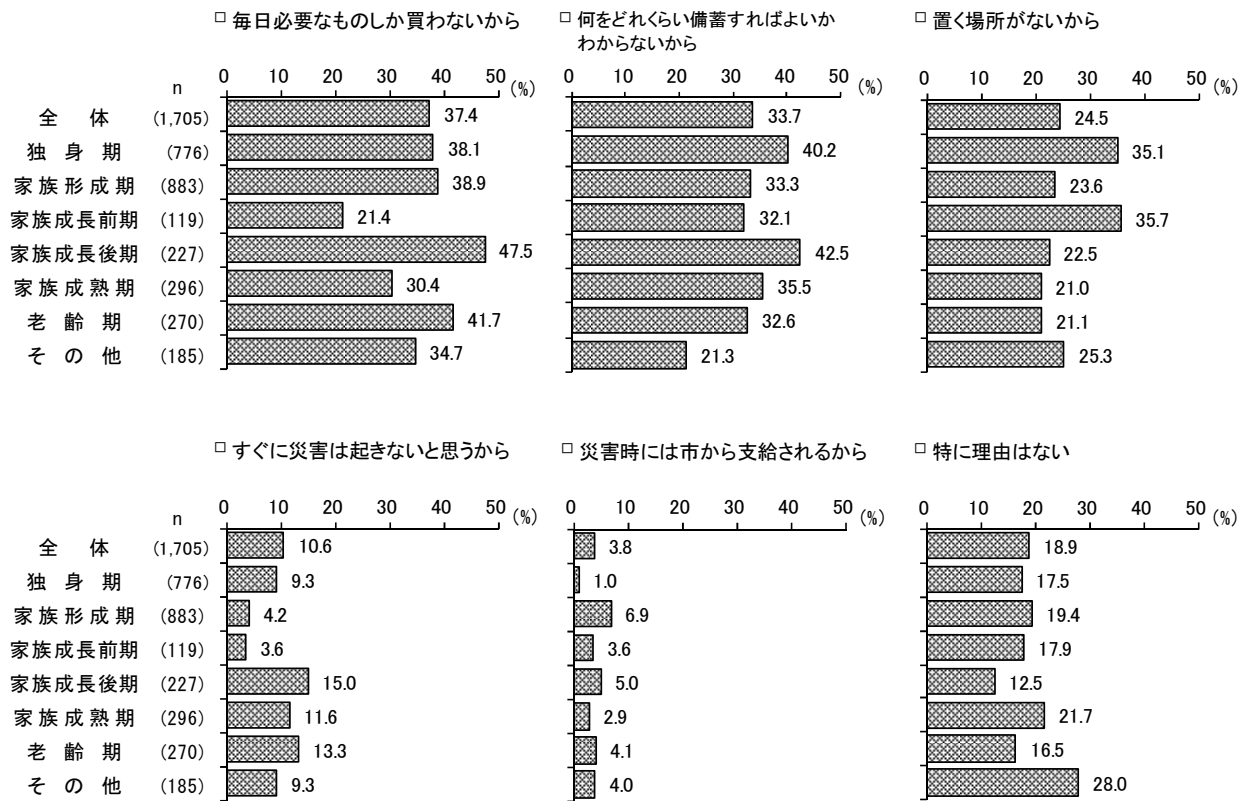
図 4-10-2 食料を備蓄していない理由—性別・年齢別



性別にみると、「特に理由はない」は男性の方が女性よりも10.4ポイント高く、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性の方が男性よりも13.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は65歳以上（41.7%）で4割強と多くなっている。「置く場所がないから」は20～29歳（35.5%）で3割台半ばと、他の年代と比較して多くなっている。（図 4-10-2）

図 4-10-3 食料を備蓄していない理由－ライフステージ別



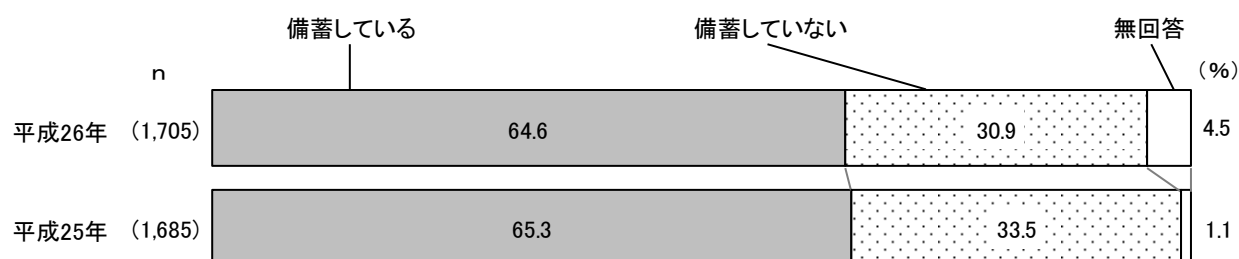
ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族成長後期（47.5%）で5割近くと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は独身期（40.2%）と家族成長後期（42.5%）で4割以上、「置く場所がないから」は独身期（35.1%）と家族成長前期（35.7%）で3割台半ばと、他の年代と比較して多くなっている。（図 4-10-3）

(11) 飲料水の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割台半ば

問30 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

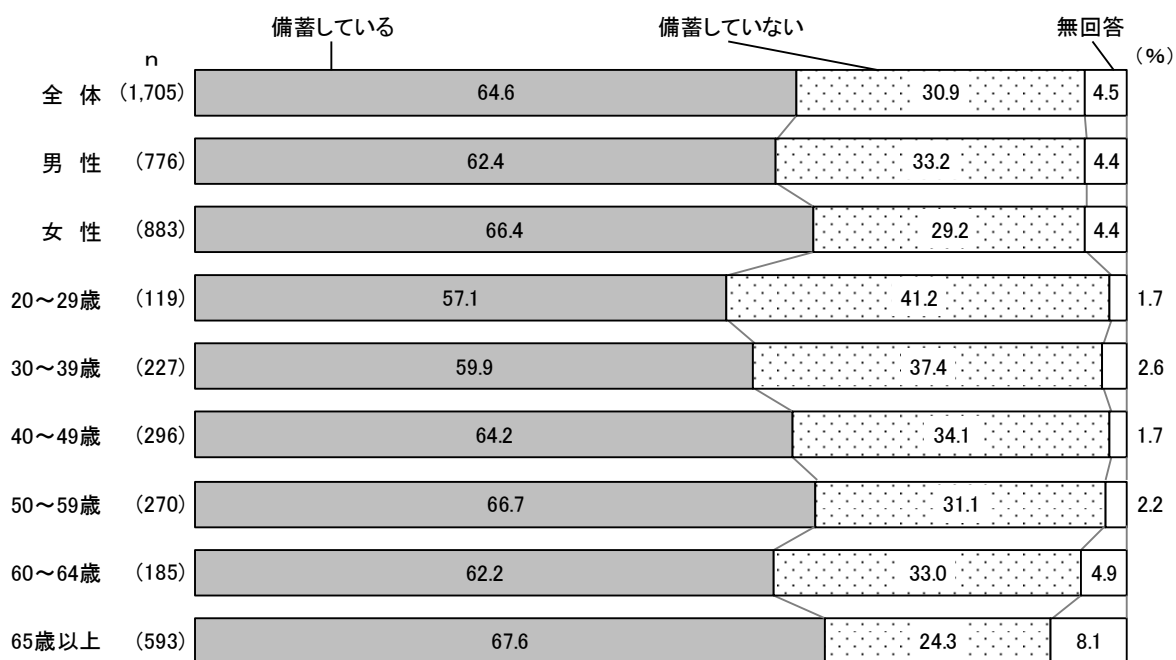
図4-11-1 飲料水の備蓄の有無－全体、経年比較



家庭で飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(64.6%)が6割台半ば、「備蓄していない」(30.9%)が約3割となっている。

前回調査と比較すると、「備蓄していない」は割合が少なくなっているが、大きな変化はみられない。(図4-11-1)

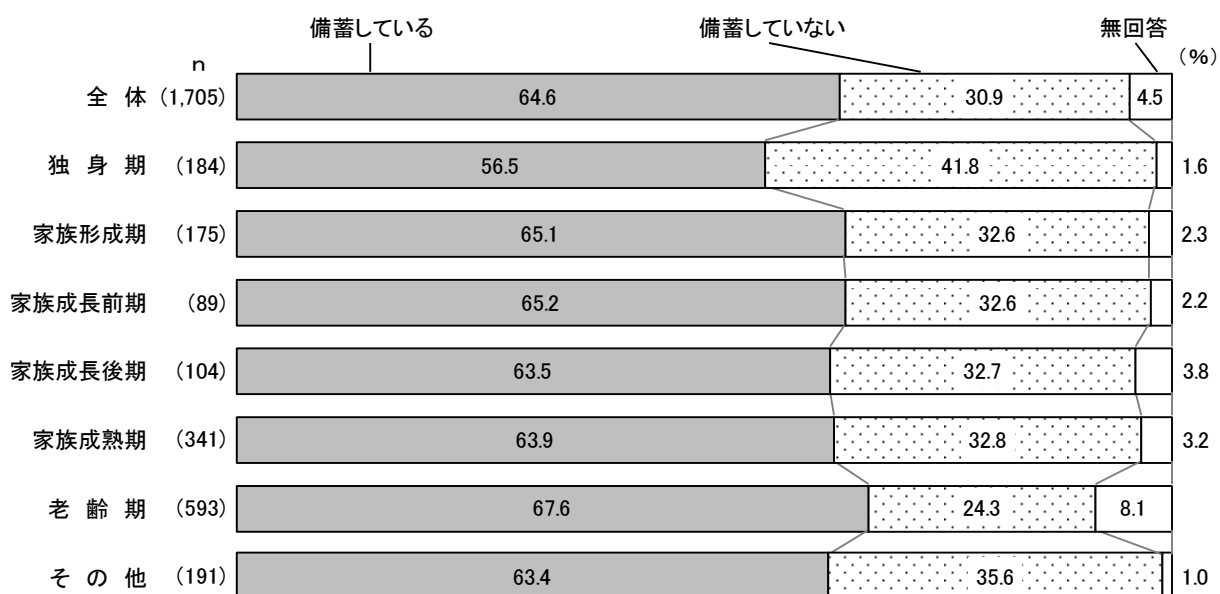
図 4-11-2 飲料水の備蓄の有無－性別・年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性の方が男性よりも4.0ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「備蓄している」は50～59歳（66.7%）と65歳以上（67.6%）で7割近くと多くなっている。

（図 4-11-2）

図 4-11-3 飲料水の備蓄の有無－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は独身期を除くすべてのライフステージで6割以上と多く、老齢期（67.6%）では7割近くを占めている。（図 4-11-3）

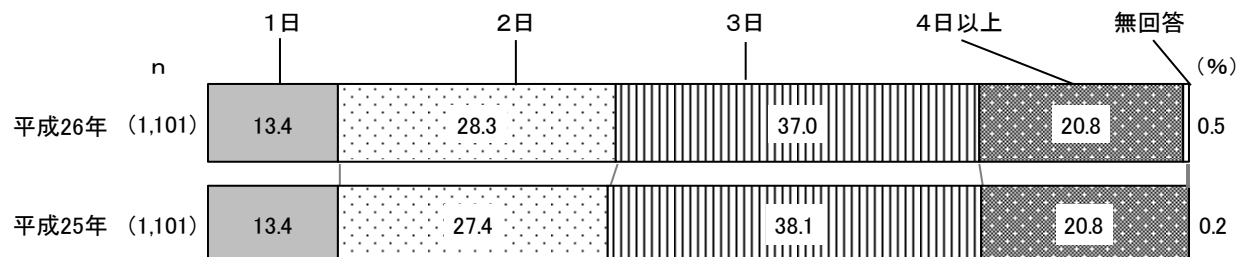
(12) 飲料水の備蓄量

◇ 「3日」が4割近く

(飲料水を「1 備蓄している」とお答えの方に)

問30-2-1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

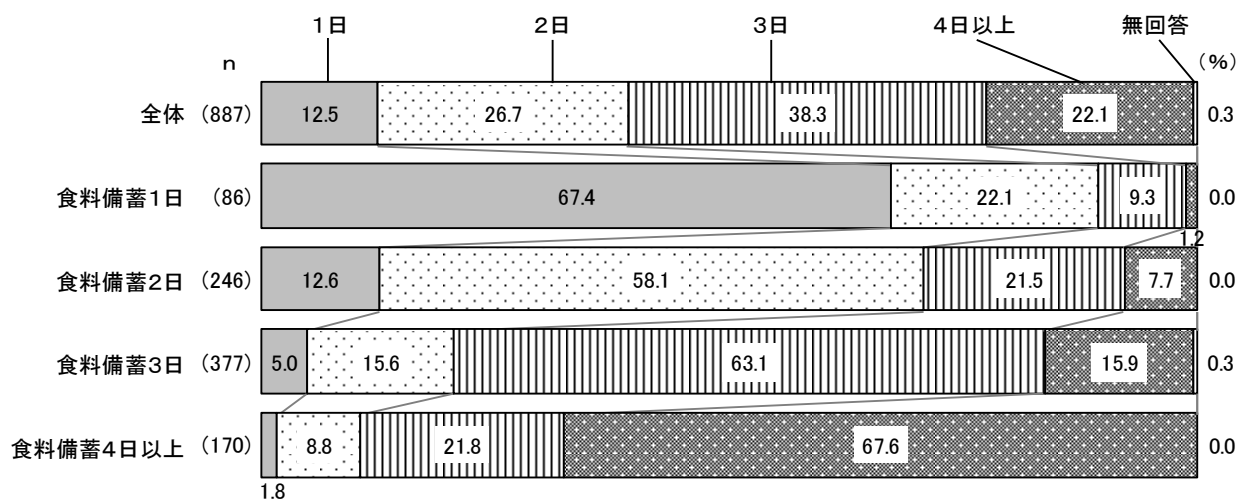
図 4-12-1 飲料水の備蓄量－全体、経年比較



飲料水を「備蓄している」と回答した1,101人に、家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(37.0%)が最も多く4割近くを占めている。次いで「2日」(28.3%)、「4日以上」(20.8%)、「1日」(13.4%)の順となっている。

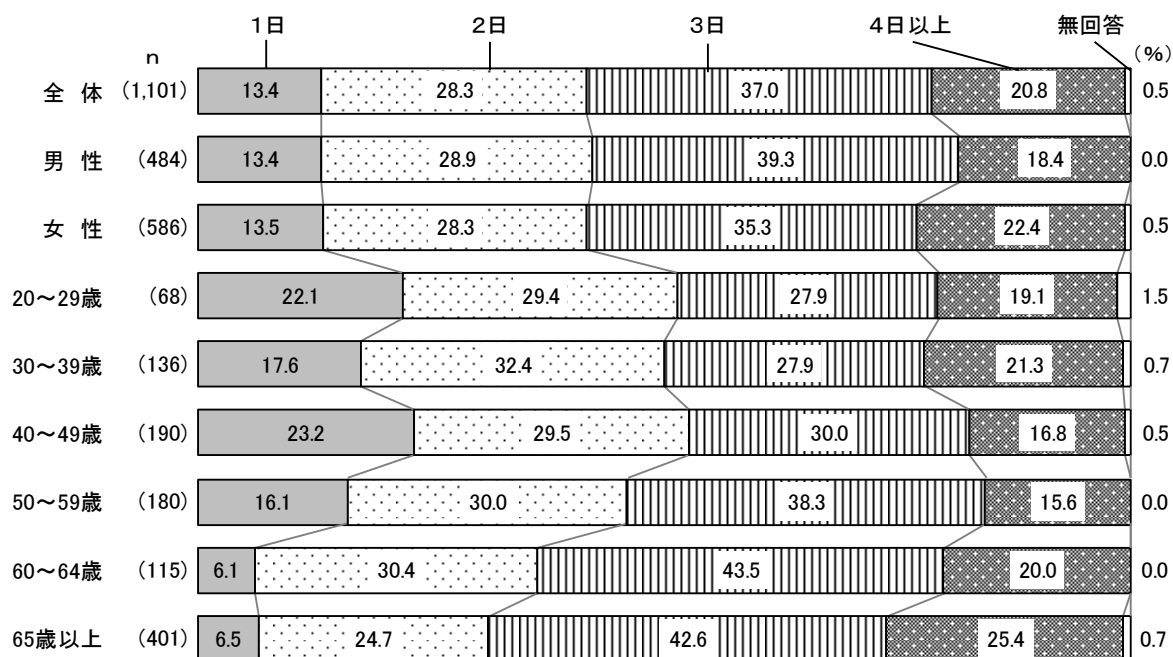
前回調査と比較すると、大きな変化はみられない。(図 4-12-1)

図 4-12-2 飲料水の備蓄量－食料備蓄日数別



食料と飲料水の備蓄日数を比較してみると、食料備蓄1日では「飲料水備蓄1日」(67.4%)が最も多く、食料備蓄2日では「飲料水備蓄2日」(58.1%)が、食料備蓄3日では「飲料水備蓄3日」(63.1%)が、食料備蓄4日以上では「飲料水備蓄4日以上」(67.6%)が最も多くなっている。食料と飲料水を同じ日数分備蓄する傾向がうかがえる。(図 4-12-2)

図 4-12-3 飲料水の備蓄量－性別・年齢別

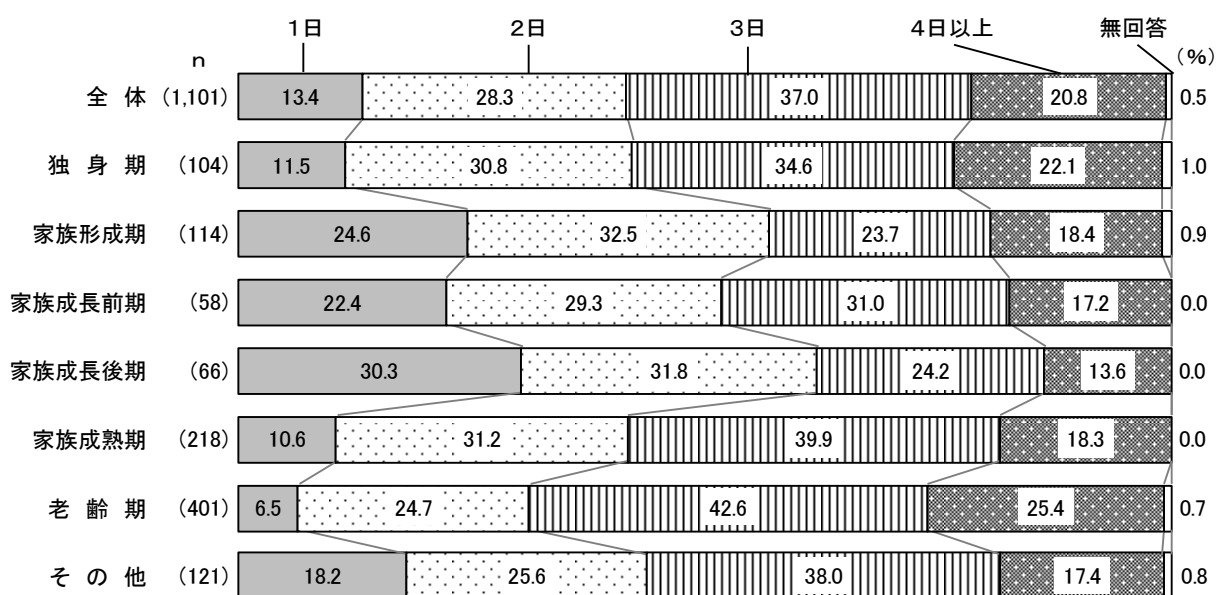


性別にみると、「3日」は男性の方が女性よりも4.0ポイント高く、「4日以上」は女性の方が男性よりも4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「4日以上」は65歳以上（25.4%）で2割台半ばと多くなっている。

（図 4-12-3）

図 4-12-4 飲料水の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「3日」は老齢期（42.6%）で4割強と多くなっている。

（図 4-12-4）

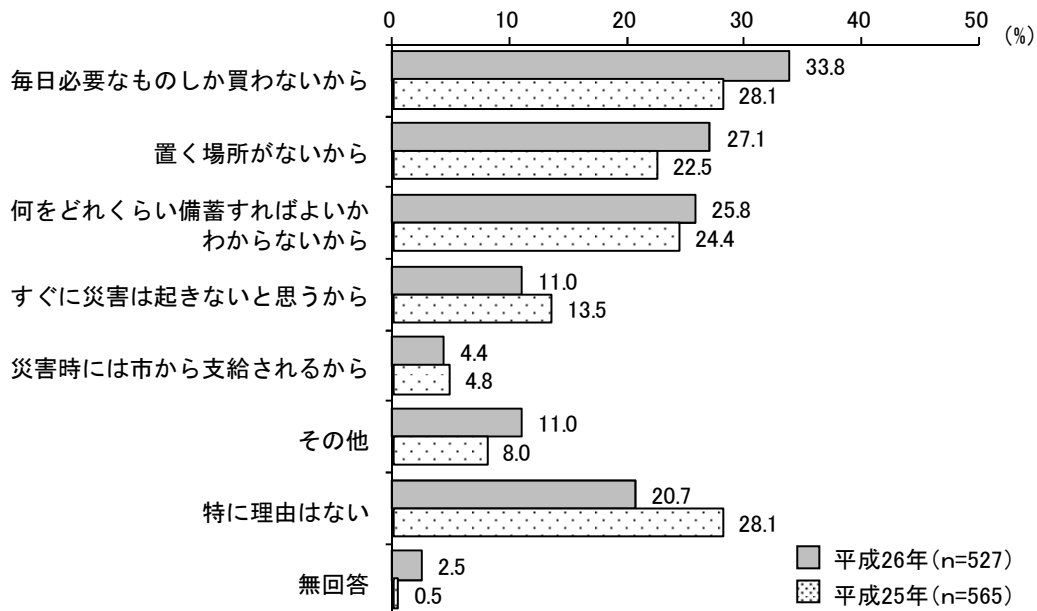
(13) 飲料水を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が3割強

(飲料水を「2 備蓄していない」とお答えの方に)

問30-2-2 備蓄していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

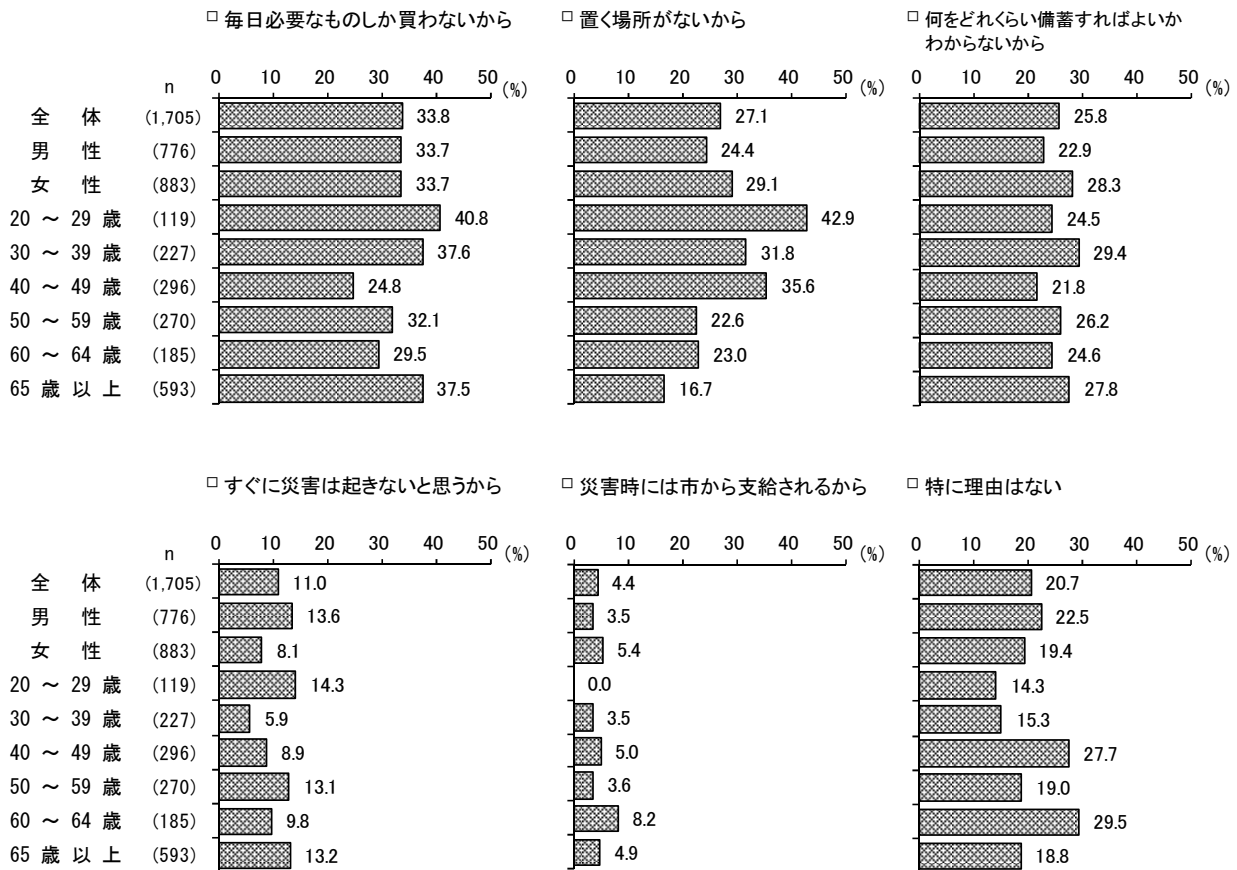
図 4-13-1 飲料水を備蓄していない理由—全体、経年比較



飲料水を「備蓄していない」と回答した527人に、飲料水を備蓄していない理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(33.8%)が最も多く3割強となっている。次いで「置く場所がないから」(27.1%)、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(25.8%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(11.0%)、「災害時には市から支給されるから」(4.4%)の順となっている。「特に理由はない」(20.7%)は約2割となっている。

前回調査と比較すると、「毎日必要なものしか買わないから」は5.7ポイント、「置く場所がないから」は4.6ポイント増加している。(図 4-13-1)

図 4-13-2 飲料水を備蓄していない理由—性別・年齢別

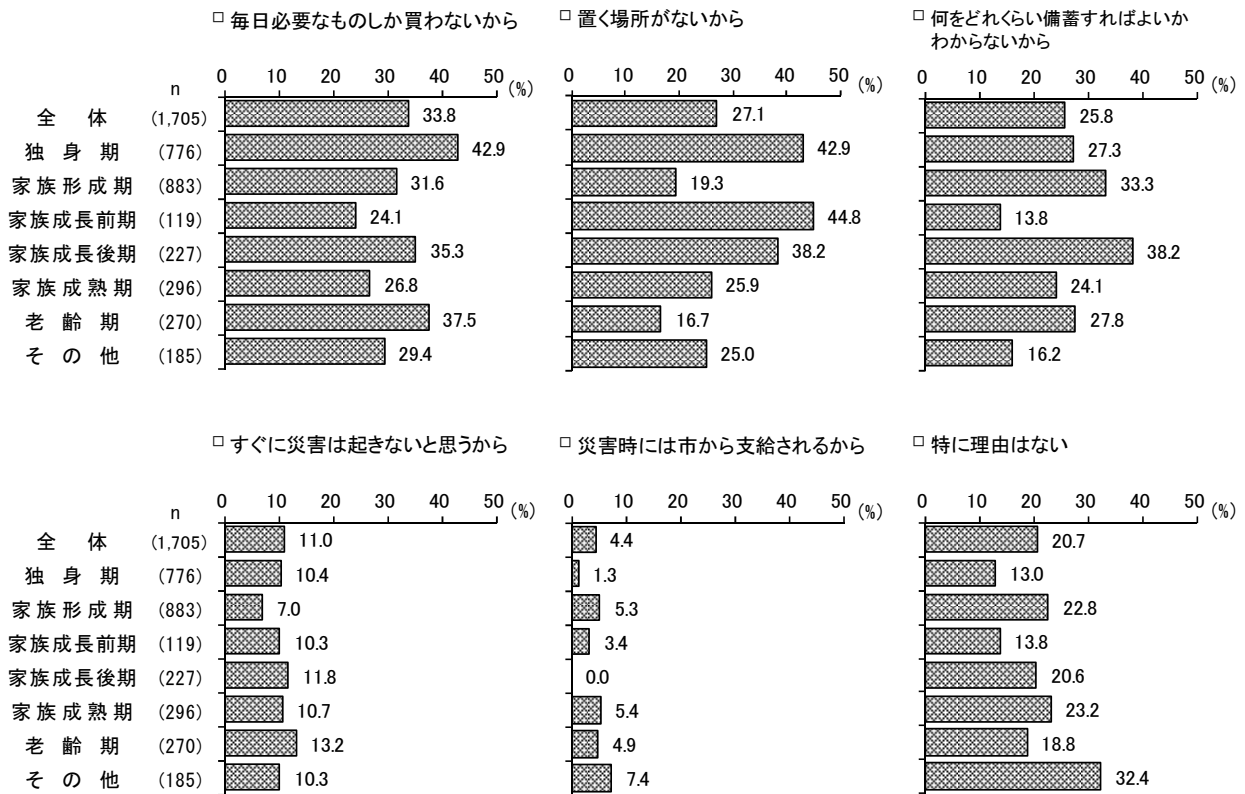


性別にみると、「すぐに災害は起きないと思うから」は男性の方が女性よりも5.5ポイント高く、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性の方が男性よりも5.4ポイント、「置く場所がないから」は4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は20～29歳（40.8%）で、「置く場所がないから」も20～29歳（42.9%）で4割以上と、他の年代と比較して多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は30～39歳（29.4%）で3割弱と多くなっている。

(図 4-13-2)

図 4-13-3 飲料水を備蓄していない理由—ライフステージ別

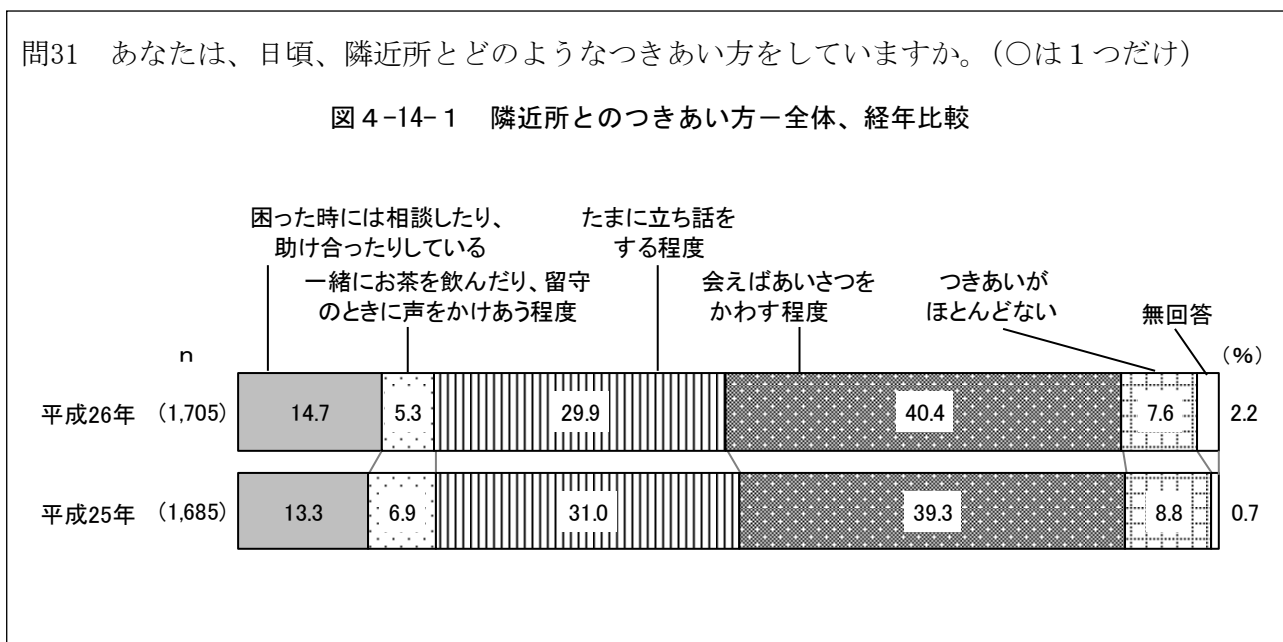


ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は独身期（42.9%）で4割強と多くなっている。「置く場所がないから」は独身期（42.9%）と家族成長前期（44.8%）で4割以上と、他の年代と比較して多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（33.3%）と家族成長後期（38.2%）で3割以上と多くなっている。

（図 4-13-3）

(14) 隣近所とのつきあい方

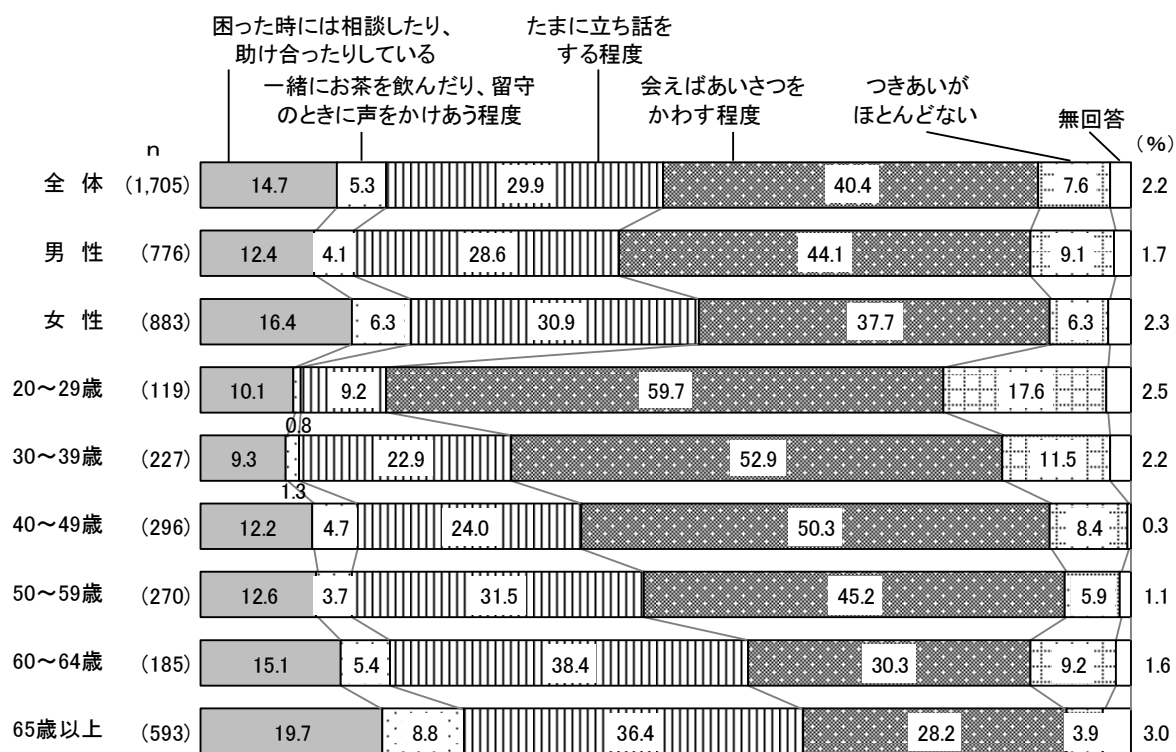
◇「会えばあいさつをかわす程度」が約4割



日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」(40.4%)が最も多く約4割を占めている。次いで「たまに立ち話をする程度」(29.9%)、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」(14.7%)、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあう程度」(5.3%)の順となっている。一方、「つきあいがほとんどない」(7.6%)は1割近くとなっている。

前回調査と比較すると、全体的に大きな変化はみられない。(図4-14-1)

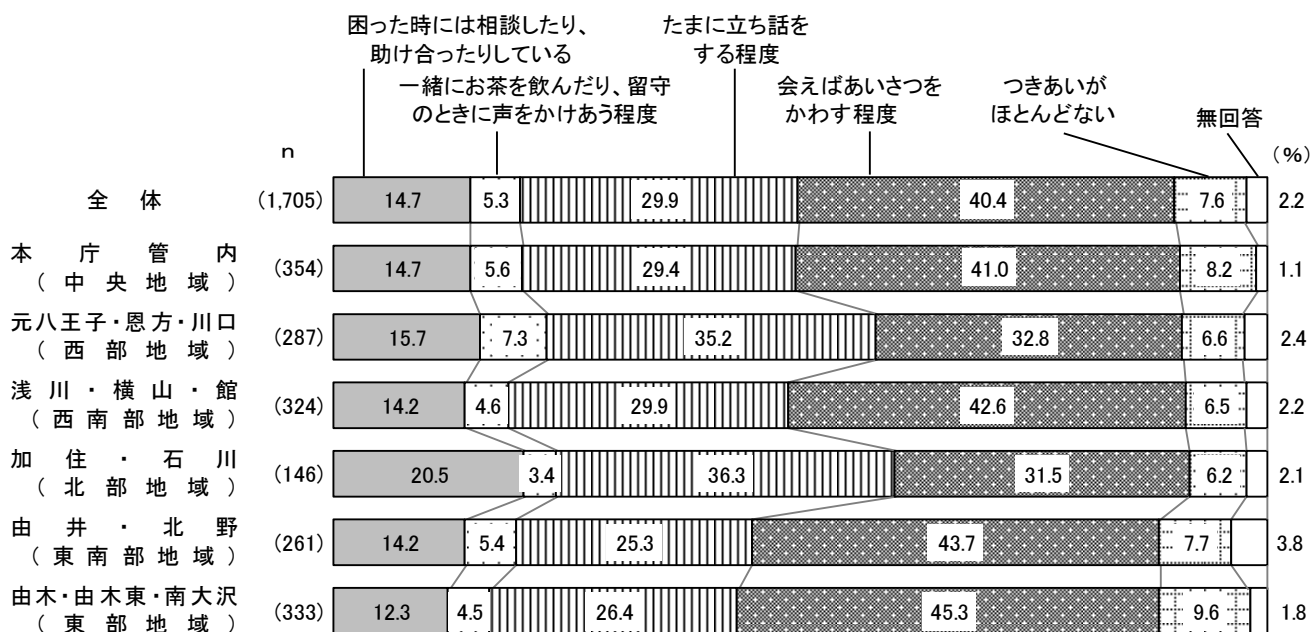
図 4-14-2 隣近所とのつきあい方—性別・年齢別



性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性の方が女性よりも6.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「たまに立ち話をする程度」は年代が上がるにつれて割合が多くなり、65歳以上（36.4%）では4割近くを占めている。一方、「会えばあいさつをかわす程度」は年代が若くなるにつれては割合が多くなり、20～29歳（59.7%）では6割弱を占めている。（図4-14-2）

図 4-14-3 隣近所とのつきあい方—居住地域別



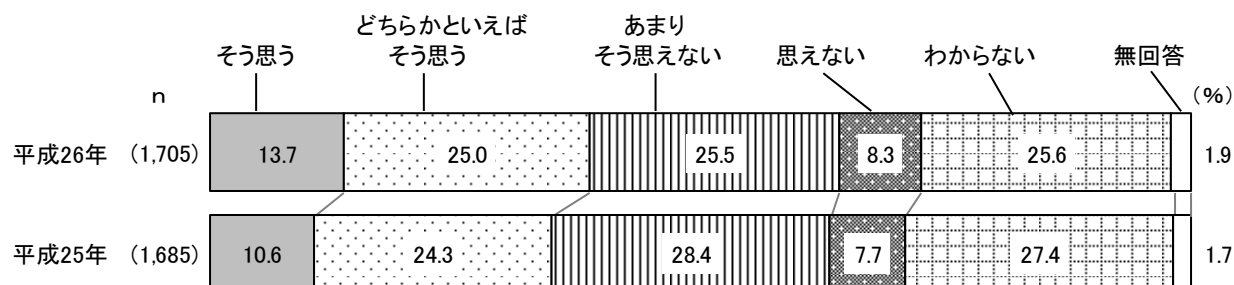
居住地域別にみると、「たまに立ち話をする程度」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（35.2%）と加住・石川（北部地域）（36.3%）で3割台半ばを超えている。（図 4-14-3）

(15) 地域と子どもたちのかかわりあい

◇《そう思う》が4割近く

問32 あなたの住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(○は1つだけ)

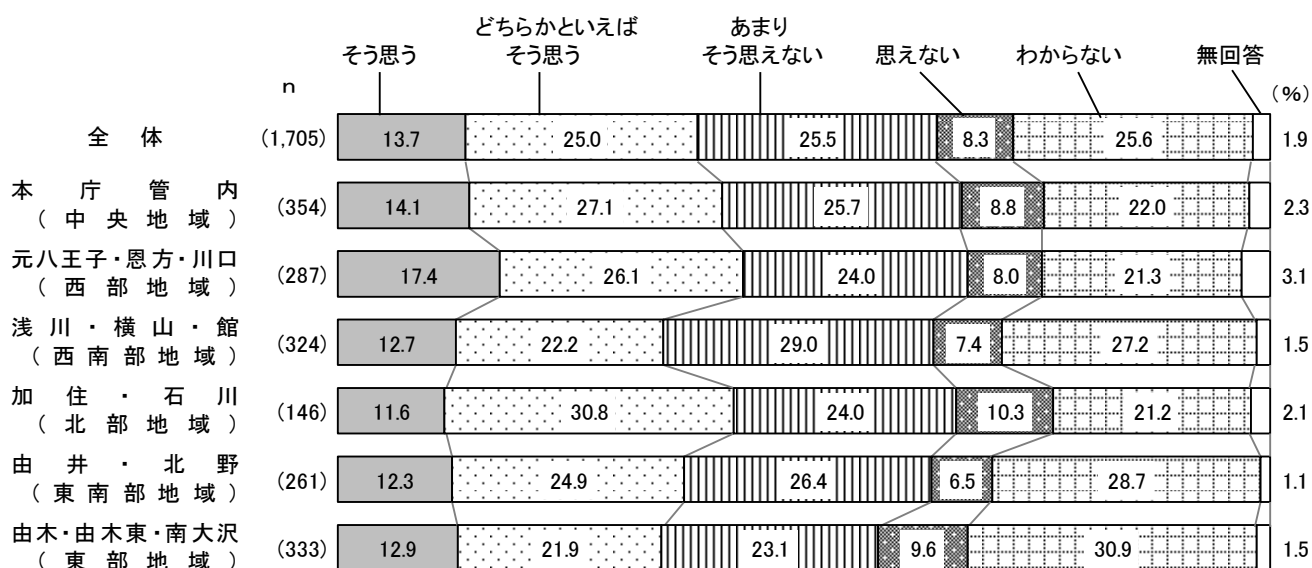
図4-15-1 地域と子どもたちのかかわりあいー全体、経年比較



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「あまりそう思えない」(25.5%)、「どちらかといえばそう思う」(25.0%)が多く2割台半ばを占めている。次いで「そう思う」(13.7%)、「思えない」(8.3%)の順となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》(38.7%)は4割近く、「あまりそう思えない」と「思えない」を合わせた《思えない》(33.8%)は3割強となっている。

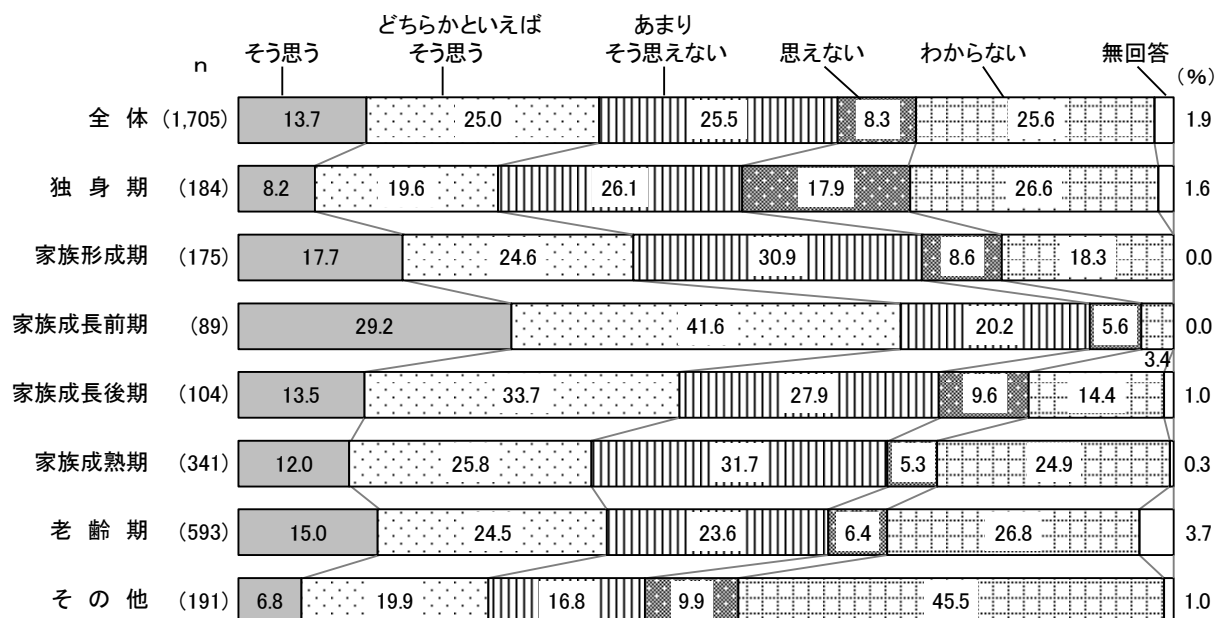
前回調査と比較すると、《そう思う》は3.8ポイント増加している。(図4-15-1)

図 4-15-2 地域と子どもたちのかかわりあい—居住地別



居住地別にみると、「そう思う」は本庁管内（中央地域）（41.2%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（43.5%）及び加住・石川（北部地域）（42.4%）で4割強と多くなっている。（図 4-15-2）

図 4-15-3 地域と子どもたちのかかわりあい—ライフステージ別



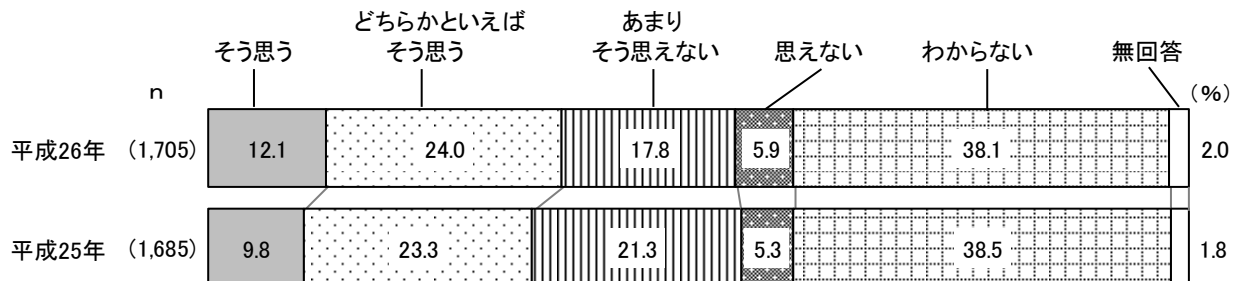
ライフステージ別にみると、「そう思う」は家族成長前期（70.8%）で約7割と、他のライフステージと比較して多くなっている。（図 4-15-3）

(16) 地域と学校の協力による子どもたちの育み

◇《そう思う》が4割近く

問33 あなたの住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思いますか。(○は1つだけ)

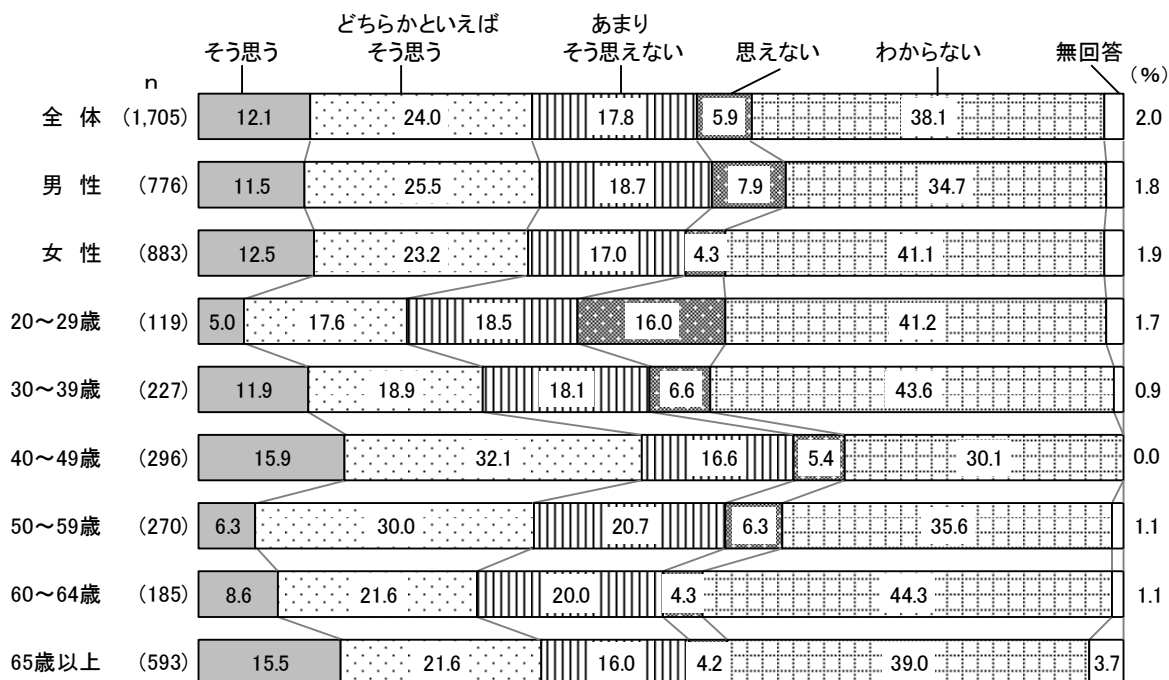
図 4-16-1 地域と学校の協力による子どもたちの育みー全体、経年比較



地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」(24.0%)が2割台半ばと多くなっている。次いで「あまりそう思えない」(17.8%)、「そう思う」(12.1%)、「思えない」(5.9%)の順となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》(36.1%)は4割近く、「あまりそう思えない」と「思えない」を合わせた《思えない》(23.7%)は2割強となっている。

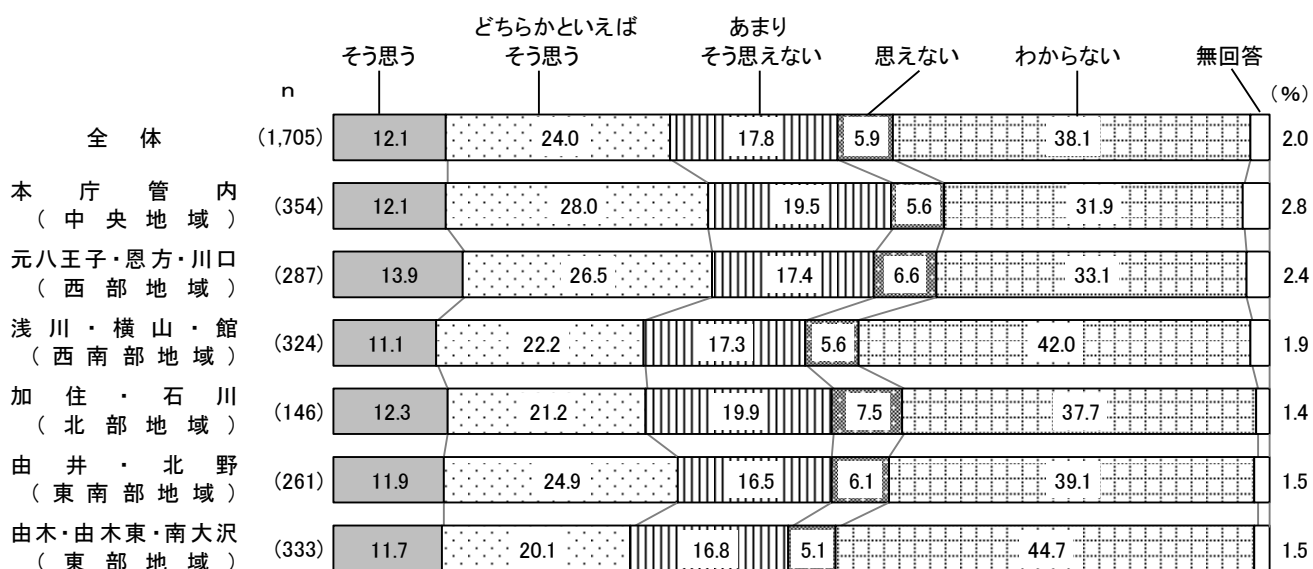
前回調査と比較すると、《そう思う》は3.0ポイント増加している。(図 4-16-1)

図 4-16-2 地域と学校の協力による子どもたちの育み—性別・年齢別



性別にみると、「思えない」は男性の方が女性よりも5.3ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「そう思う」は40~49歳（48.0%）で5割近くと多くなっている。
 (図 4-16-2)

図 4-16-3 地域と学校の協力による子どもたちの育み—居住地域別



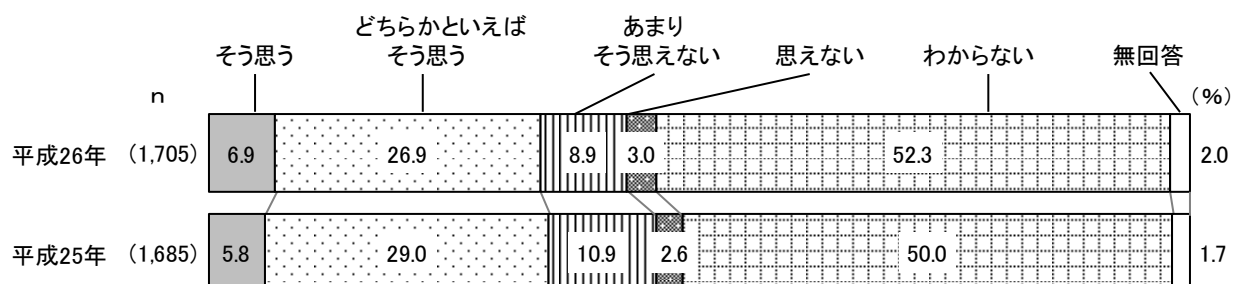
居住地域別にみると、「そう思う」は本庁管内（中央地域）（40.1%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（40.4%）で約4割と多くなっている。(図 4-16-3)

(17) 市などの支援による子育ての状況

◇《そう思う》が3割強

問34 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか。(○は1つだけ)

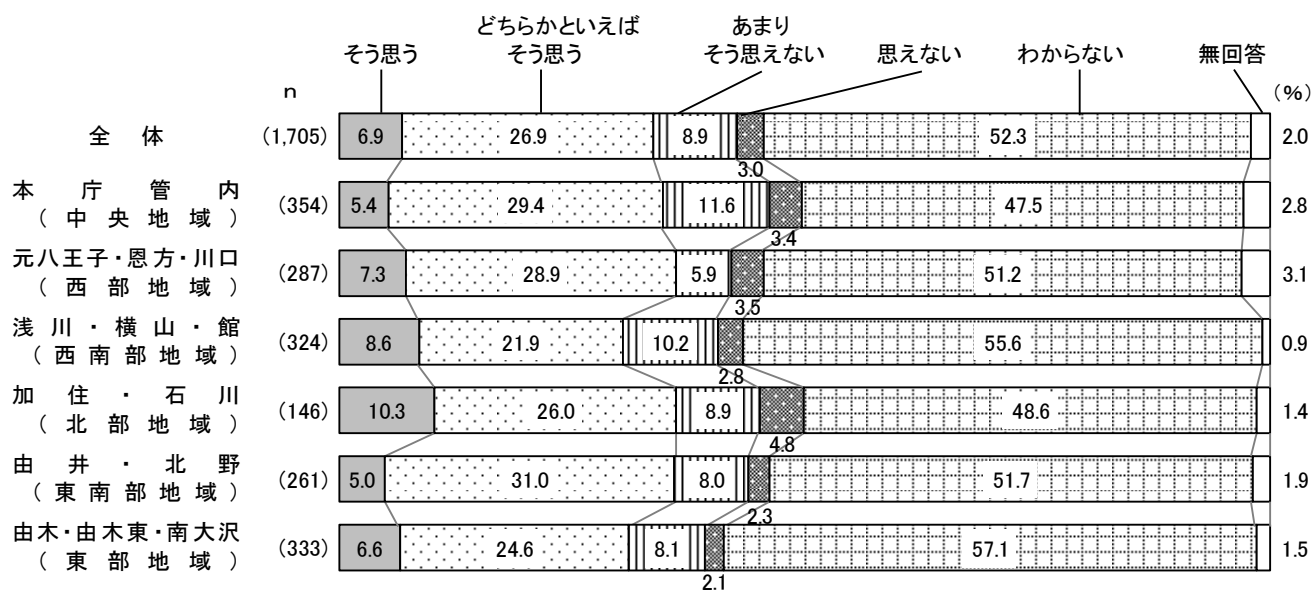
図4-17-1 市などの支援による子育ての状況—全体、経年比較



市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」(26.9%)が3割近くと多くなっている。次いで「あまりそう思えない」(8.9%)、「そう思う」(6.9%)、「思えない」(3.0%)の順となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》(33.8%)は3割強、「あまりそう思えない」と「思えない」を合わせた《思えない》(11.9%)は1割強となっている。また、「わからない」(52.3%)は5割強となっている。

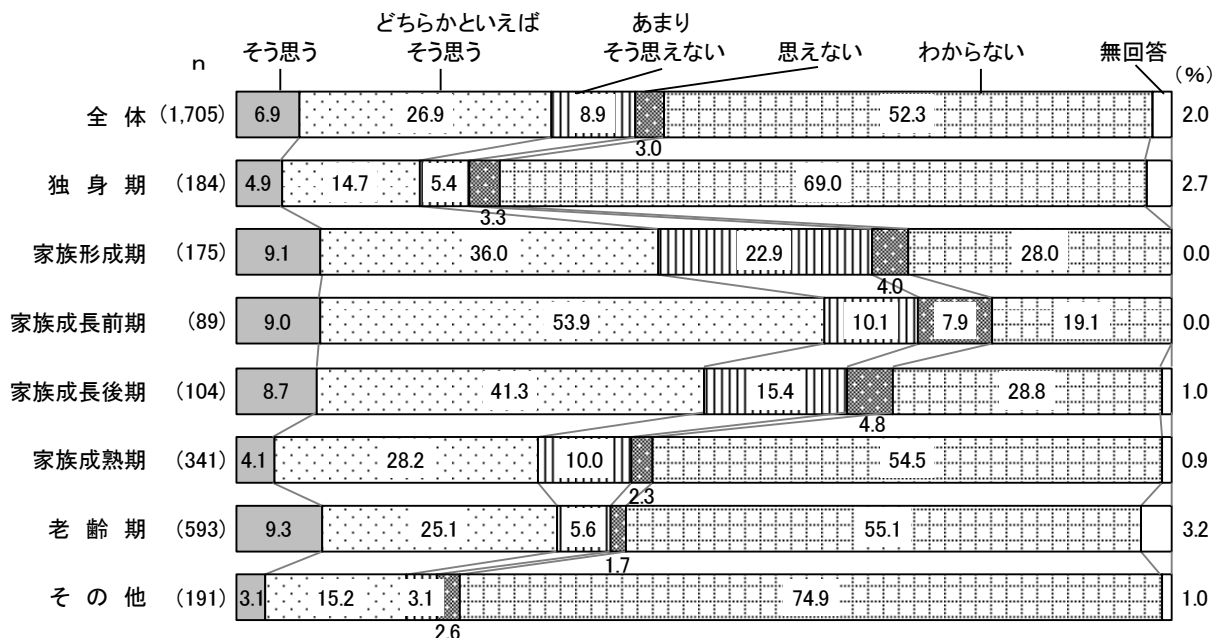
前回調査と比較すると、全体的にあまり大きな変化はみられない。(図4-17-1)

図 4-17-2 市などの支援による子育ての状況—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」はすべての地域において3割以上となっているが、浅川・横山・館（西南部地域）（30.5%）では最も少なくなっている。（図 4-17-2）

図 4-17-3 市などの支援による子育ての状況—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「そう思う」は家族成長前期（62.9%）で6割強と、他のライフステージと比較して多くなっている。（図 4-17-3）

(18) 安心した子育てができていないと思う理由

(問34で「3 あまりそう思えない」または「4 思えない」とお答えの方に)

問34-1 そのように感じる理由があれば、以下の欄にご自由にお書きください

子育てをしている方々が、安心して子育てができていないと感じている方の意見が124票寄せられ、その中から、抜粋した意見を記載した。内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したものもある。

- ・保育園に入れない。学童クラブの利用料が高い。親が体調が悪くても子供を一時的に預かってくれるところがないと聞いた。(男性20代)
- ・保育園の入園の審査基準などが不明瞭。(男性30代)
- ・学童保育所の人数に制限がある。月謝が近隣の自治体と比べて高い。(女性40代)
- ・小児科が少ない。公園の遊具が少ない。待機児童が多い。下刻時間等に夕刻の住民パトロールがほとんどない。(男性40代)
- ・隣近所との交流があまりない。若い人はあまり交流を好まないようだ。近所で行ってもインターホンごしが多い。(男性60代以上)
- ・マンションが多く、あまり近所つきあいをしていない。両親が働きに出ている家庭が多く、お子さんだけで留守番をしている世帯が多い。高齢の方は元気だが、外出することが多く家にいない。(女性40代)
- ・近所のどこに子供がいるかわからない。昔のように公園や家の道路で遊んでいる子供が少なく見かけなくなった。(女性60代以上)
- ・大塚地区は子育ての一時保育の場所などもなく、他のサービスも受けるに当たって場所が八王子市の駅の近くがほとんどなので、利用する機会がない。(女性30代)
- ・どのような支援をしているのかよくわからない。出産時等に具体的に教えてくれたり手紙を配布してわかるようにしてほしい。(女性20代)
- ・現在子育て中(乳幼児)だが、自分自身が病気の時や通院の時、頼れる所が無く、相談できる先も無い。夫婦共に実家が遠く、身内も近隣にいない為、もしも急病の時子供をどこに預けたらよいか。訪問などで来てくれるサービスがあればと思う。(女性30代)
- ・様々な支援があるようだがそれを知る方法がない。自分から動かなければ受ける事ができない。人から、「こんなものがあつたんだよ」「これを受ければよかったのに」と後から聞く事が多い。(女性50代)
- ・子供に仕事を体験させる様な場を増やし、社会性や社会には色々な仕事があることを早い時期から知る取り組みが必要かと思う。そうすることでもっと生活感の有る若者が増えると考え。(男性60代以上)
- ・特に障害のある家庭の母親や子どもへの全面的なヘルプをお願いしたい。子どもの色々な制度や支援があるが、まだまだ足りないと思う。(女性60代以上)

(19) 市民協働の進捗状況

◇《そう思う》が5割強

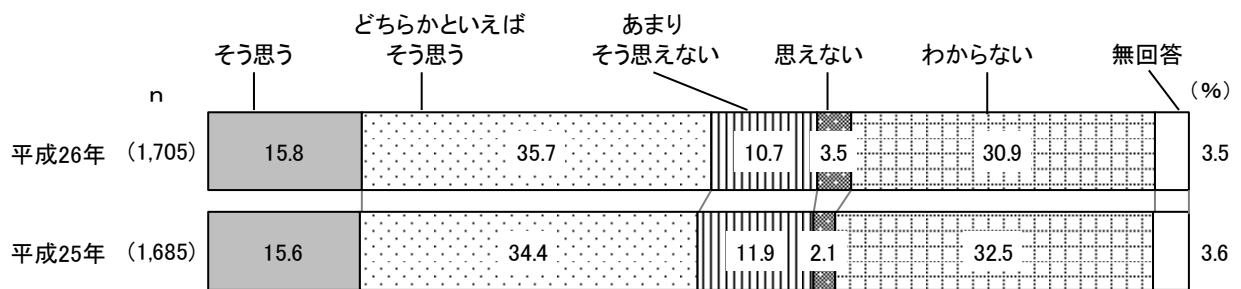
問35 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。(〇は1つだけ)

※市民協働の活動とは・・・

- 八王子まつり、いちょう祭りなどへの支援や協力、また環境フェスティバルなどのイベントを市民と協力して開催
- 町会等が行う防犯・防災活動や環境美化活動などに対する支援や協力
- 公園や道路の維持活動(清掃や除草などのボランティア活動)を地域の住民の方に担っていただくアドプト制度の運営
- 各種審議会や市の計画策定に際して参加いただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント(意見公募)の実施

など

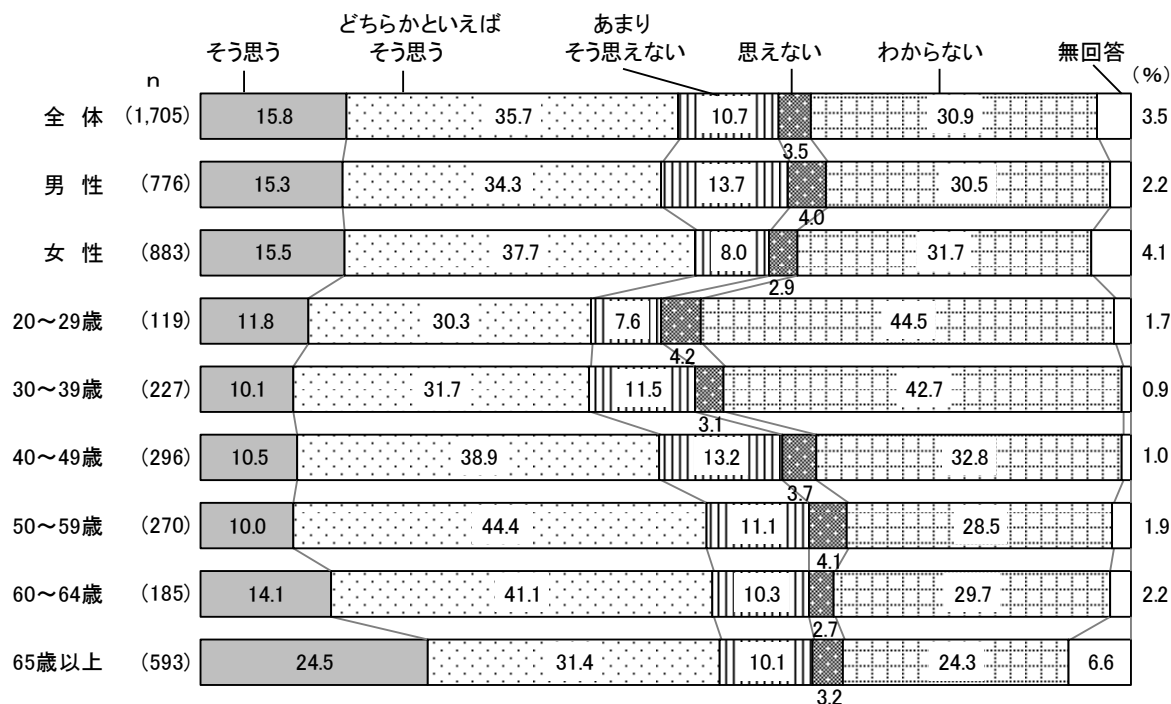
図 4-19-1 市民協働の進捗状況－全体、経年比較



市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」(35.7%)が最も多く3割台半ばを占めている。次いで「そう思う」(15.8%)、「あまりそう思えない」(10.7%)、「思えない」(3.5%)の順となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》(51.5%)は5割強、「あまりそう思えない」と「思えない」を合わせた《思えない》(14.2%)は1割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、全体的にあまり大きな変化はみられない。(図 4-19-1)

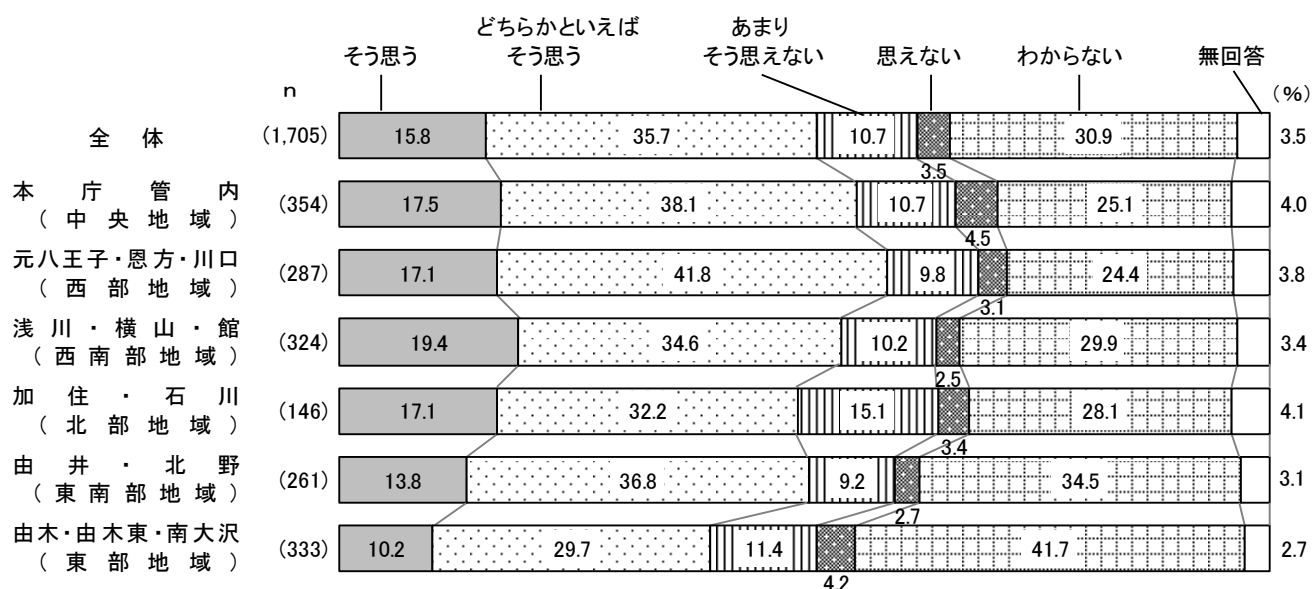
図 4-19-2 市民協働の進捗状況—性別・年齢別



性別にみると、「思えない」は男性の方が女性よりも6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は50~59歳（54.4%）、60~64歳（55.2%）及び65歳以上（55.9%）で5割台半ばと多くなっている。（図4-19-2）

図 4-19-3 市民協働の進捗状況—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（58.9%）で6割近くと多くなっている。（図4-19-3）

(20) 文化芸術活動への参加頻度

◇「半年に1～2回程度」が1割台半ば

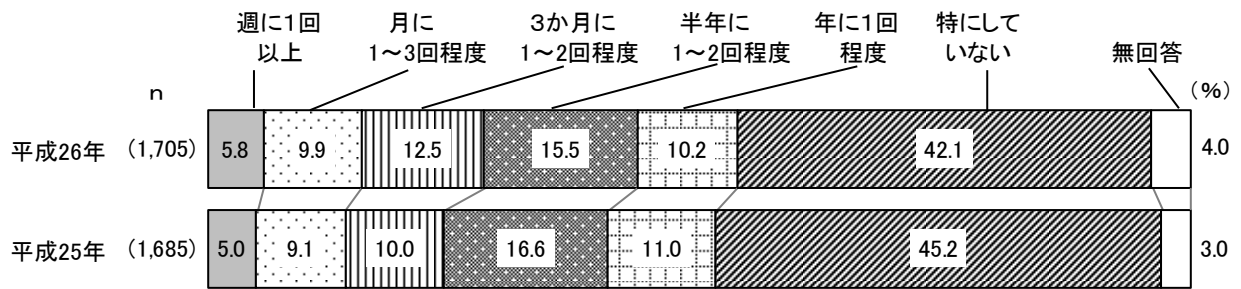
問36 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）しましたか。（○は1つだけ）

※文化芸術活動とは・・・

- 音楽（クラシック、ポピュラー、演歌など）
- 美術（絵画、彫刻、工芸など）
- 写真
- 芸能（講談、落語、漫才など）
- 演劇（ミュージカル含む）
- 舞踊（バレエ、ダンスなど）
- 文学（小説、詩、俳句、短歌など）
- メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）
- 伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽など）
- 生活文化（茶道、華道、書道など）
- 国民娯楽（囲碁、将棋など）
- 文化財巡り（寺社、史跡など）

など

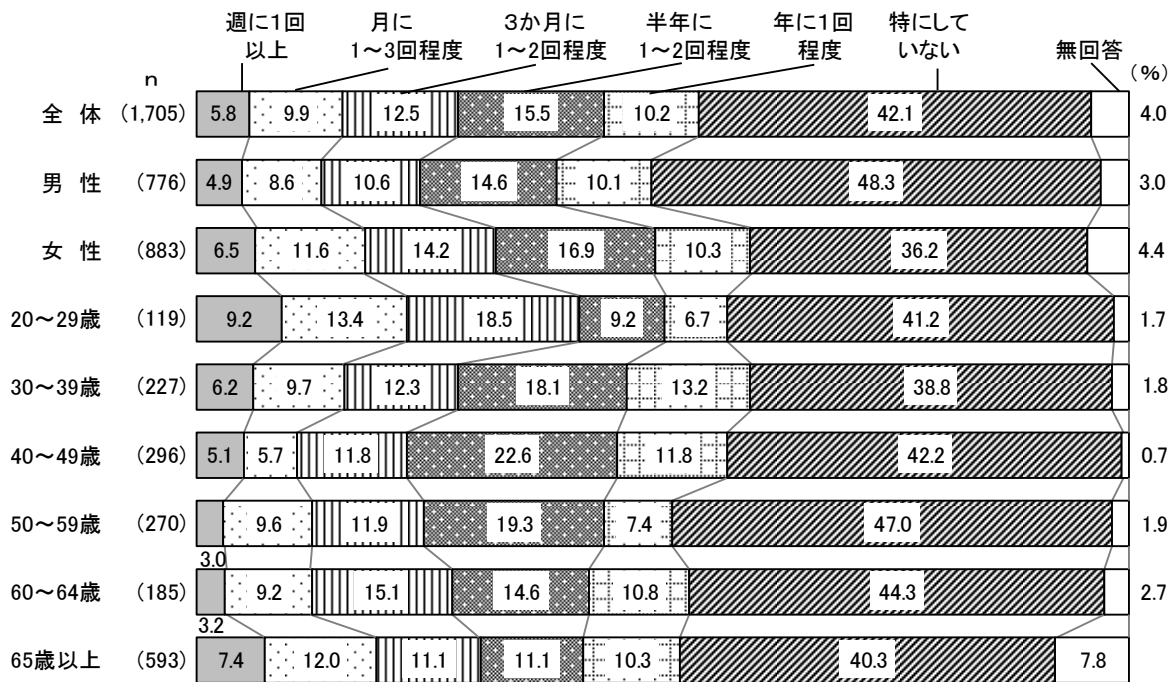
図4-20-1 文化芸術活動への参加頻度－全体、経年比較



1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）したか聞いたところ、「半年に1～2回程度」（15.5%）が1割台半ばとなっている。次いで「3か月に1～2回程度」（12.5%）、「年1回程度」（10.2%）、「月に1～3回程度」（9.9%）、「週に1回以上」（5.8%）の順となっている。一方、「特にしていない」（42.1%）は4割強となっている。

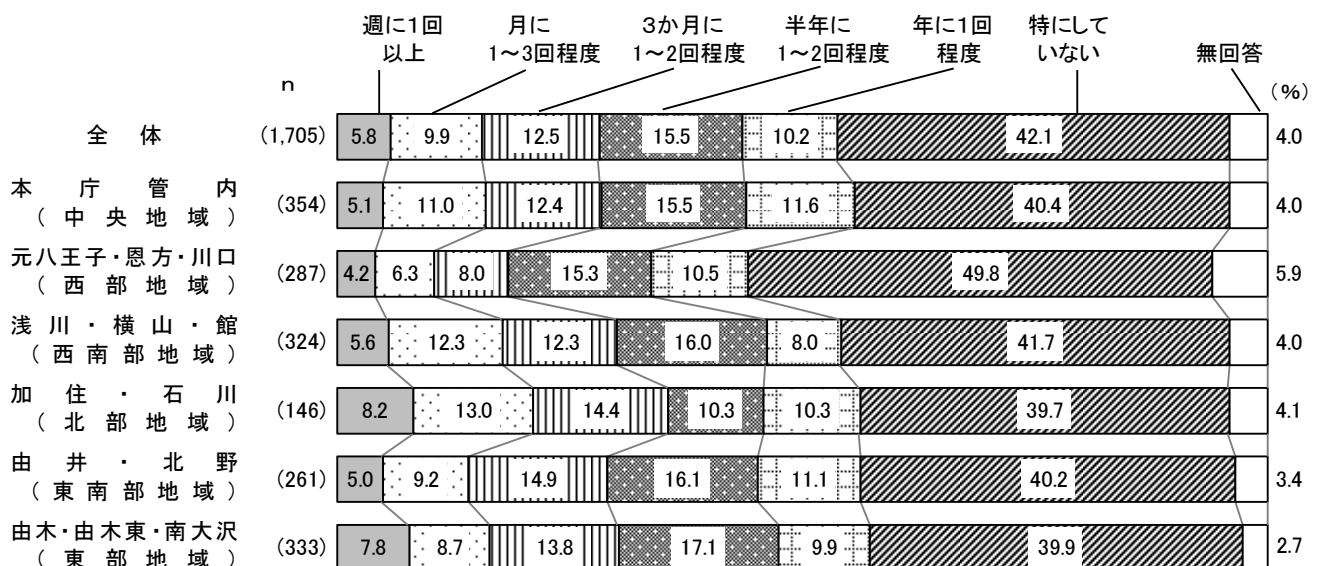
前回調査と比較すると、全体的に大きな変化はみられない。（図4-20-1）

図 4-20-2 文化芸術活動への参加頻度－性別・年齢別



性別にみると、「特にしていない」は男性の方が女性よりも12.1ポイント高くなっている。年齢別にみると、「半年に1~2回程度」は40~49歳（22.6%）で2割強と多くなっている。（図 4-20-2）

図 4-20-3 文化芸術活動への参加頻度－居住地域別



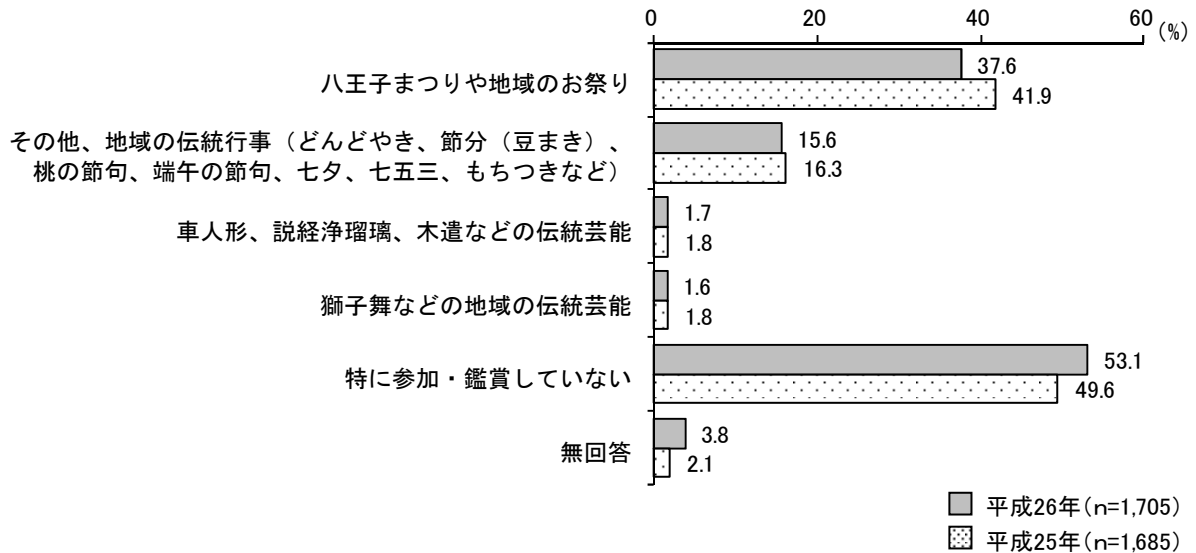
居住地域別にみると、「特にしていない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（49.8%）で5割弱と多くなっている。（図 4-20-3）

(21) 地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

◇「特に参加・鑑賞していない」が5割強

問37 あなたは、この1年間に次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（○はいくつでも）

図 4-21-1 地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－全体、経年比較

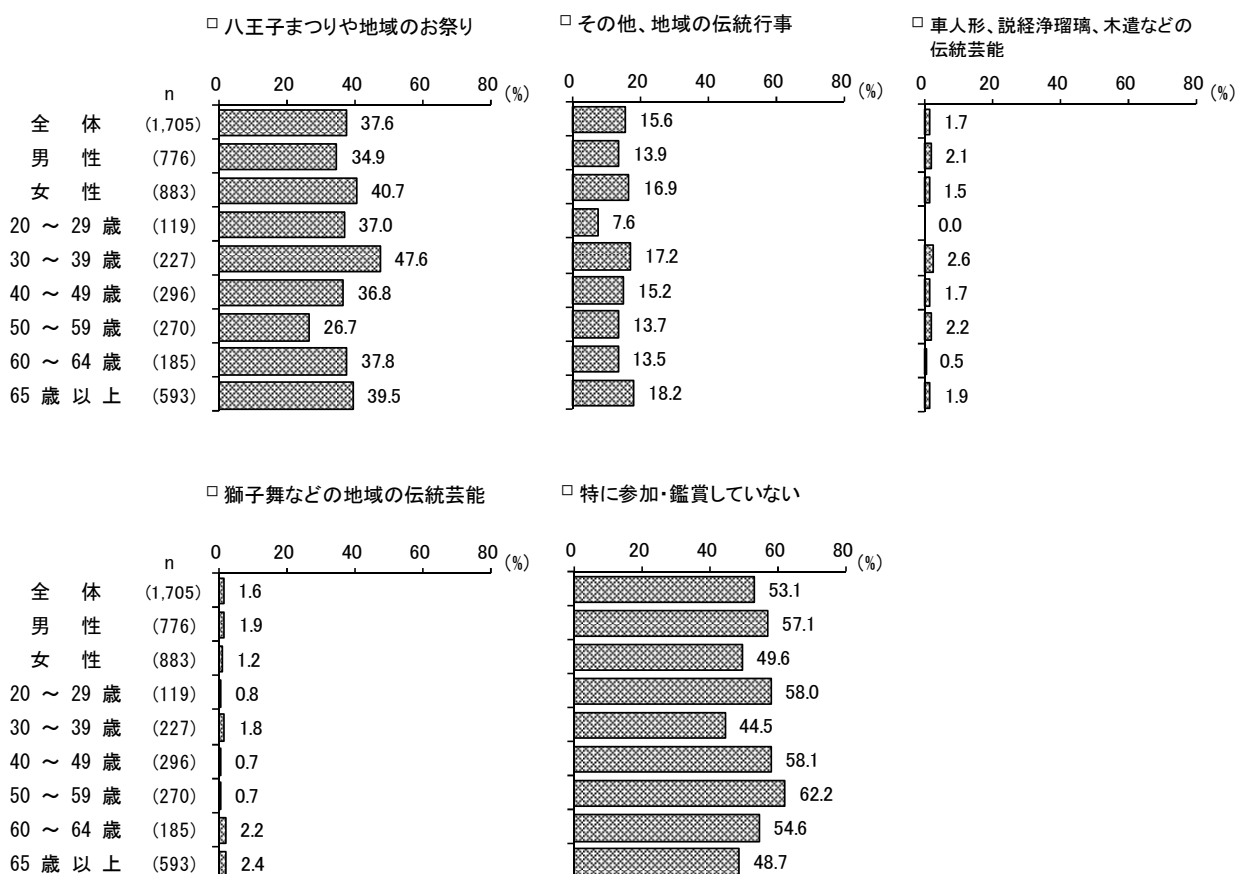


この1年間に次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含む）したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」（37.6%）が4割近くと多くなっている。次いで「その他、地域の伝統行事（どんとやき、節分（豆まき）、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど）」（15.6%）、「車人形、説経浄瑠璃、木遣などの伝統芸能」（1.7%）、「獅子舞などの地域の伝統芸能」（1.6%）の順となっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」（53.1%）は5割強となっている。

前回調査と比較すると、「八王子まつりや地域のお祭り」は4.3ポイント減少している。

（図 4-21-1）

図4-21-2 地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－性別・年齢別

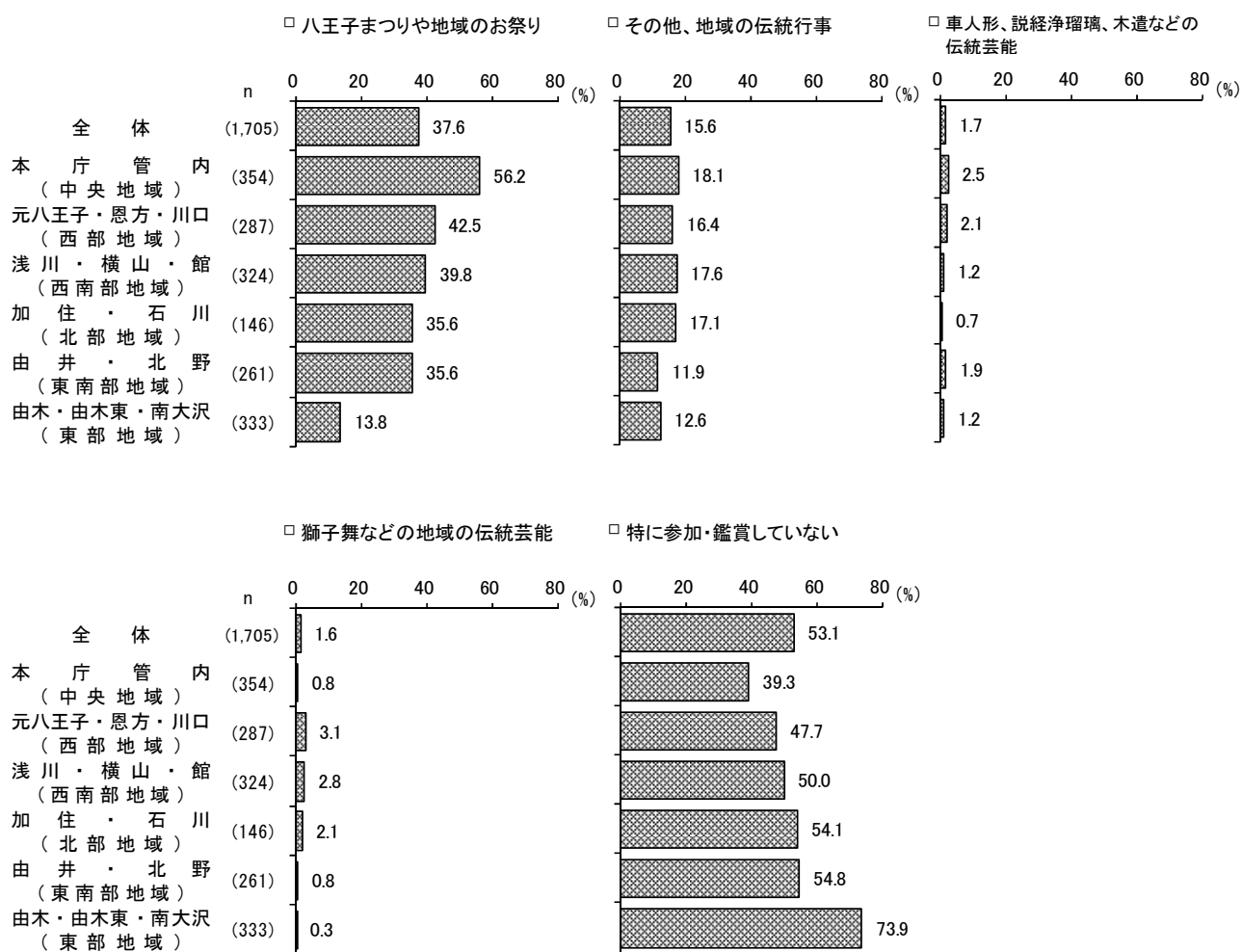


性別にみると、「特に参加・鑑賞していない」は男性の方が女性よりも7.5ポイント高く、「八王子まつりや地域のお祭り」は女性の方が男性よりも5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は30～39歳（47.6%）で5割近くと多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は50～59歳（62.2%）で6割強と多くなっている。

（図4-21-2）

図 4-21-3 地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－居住地域別



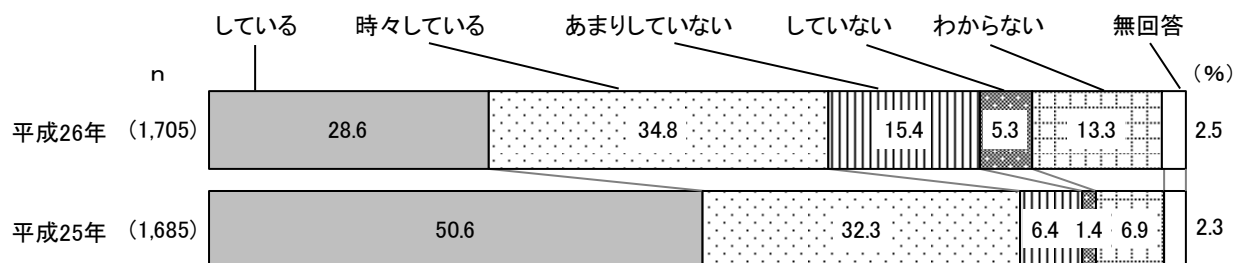
居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内（中央地域）（56.2%）で6割近くと多くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（73.9%）で7割強と、他の地域と比較して多くなっている。（図 4-21-3）

(22) 障害のある方への理解や配慮

◇《している》が6割強

問38 あなたは日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。
(○は1つだけ)

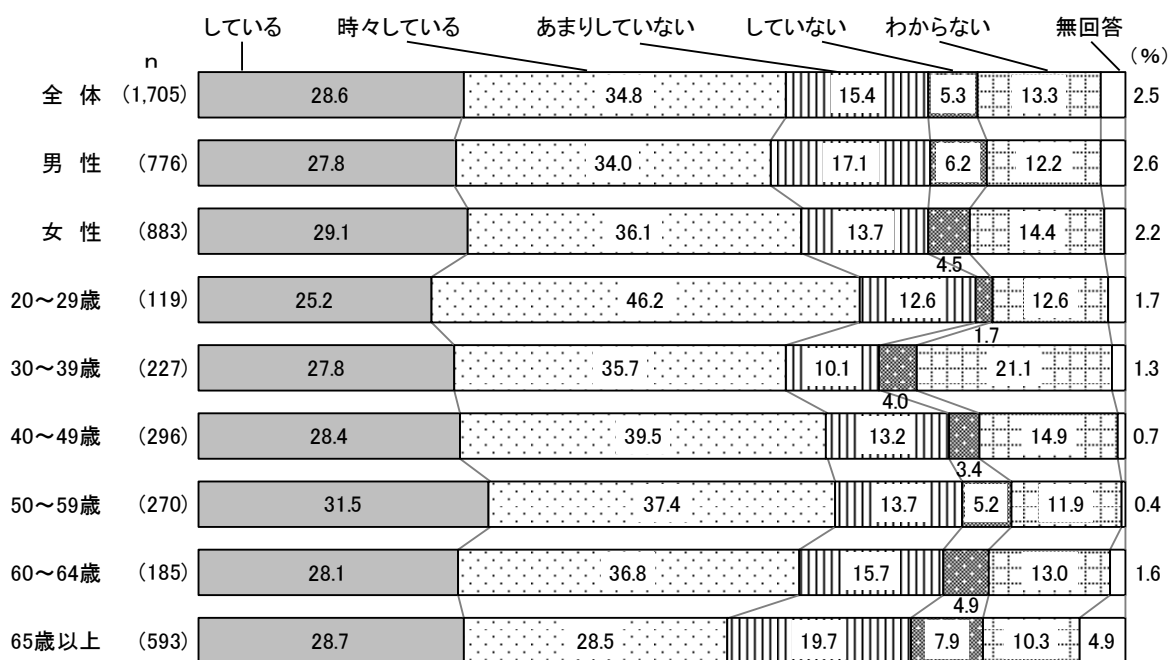
図 4-22-1 障害のある方への理解や配慮－全体、経年比較



障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「時々している」(34.8%)が最も多く3割台半ばを占めている。次いで「している」(28.6%)、「あまりしていない」(15.4%)、「していない」(5.3%)の順となっている。「している」と「時々している」を合わせた《している》(63.4%)は6割強、「あまりしていない」と「していない」を合わせた《していない》(20.7%)は約2割となっている。

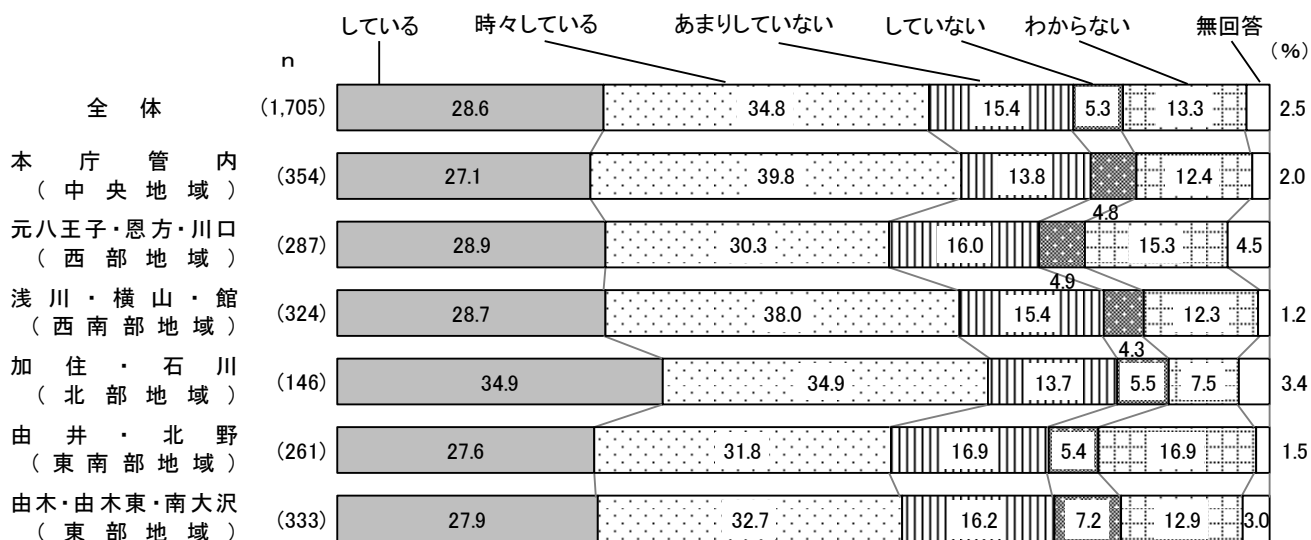
前回調査と比較すると、《している》は19.5ポイント減少している。(図 4-22-1)

図 4-22-2 障害のある方への理解や配慮－性別・年齢別



性別にみると、「している」は女性の方が男性よりも3.4ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「している」は20～29歳（71.4%）で7割強と多くなっている。（図 4-22-2）

図 4-22-3 障害のある方への理解や配慮－居住地域別



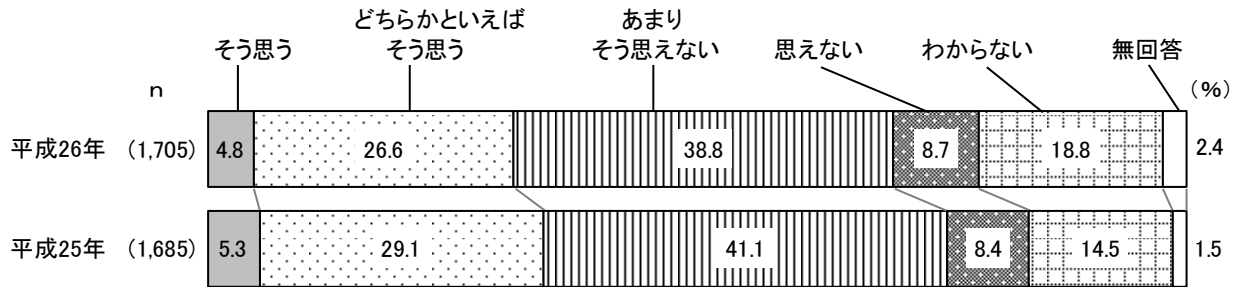
居住地域別にみると、「している」は加住・石川（北部地域）（69.8%）で7割弱と多くなっている。（図 4-22-3）

(23) 誰もが安全で快適に暮らせるまち

◇《《そう思う》》が3割強

問39 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。(○は1つだけ)

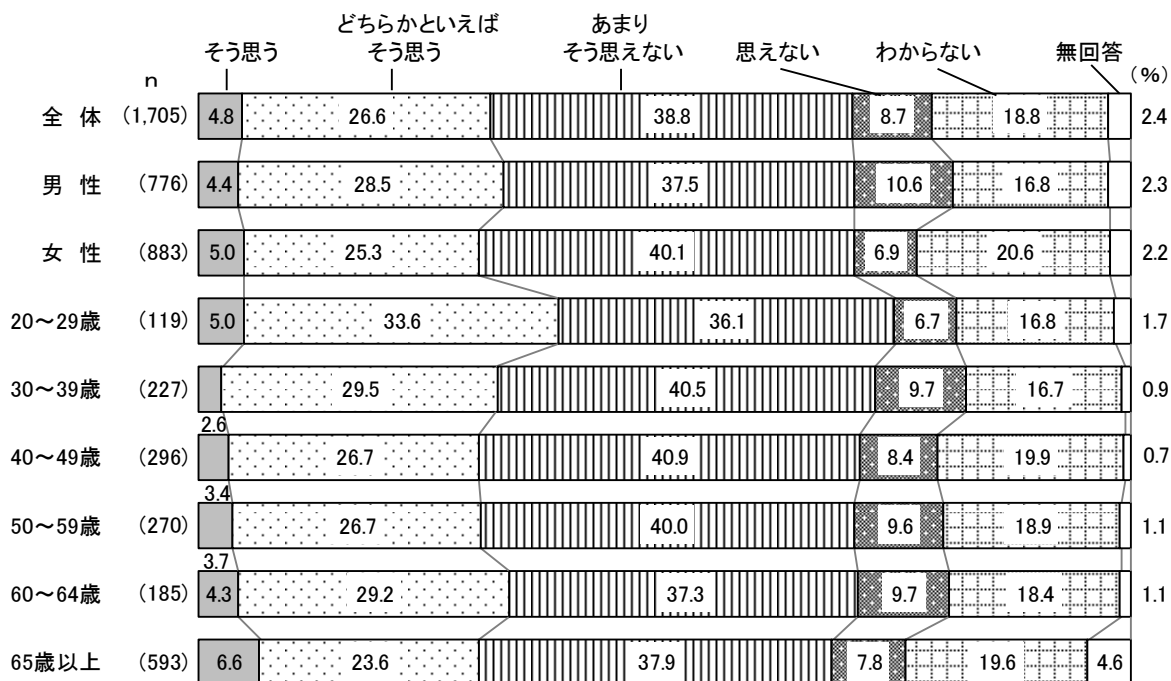
図4-23-1 安全で快適に暮らせるまち—全体、経年比較



市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うか聞いたところ、「あまりそう思えない」(38.8%)が最も多く4割近くとなっている。次いで「どちらかといえばそう思う」(26.6%)、「思えない」(8.7%)、「そう思う」(4.8%)の順となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《《そう思う》》(31.4%)は3割強、「あまりそう思えない」と「思えない」を合わせた《《思えない》》(47.5%)は5割近くとなっている。

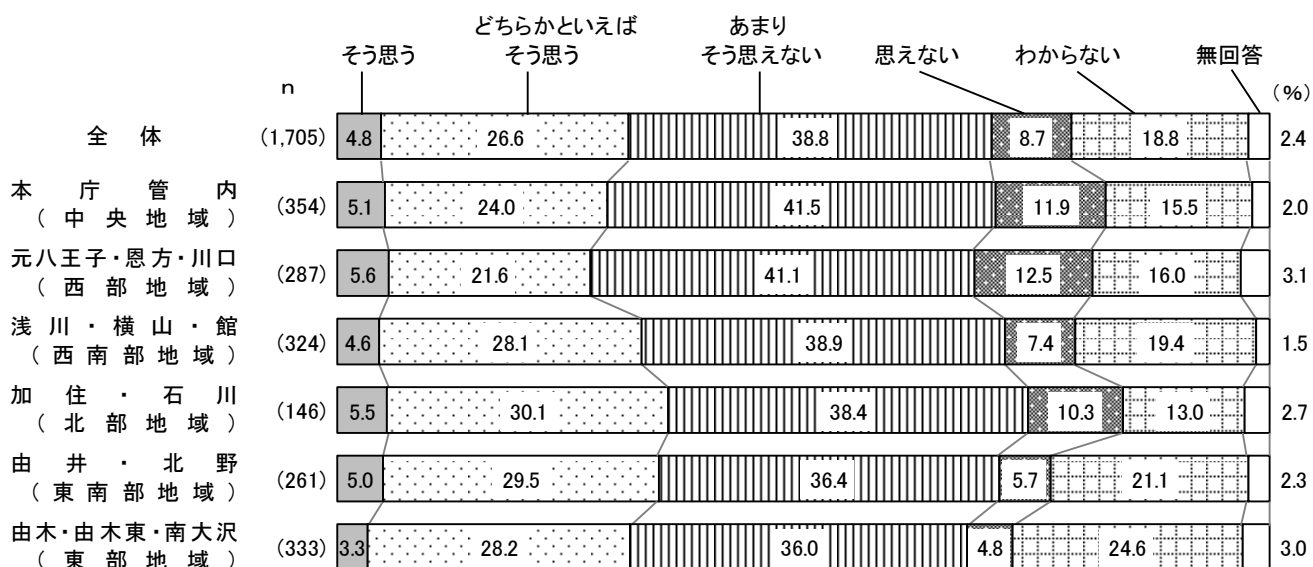
前回調査と比較すると、《《そう思う》》は3.0ポイント減少している。(図4-23-1)

図 4-23-2 安全で快適に暮らせるまち－性別・年齢別



性別にみると、「思えない」は男性の方が女性よりも3.7ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「そう思う」は20～29歳（38.6%）で4割近くと多くなっている。
 (図 4-23-2)

図 4-23-3 安全で快適に暮らせるまち－居住地域別



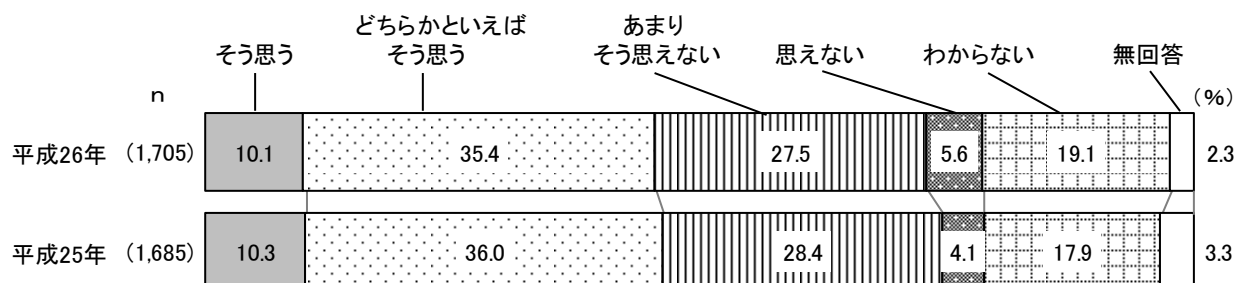
居住地域別にみると、「あまりそう思えない」は本庁管内（中央地域）（53.4%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（53.6%）で5割強と多くなっている。(図 4-23-3)

(24) 自然、歴史、文化が活かされた景観

◇《《そう思う》》が4割台半ば

問40 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思いますか。(〇は1つだけ)

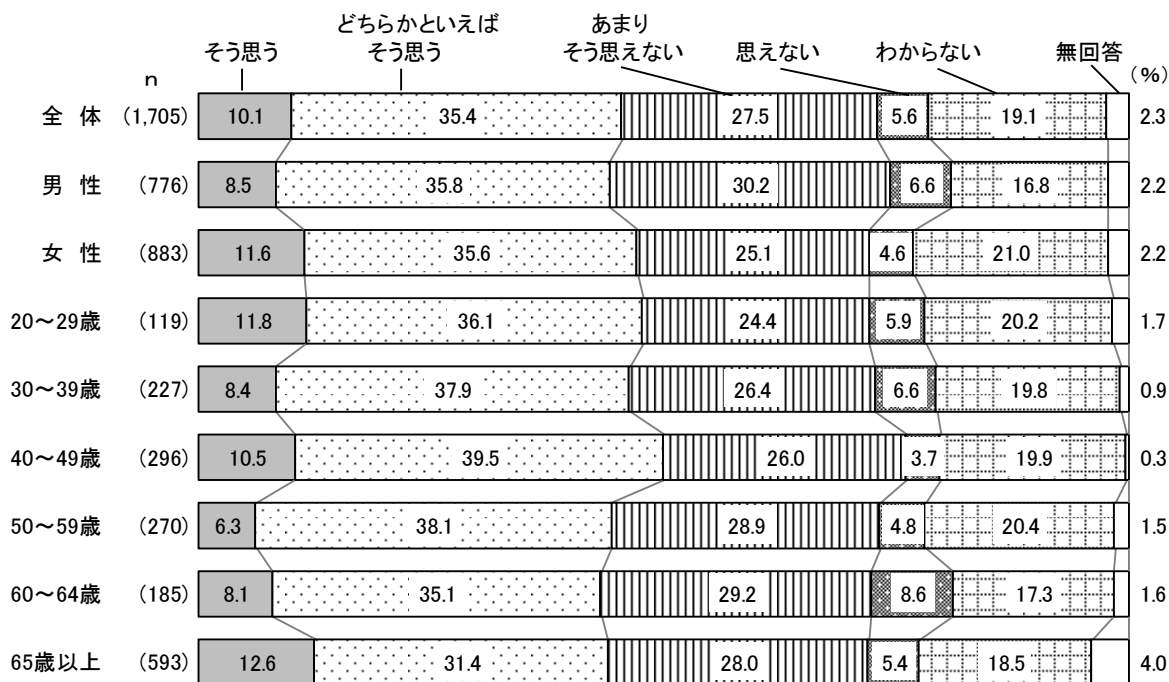
図 4-24-1 自然、歴史、文化が活かされた景観—全体、経年比較



市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」(35.4%)が最も多く3割台半ばとなっている。次いで「あまりそう思えない」(27.5%)、「そう思う」(10.1%)、「思えない」(5.6%)の順となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《《そう思う》》(45.5%)は4割台半ば、「あまりそう思えない」と「思えない」を合わせた《《思えない》》(33.1%)は3割強となっている。

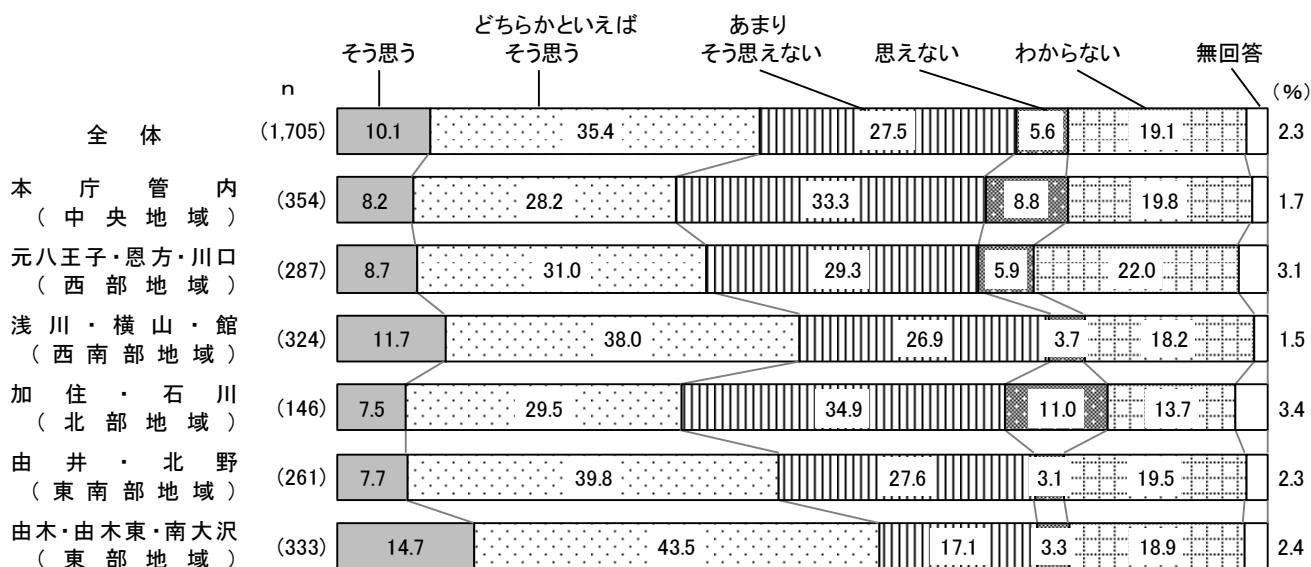
前回調査と比較すると、全体的に大きな変化はみられない。(図 4-24-1)

図 4-24-2 自然、歴史、文化が活かされた景観—性別・年齢別



性別にみると、「思えない」は男性の方が女性よりも7.1ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「そう思う」は40~49歳（50.0%）で5割と多くなっている。（図 4-24-2）

図 4-24-3 自然、歴史、文化が活かされた景観—居住地域別



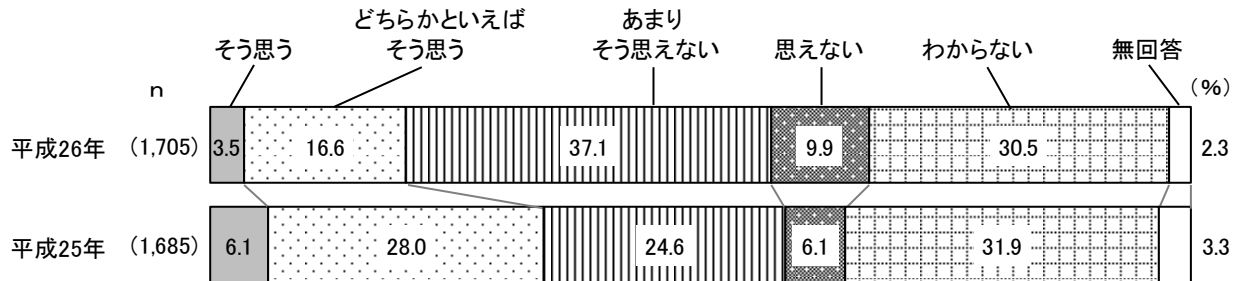
居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（58.2%）で6割近くと、他の地域と比較して多くなっている。（図 4-24-3）

(25) 市内の産業活動

◇《《そう思う》》が約2割

問41 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。(○は1つだけ)

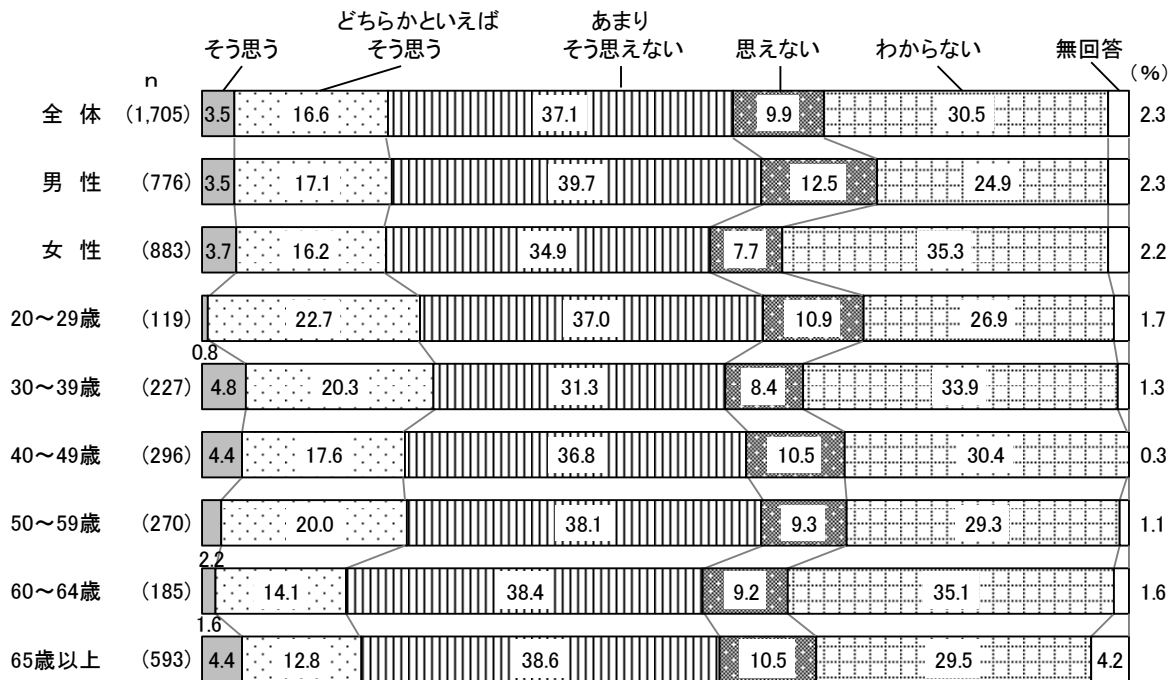
図 4-25-1 市内の産業活動—全体、経年比較



商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思うか聞いたところ、「あまりそう思えない」(37.1%)が最も多く4割近くとなっている。次いで、「どちらかといえばそう思う」(16.6%)、「思えない」(9.9%)、「そう思う」(3.5%)の順となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《《そう思う》》(20.1%)は約2割、「あまりそう思えない」と「思えない」を合わせた《《思えない》》(47.0%)は5割近くとなっている。

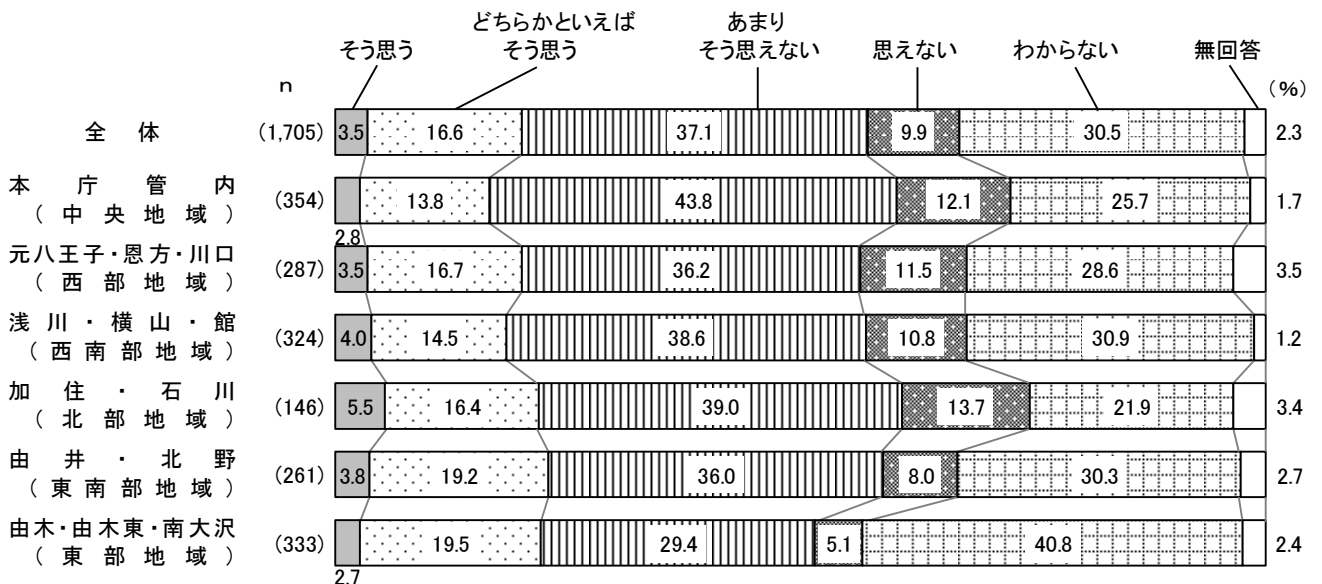
前回調査と比較すると、《《そう思う》》は14.0ポイント減少している。(図 4-25-1)

図 4-25-2 市内の産業活動－性別・年齢別



性別にみると、「思わない」は男性の方が女性よりも9.6ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「思わない」は65歳以上（49.1%）で5割弱と多くなっている。（図 4-25-2）

図 4-25-3 市内の産業活動－居住地域別



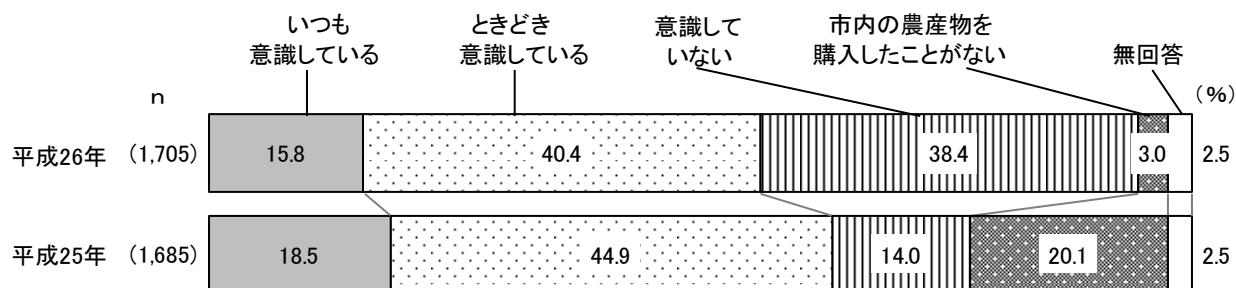
居住地域別にみると、「思わない」は本庁管内（中央地域）（55.9%）で5割台半ばと多くなっている。（図 4-25-3）

(26) 市内の農産物の購入

◇《意識している》が6割近く

問42 あなたは、市内の農産物（野菜・果物・花など）を意識して購入（消費）していますか。
（○は1つだけ）

図 4-26-1 市内の農産物の購入－全体、経年比較

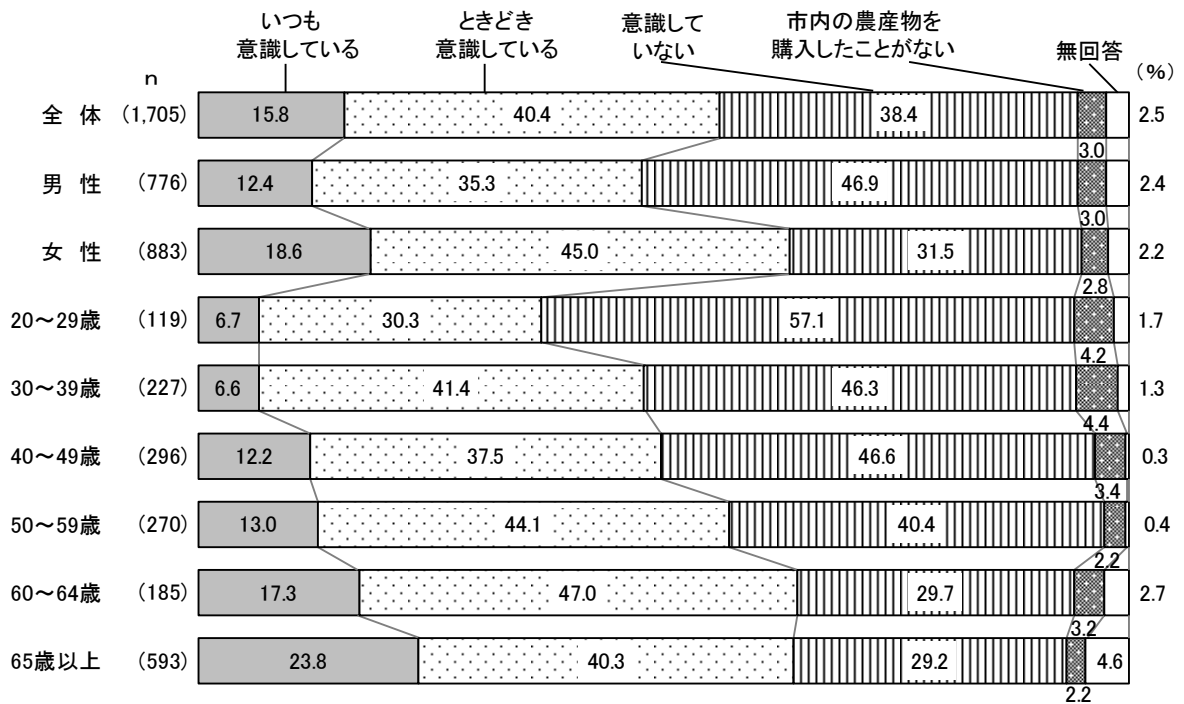


※平成25年の設問では、【あなたは、市内の農産物を購入したことがありますか】と「ある」と回答した人に対する【あなたは、市内の農産物を意識して購入していますか】の二段階設問であったが、今回の調査と比較できるよう1つにまとめている。

市内の農産物（野菜・果物・花など）を意識して購入（消費）しているか聞いたところ、「ときどき意識している」（40.4%）が最も多く約4割となっている。次いで「意識していない」（38.4%）、「いつも意識している」（15.8%）、「市内の農産物を購入したことがない」（3.0%）の順となっている。「いつも意識している」と「ときどき意識している」を合わせた、《意識している》（56.2%）は6割近くとなっている。

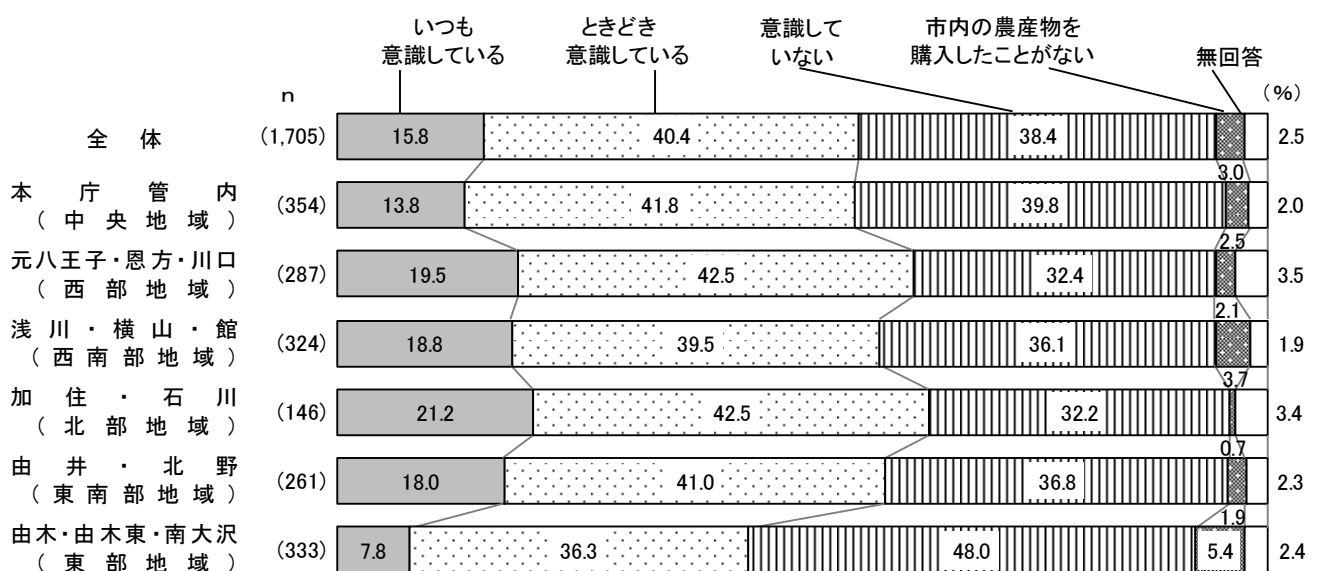
前回調査と比較すると、《意識している》は7.2ポイント減少している。（図 4-26-1）

図 4-26-2 市内の農産物の購入—性別・年齢別



性別にみると、《意識している》は女性の方が男性よりも15.9ポイント高くなっている。年齢別にみると、《意識している》は年代が上がるにつれて割合が多くなり、60～64歳（64.3%）と65歳以上（64.1%）では6割台半ばとなっている。（図 4-26-2）

図 4-26-3 市内の農産物の購入—居住地域別



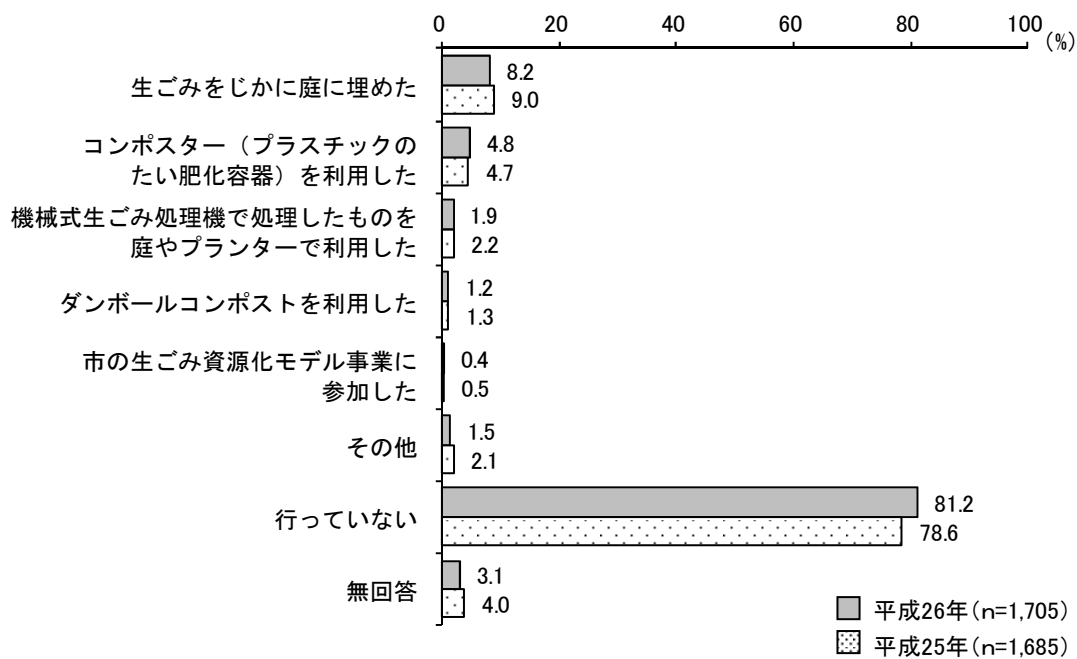
居住地域別にみると、《意識している》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（62.0%）と加住・石川（北部地域）（63.7%）で6割強と多くなっている。（図 4-26-3）

(27) 生ごみのたい肥化の有無

◇「行っていない」が8割強

問43 あなたの世帯は、この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行いましたか。
(○は1つだけ)

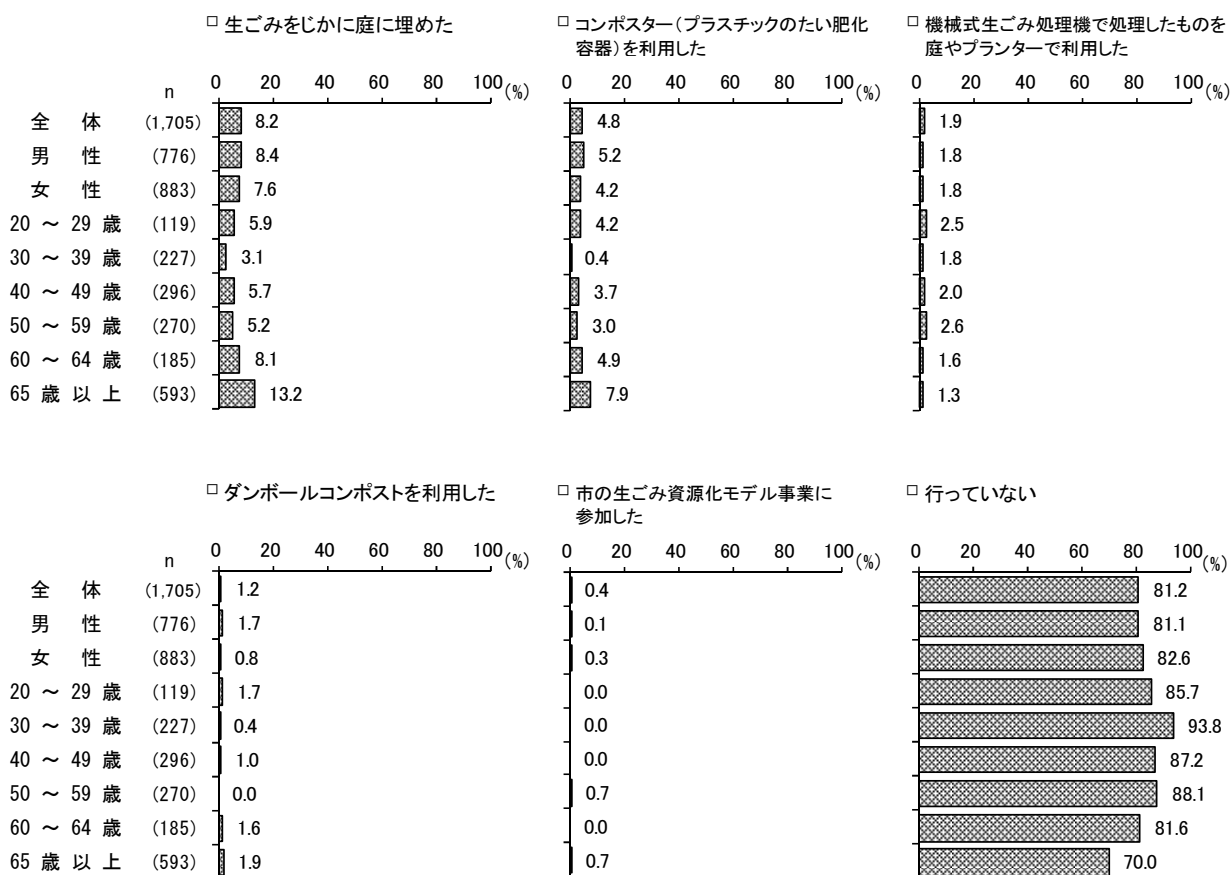
図 4-27-1 生ごみのたい肥化の有無－全体、経年比較



この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったか聞いたところ、生ごみのたい肥化を行った中では、「生ごみをじかに庭に埋めた」(8.2%)が1割近く、次いで「コンポスター（プラスチックのたい肥化容器）を利用した」(4.8%)、「機械式生ごみ処理機で処理したものを庭やプランターで利用した」(1.9%)、「ダンボールコンポストを利用した」(1.2%)、「市の生ごみ資源化モデル事業に参加した」(0.4%)の順となっている。一方、「行っていない」(81.2%)は8割強となっている。

前回調査と比較すると、「行っていない」は2.6ポイント増加している。(図 4-27-1)

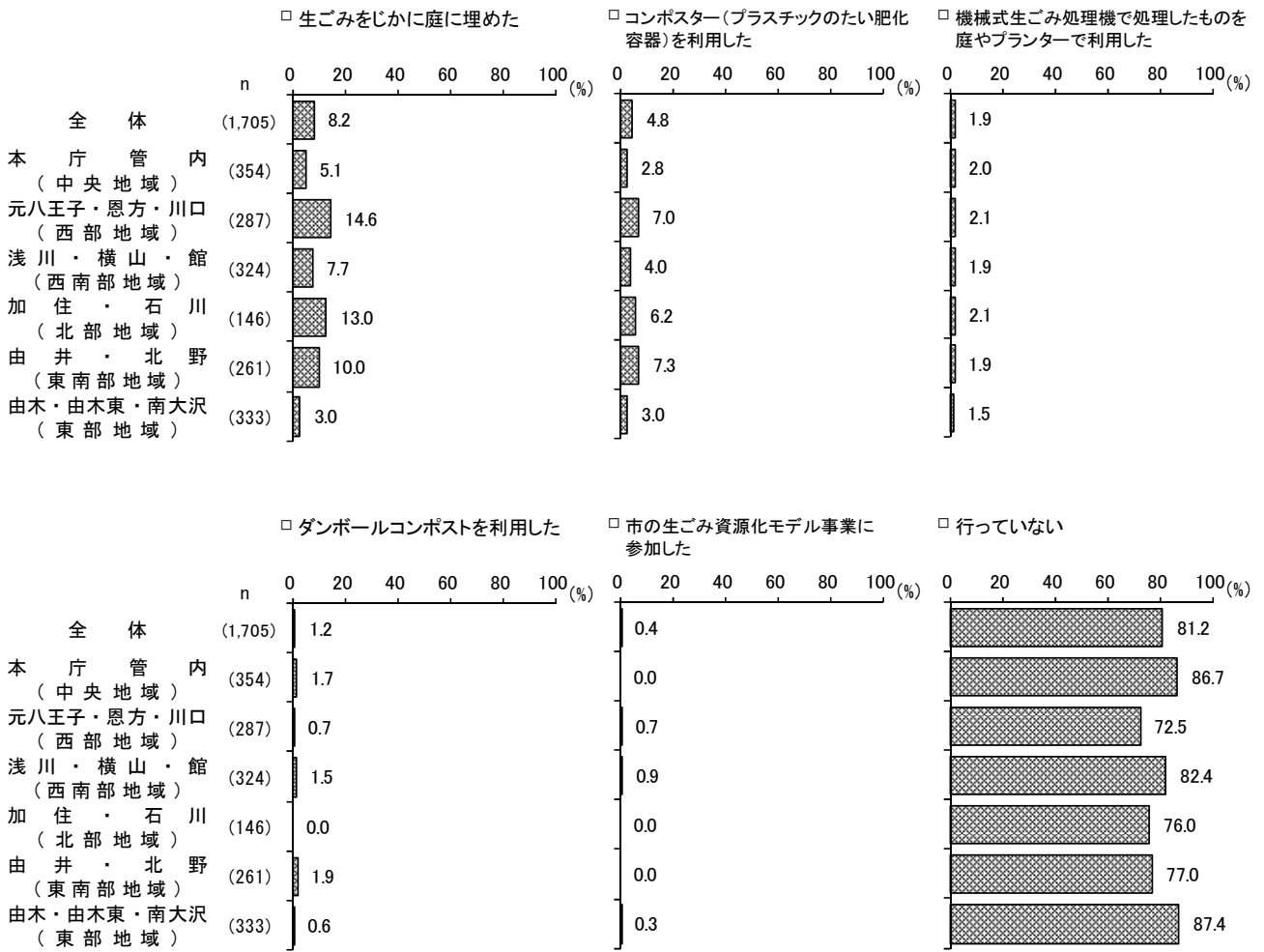
図 4-27-2 生ごみのたい肥化の有無－性別・年齢別



性別にみると、男性と女性で大きな差はみられない。

年齢別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は65歳以上（13.2%）で1割強と多くなっている。「行っていない」は30～39歳（93.8）で9割強と多くなっている。（図 4-27-2）

図 4-27-3 生ごみのたい肥化の有無－居住地域別



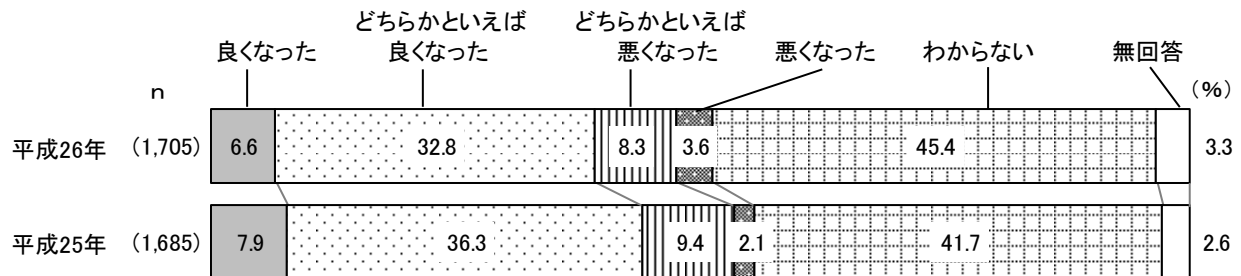
居住地域別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（14.6%）で1割台半ばと多くなっている。「行っていない」は本庁管内（中央地域）（86.7%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（87.4%）で9割近くと多くなっている。（図 4-27-3）

(28) 市の生活環境

◇《良くなった》が4割弱

問44 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べてどうなつたと思いますか。（○は1つだけ）

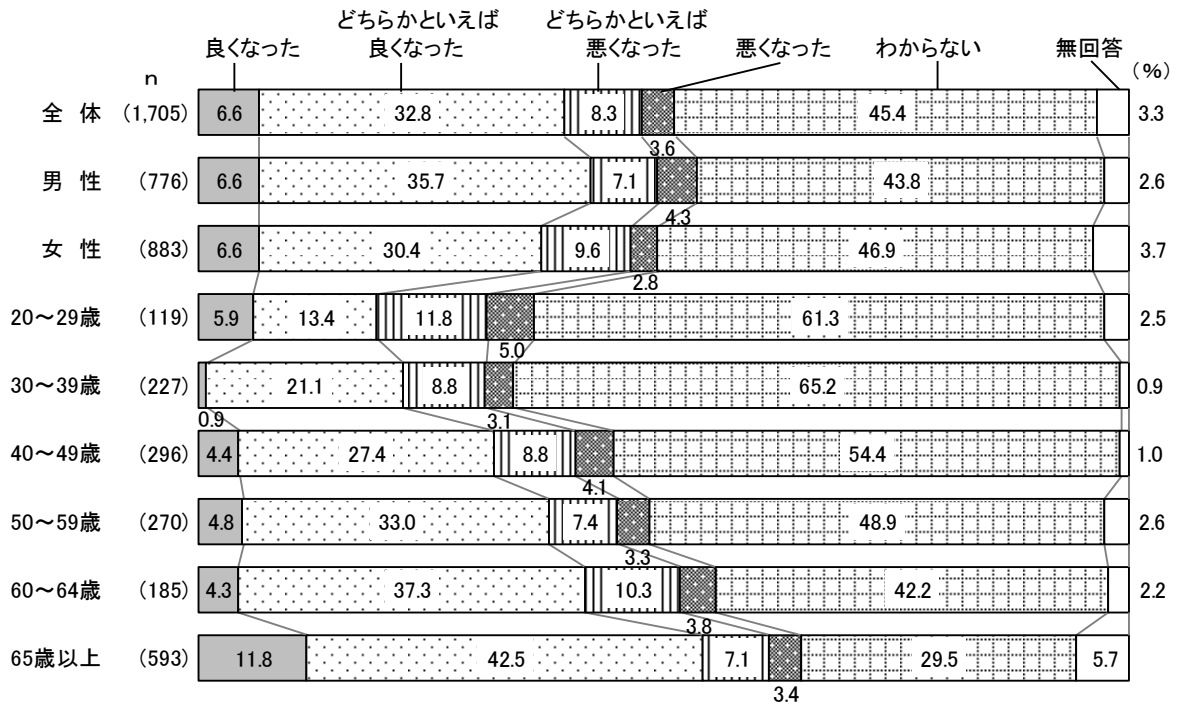
図4-28-1 市の生活環境—全体、経年比較



市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べてどうなつたと思うか聞いたところ、「どちらかといえば良くなった」（32.8%）が3割強となっている。次いで「どちらかといえば悪くなった」（8.3%）、「良くなった」（6.6%）、「悪くなった」（3.6%）の順となっている。「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた《良くなった》（39.4%）は4割弱、「どちらかといえば悪くなった」と「悪くなった」を合わせた《悪くなった》（11.9%）は1割強となっている。

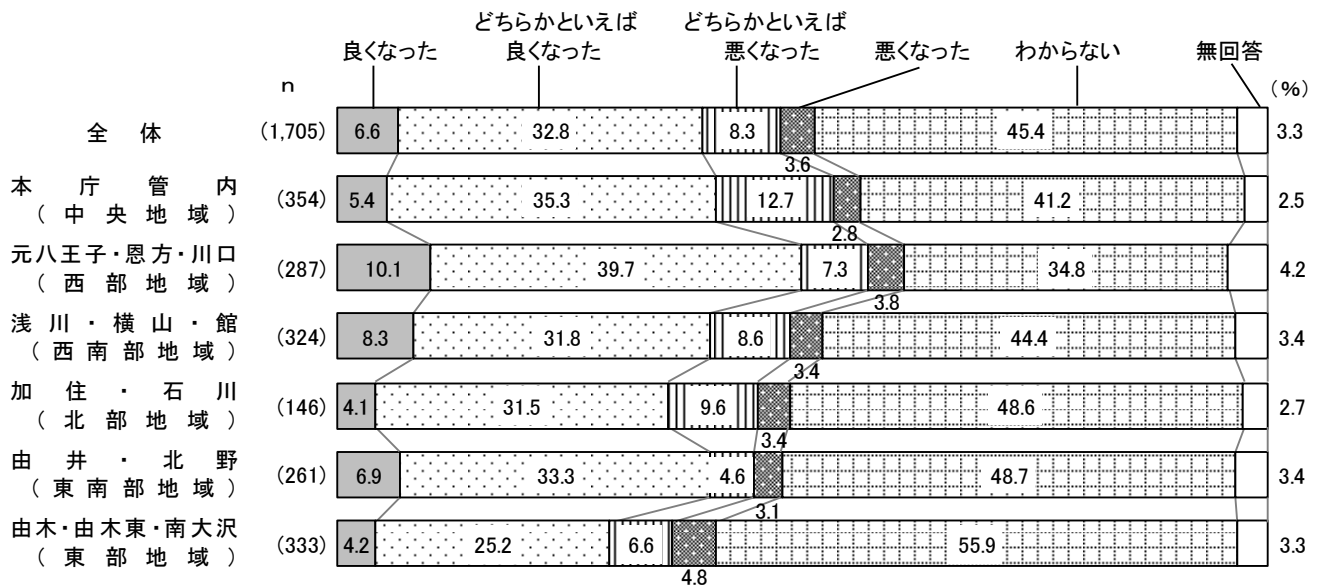
前回調査と比較すると、《良くなった》は4.8ポイント減少している。（図4-28-1）

図 4-28-2 市の生活環境－性別・年齢別



性別にみると、「良くなった」は男性の方が女性よりも5.3ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「良くなった」は年代が上がるにつれて割合が多くなり、65歳以上（54.3%）では5割台半ばとなっている。（図 4-28-2）

図 4-28-3 市の生活環境－居住地域別



居住地域別にみると、「良くなった」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（49.8%）で5割弱と多くなっている。（図 4-28-3）

(29) ワークライフバランスの周知度（1）

◇【あなたの望む優先度】は「家庭生活を優先」が3割弱

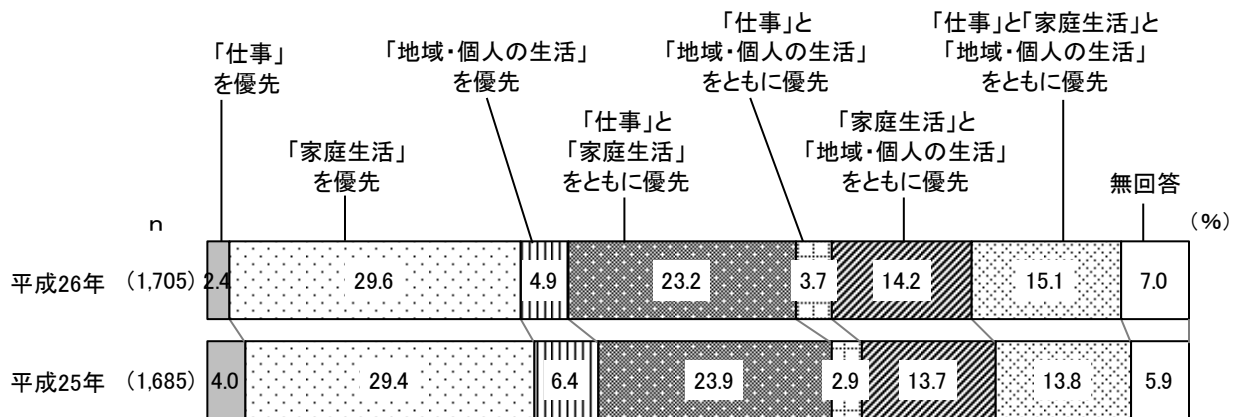
問45 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。（○は1つだけ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

(1) あなたの望む優先度

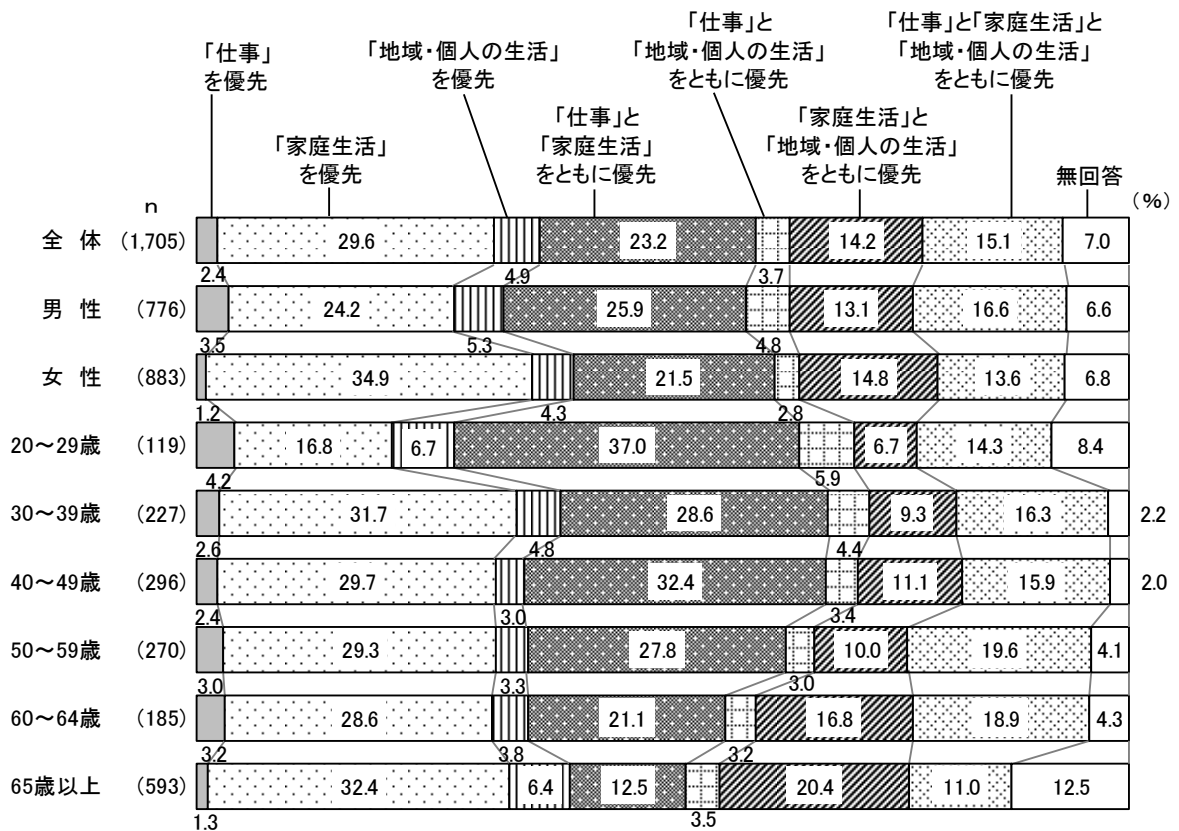
図 4-29-1 ①あなたの望む優先度－全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望する優先度について聞いたところ、『「家庭生活」を優先』（29.6%）が最も多く3割弱を占めている。次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（23.2%）、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（15.1%）、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（14.2%）の順となっている。

前回調査と比較すると、全体的に大きな変化はみられないが、『「仕事」を優先』と『「地域・個人の生活」を優先』は割合が低くなっている。（図 4-29-1）

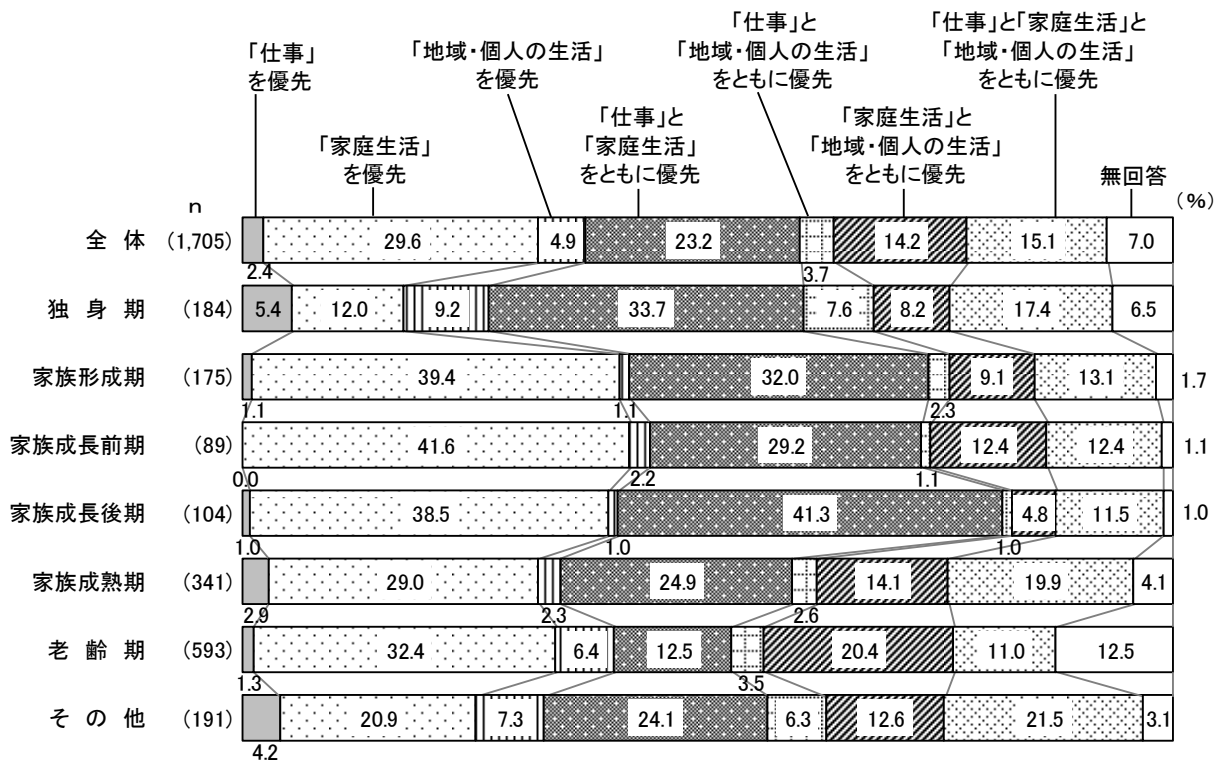
図 4-29-2 ①あなたの望む優先度—性別・年齢別



性別にみると、『「家庭生活」を優先』は女性の方が男性よりも10.7ポイント高くなっている。

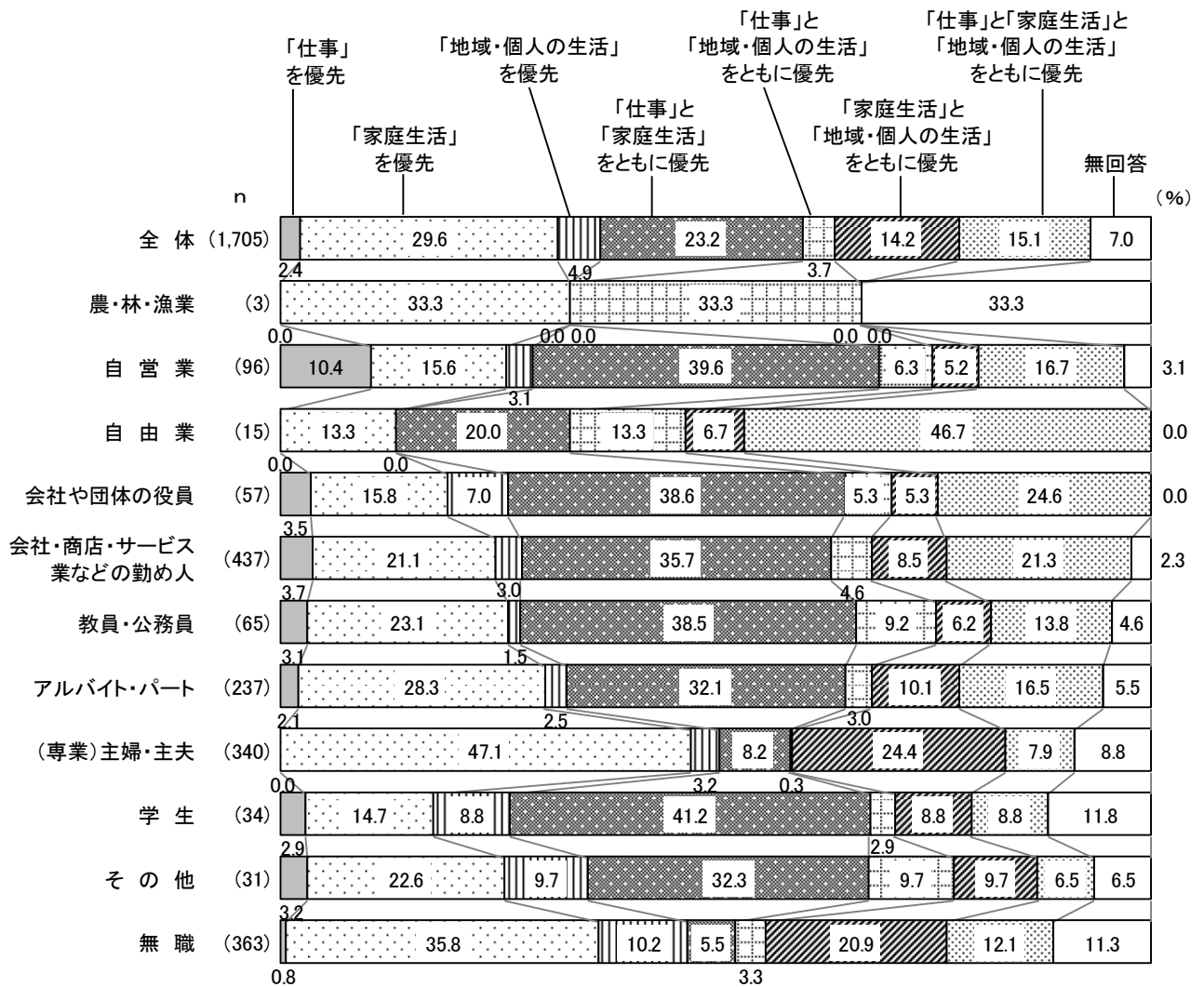
年齢別にみると、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は20～29歳（37.0%）で4割近くと多くなっている。『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』は年代が上がるにつれておおむね割合が多くなり、65歳以上（20.4%）では約2割となっている。（図 4-29-2）

図 4-29-3 ①あなたの望む優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『「家庭生活」を優先』は家族形成期（39.4%）と家族成長前期（41.6%）で4割前後と多くなっている。『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は家族成長後期（41.3%）で4割強と、他のライフステージと比較して多くなっている。、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』は老齢期（20.4%）で約2割と多くなっている。（図4-29-3）

図 4-29-4 ①あなたの望む優先度－職業別



職業別にみると、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』は自由業 (46.7%) で5割近くと多くなっている。『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は自営業 (39.6%)、会社や団体の役員 (38.6%)、会社・商店・サービス業などの勤め人 (35.7%)、教員・公務員 (38.5%)、アルバイト・パート (32.1%) 及び学生 (41.2%) で多く、特に学生では4割強となっている。『「家庭生活」を優先』は (専業)主婦・主夫 (47.1%) で5割近くと多くなっている。(図4-29-4)

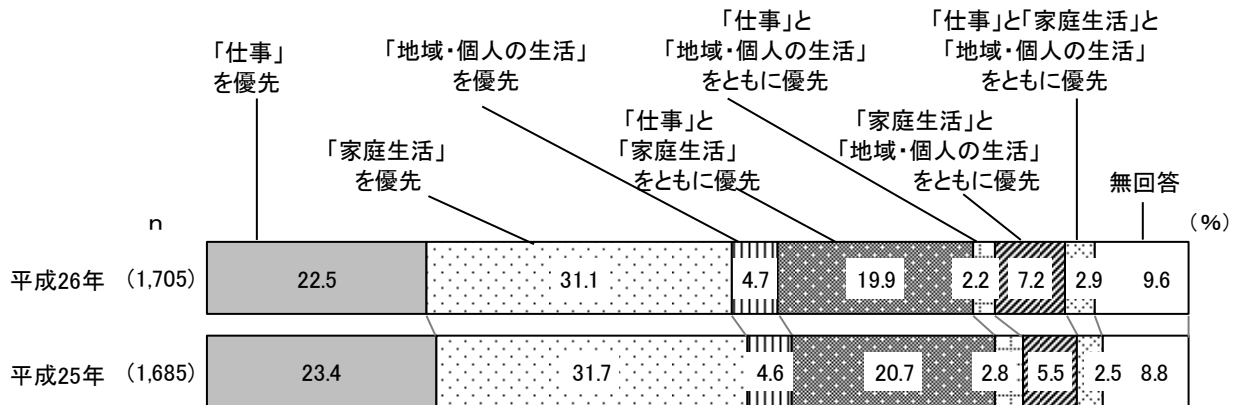
(29) ワークライフバランスの周知度 (2)

◇【実際の優先度】は「家庭生活を優先」が3割強

問45 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。（○は1つだけ）

(2) 実際の優先度

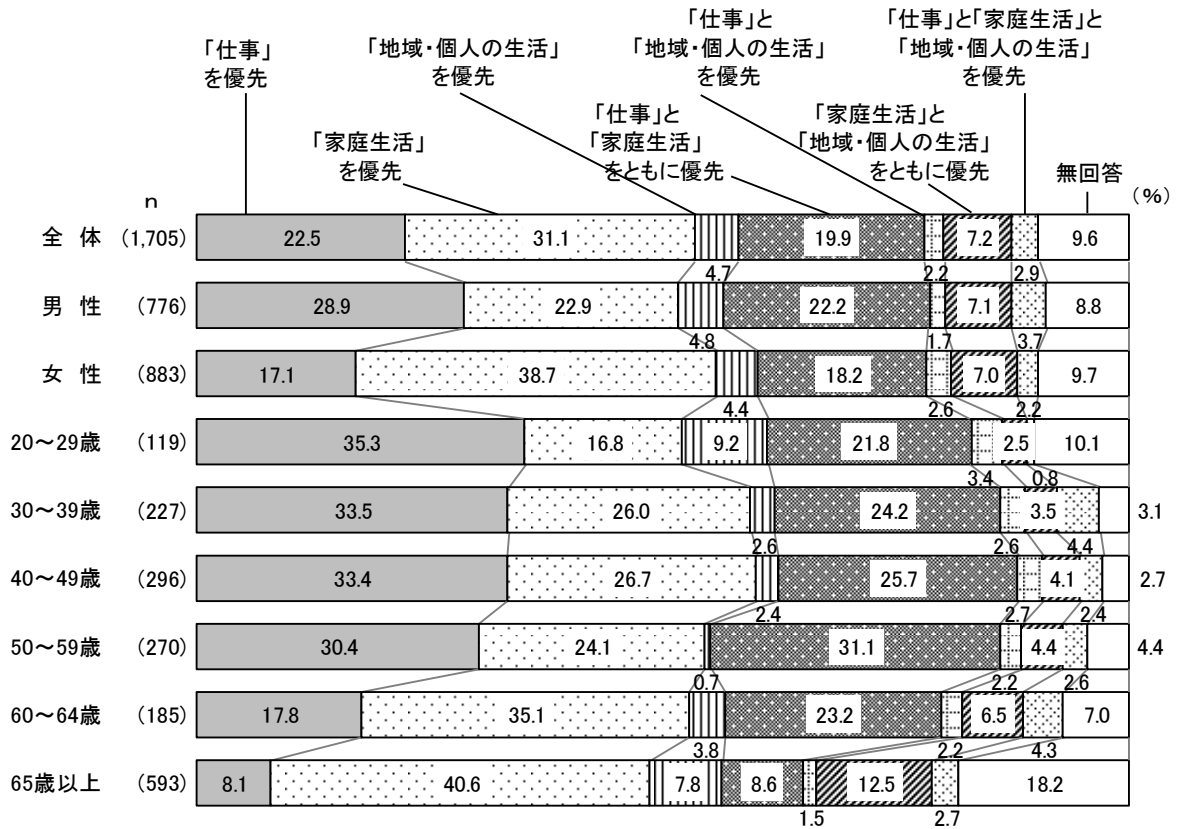
図 4-29-5 ②実際の優先度－全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の実際の優先度について聞いたところ、『「家庭生活」を優先』(31.1%)が最も多く3割強を占めている。次いで、『「仕事」を優先』(22.5%)、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』(19.9%)、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』(7.2%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、全体的に大きな変化はみられないが、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』は割合が多くなっている。(図4-29-5)

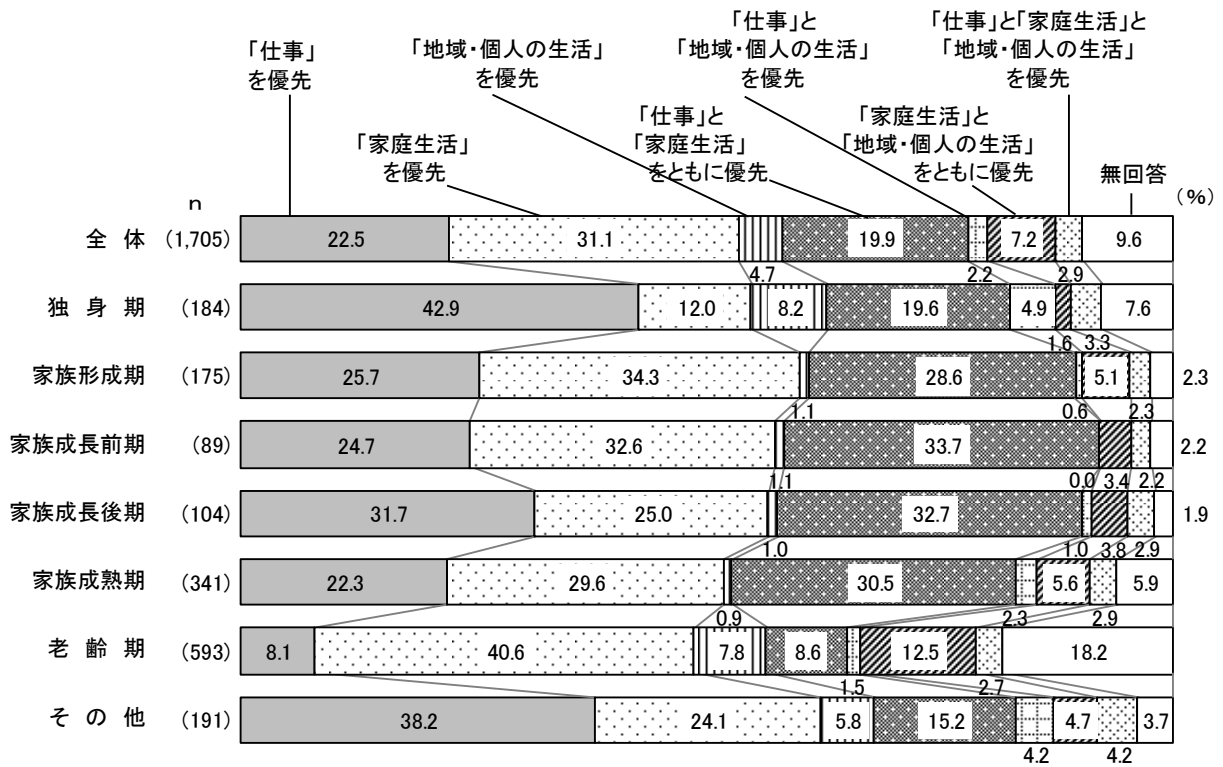
図 4-29-6 ②実際の優先度－性別・年齢別



性別にみると、『「仕事」を優先』は男性の方が女性よりも11.8ポイント高く、『「家庭生活」を優先』は女性の方が男性よりも15.8ポイント高くなっている。

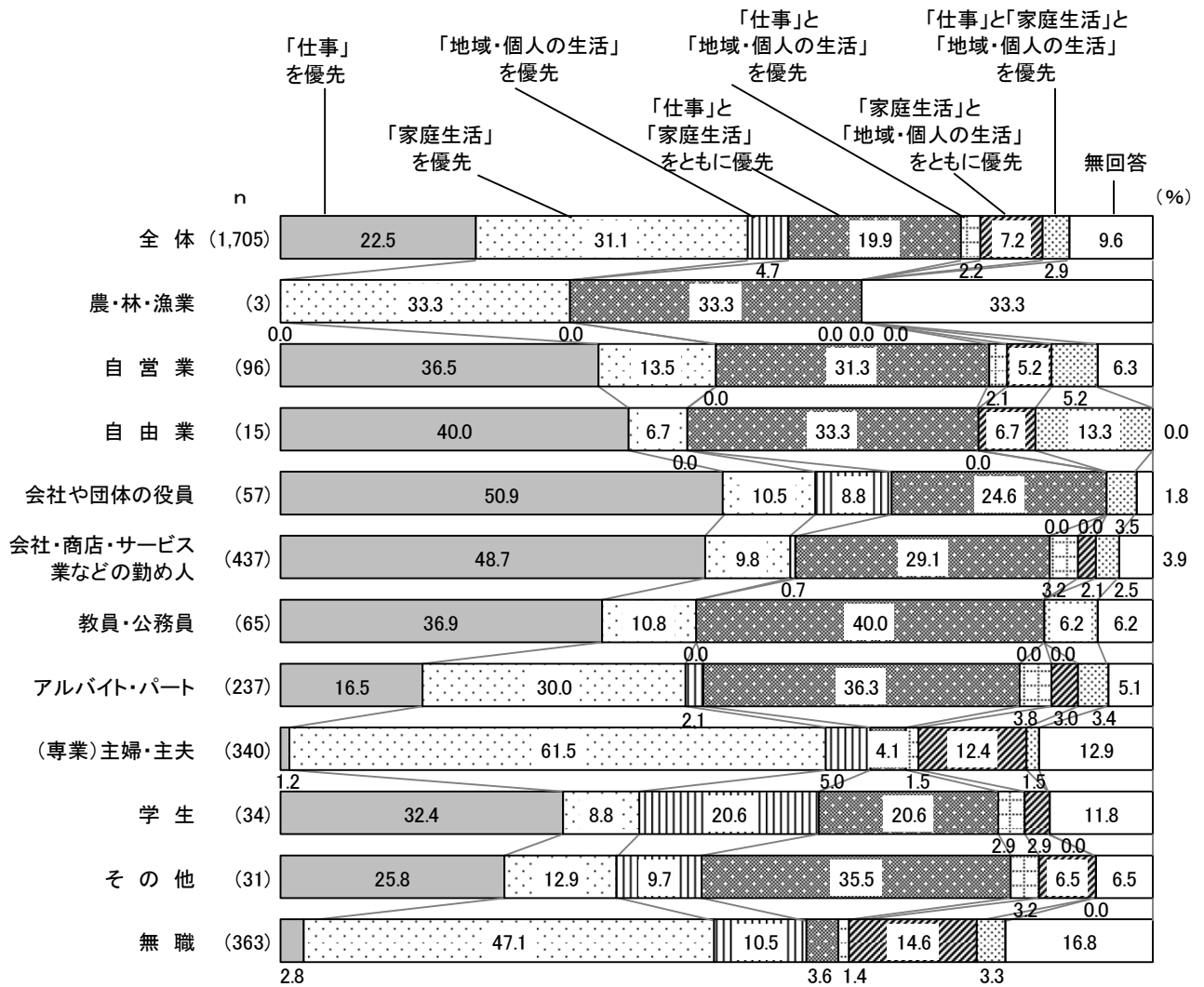
年齢別にみると、『「仕事」を優先』は年代が若いほど割合が多くなり、20～29歳（35.3%）では3割台半ばを占めている。『「家庭生活」を優先』は65歳以上（40.6%）で約4割と多くなっている。（図4-29-6）

図 4-29-7 ②実際の優先度－ライフステージ別



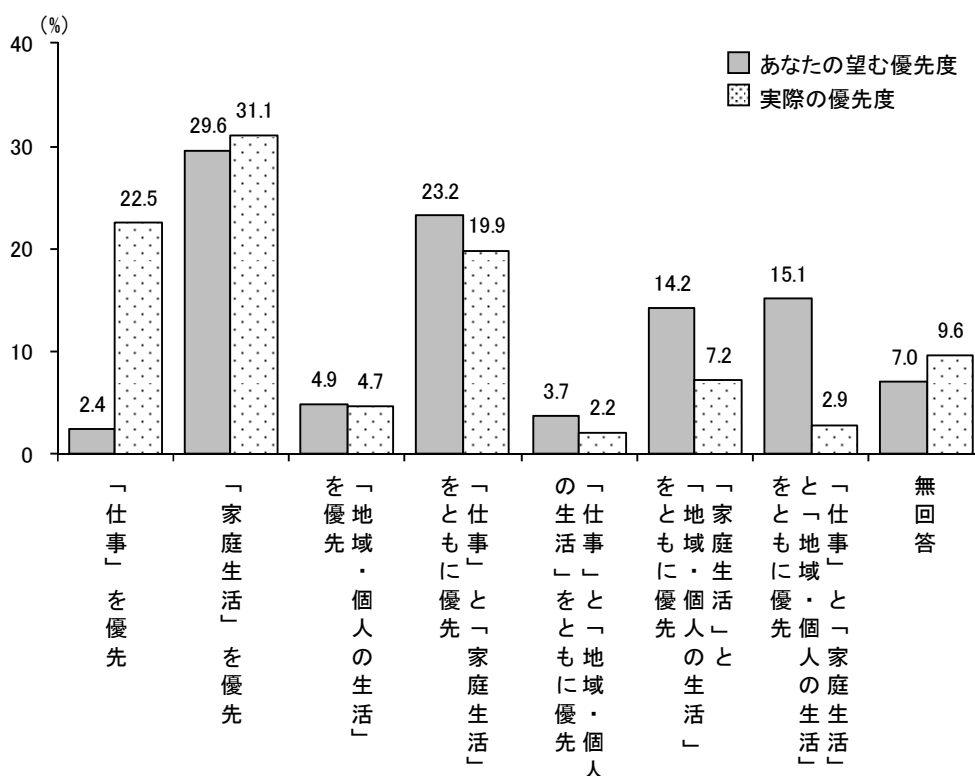
ライフステージ別にみると、『「仕事」を優先』は独身期（42.9%）で4割強と、他のライフステージと比較して最も多くなっている。『「家庭生活」を優先』は老齢期（40.6%）で約4割と、他のライフステージと比較して多くなっている。『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は家族成長前期（33.7%）と家族成長後期（32.7%）で3割強と多くなっている。また、家族成熟期の『「家庭生活」を優先』（29.6%）と『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（30.5%）はほぼ同じ割合となっている。（図4-29-7）

図 4-29-8 ②実際の優先度－職業別



職業別にみると、『「仕事」を優先』は会社や団体の役員（50.9%）で約5割と多くなっている。『「家庭生活」を優先』は（専業）主婦・主夫（61.5%）で6割強と多くなっている。『「地域・個人の生活」を優先』は学生（20.6%）で約2割と多くなっている。また、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は教員・公務員（40.0%）で4割と多くなっている。（図4-29-8）

図 4-29-9 望む優先度と実際の優先度



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望する優先度と実際の優先度について比較したところ、『「仕事」を優先』については【あなたの望む優先度】(2.4%)よりも【実際の優先度】(22.5%)が高くなっていることが顕著である。一方、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』については【あなたの望む優先度】(15.1%)よりも【実際の優先度】(2.9%)が低くなっている。同様に、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』についても【あなたの望む優先度】(14.2%)よりも【実際の優先度】(7.2%)が低くなっており、ワーク・ライフ・バランスを望んでいるが、実践が難しい状況であるということがうかがえる。(図 4-29-9)

図 4-29-10 望む優先度と実際の優先度の詳細

		(%)								
		あなたの望む優先度								
		「仕事」を優先	「家族生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と「家庭生活」	の「仕事」と「地域・個人	を「地域・個人の生活」	を「家族生活」と	を「仕事」と「地域・個人	無回答
		調査数 (n)								
全 体		1,705	2.4	29.6	4.9	23.2	3.7	14.2	15.1	7.0
実際の優先度	「仕事」を優先	383	6.8	17.8	3.7	42.0	5.5	7.0	17.2	-
	「家族生活」を優先	530	1.1	58.9	3.6	9.1	0.9	18.1	6.4	1.9
	「地域・個人の生活」を優先	80	2.5	21.3	36.3	10.0	2.5	16.3	11.3	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	339	0.3	16.5	0.9	46.9	2.9	7.4	24.5	0.6
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	37	-	5.4	16.2	13.5	37.8	5.4	21.6	-
	「家族生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	122	-	14.8	4.9	1.6	4.1	58.2	15.6	0.8
	「仕事」と「家族生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	50	-	6.0	2.0	10.0	6.0	6.0	68.0	2.0
	無回答	164	3.7	17.7	3.0	4.3	1.8	3.0	2.4	64.0

(注) は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望する優先度に対する実際の優先度の関係についてみたところ、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』を希望しているが、実際には『「仕事」を優先』している人が4割強(42.0%)となっている。

一方、『「仕事」を優先』を除いて、希望する優先度に対する実際の優先度の割合は高くなっている。特に、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』を希望している人は、実際に『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』しており、7割近く(68.0%)となっている。(図4-29-10)

(30) 市の相談体制の満足度

◇《《そう思う》》が約3割

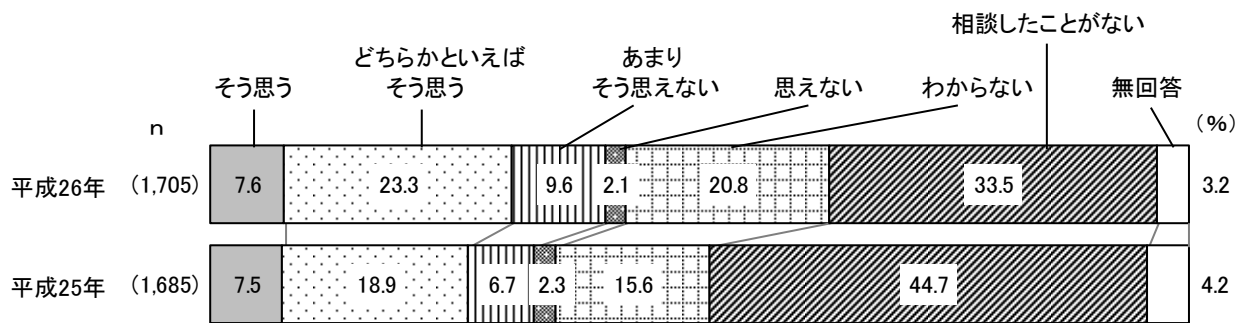
問46 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。(○は1つだけ)

※市では、専門機関・専門家と連携し、次のような相談を行っています。

- 人権、女性福祉、女性のための相談
- 法律、司法書士法律、不動産、登記、相続・遺言等暮らしの手続
- 年金・雇用保険・労働条件
- 交通事故 ○税金、行政 ○消費生活
- 外国人のための生活相談
- 高齢者総合
- ひとり親家庭、子ども家庭総合、専門家による子育て相談、総合教育相談室、こども電話相談
- あなたの心の相談室、こころの健康相談、就職などの心の悩み相談
- H I Vに関する相談、保健福祉・栄養相談、理学療法士による健康相談
- 団塊・シニア世代の地域参加支援
- 住まいのなんでも相談、建築に関する無料相談

※これらの相談の「日時・会場・問い合わせ先」については、広報はちおうじの「相談カレンダー」(毎月1日号に掲載)や、市ホームページをご覧ください。

図 4-30-1 市の相談体制の満足度—全体、経年比較

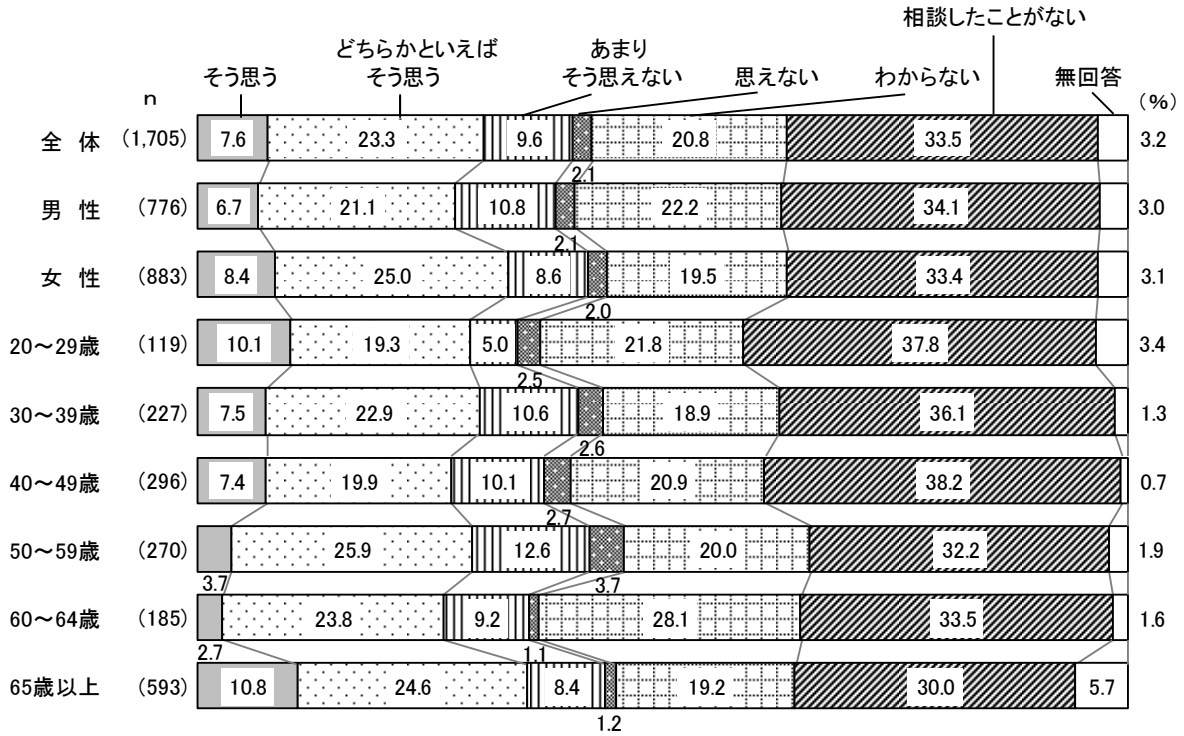


※平成25年の設問では、【あなたは、市に相談したいことはありますか】と「ある」と回答した人に対する【あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか】の二段階設問であったが、今回の調査と比較できるよう1つにまとめている。

市が実施する相談体制は充実していると思うか聞いたところ、相談した中では、「どちらかといえばそう思う」(23.3%)が2割強となっている。次いで「あまりそう思えない」(9.6%)、「そう思う」(7.6%)、「思えない」(2.1%)の順となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《《そう思う》》(30.9%)は約3割、「あまりそう思えない」と「思えない」を合わせた《《思えない》》(11.7%)は1割強となっている。一方、「相談したことがない」(33.5%)は3割強となっている。

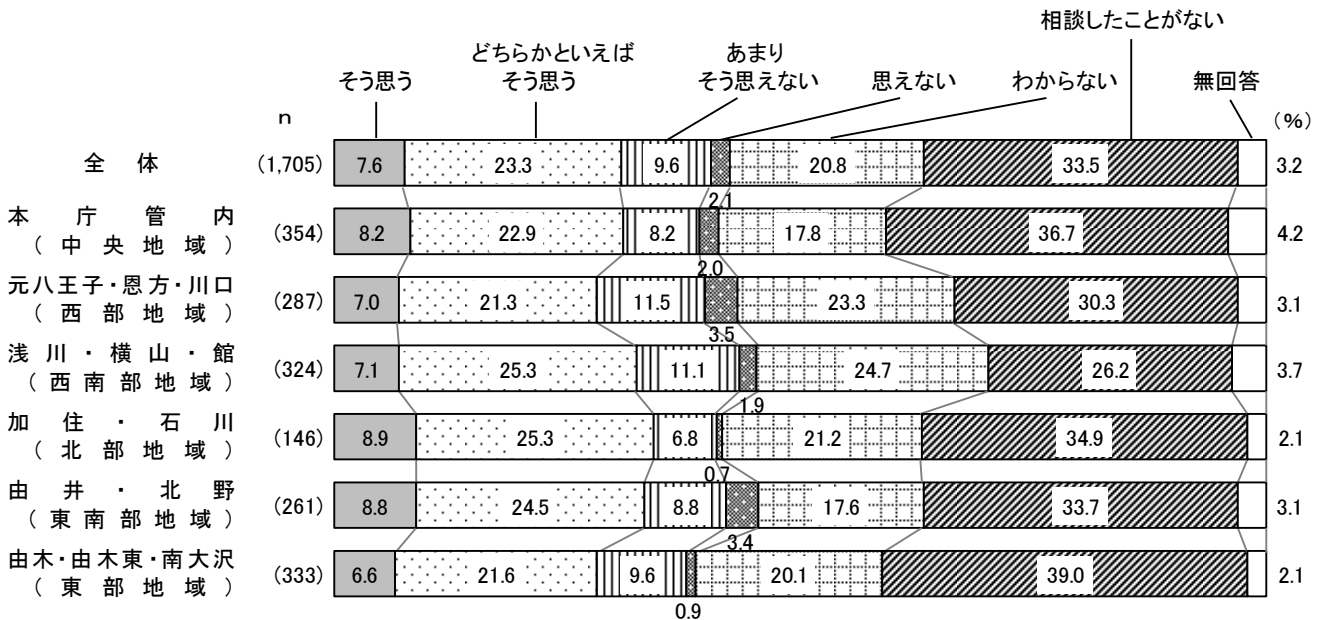
前回調査と比較すると、《《そう思う》》は4.5ポイント増加している。(図 4-30-1)

図 4-30-2 市の相談体制の満足度—性別・年齢別



性別にみると、「そう思う」は女性の方が男性よりも5.6ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「そう思う」は65歳以上（35.4%）で3割台半ばと多くなっている。
 (図 4-30-2)

図 4-30-3 市の相談体制の満足度—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は加住・石川（北部地域）（34.2%）で3割台半ばと多くなっている。一方、「相談したことがない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（39.0%）で4割弱と多くなっている。(図 4-30-3)